木島平村学校運営協議会

コミュニティ・スクール推進事業報告書

〔平成２８年度　第３年次報告〕

平成２９年３月

長野県下高井郡木島平村立木島平小学校・木島平中学校

木島平村学校運営協議会・木島平村教育委員会

目　　次

一　はじめに　1
「地域が学校に、学校が地域に」　教育長　内堀　幸夫
「地域とともにある学校づくりの推進を」　会　長　阿部　　弘

二　会議記録　＊ＣＲ：Community Room の略　会場
1　ＣＳ推進委員会開催記録　2
第１回ＣＳ推進委員会　平成２８年　４月２１日（木）午後６時　小学校ＣＲ　2
第２回ＣＳ推進委員会　平成２８年　５月　２日（月）午後６時　小学校ＣＲ
第３回ＣＳ推進委員会　平成２８年　６月　９日（木）午後６時　小学校ＣＲ
第４回ＣＳ推進委員会　平成２８年　７月　５日（火）午後６時　小学校ＣＲ　3
第５回ＣＳ推進委員会　平成２８年　８月　２日（火）午後６時　小学校ＣＲ
第６回ＣＳ推進委員会　平成２８年　９月１２日（月）午後６時　小学校ＣＲ
第７回ＣＳ推進委員会　平成２８年１０月　６日（木）午後６時　小学校ＣＲ
第８回ＣＳ推進委員会　平成２８年１１月１０日（木）午後６時　小学校ＣＲ　4
第９回ＣＳ推進委員会　平成２８年１２月　８日（木）午後６時　小学校ＣＲ
第 10 回ＣＳ推進委員会　平成２９年　１月１２日（木）午後６時　小学校ＣＲ
第 11 回ＣＳ推進委員会　平成２９年　２月　８日（木）午後６時　小学校ＣＲ　5
第 12 回ＣＳ推進委員会　平成２９年　３月　２日（木）午後６時　小学校ＣＲ
2　学校運営協議会記録　6
第１回学校運営協議会　平成２８年　５月３０日（月）午後３時３０分　役場会議室
第２回学校運営協議会　平成２９年　２月２６日（木）午後３時３０分　役場会議室

三　事業報告　★は「六資料」を参照　7
1　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平★　7
2　小中学校ＥＳＤ活動への支援並びに地域講師の紹介　9
3　木島平型教育視察研修の受け入れ　10
4　信州型コミュニティスクール推進セミナー　～学社連携意見交換会～参加　10
5　平成２８年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム（長野会場）参加★　10
6　村と協定する大学の分類整理★　10
7　小中学校学習環境づくりとしてのボランティア募集、人材リストづくり　10

四　本年度事業推進の成果と課題・反省　11
1　第５回コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平について
2　木島平型教育推進について
3　地域支援ボランティア活動について
4　その他の活動、組織全般について

五　平成２９年度　学校運営協議会事業（案）　12

六　資料　14
1　コミュニティ・スクールだより　第１１号・第１２号　15
2　第５回コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平研修報告書　23
3　平成２８年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム参加報告　89
4　村と協定する大学分類一覧表　94
5　木島平村立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則　95
6　平成２８年度木島平村学校運営協議会　委員名簿　98

一　はじめに

地域が学校に、学校が地域に

教育長　内堀　幸夫

学校と地域がパートナーとして連携・協働するために、学校は「地域に開かれた学校」から一歩踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという未来像を地域と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へと転換していくことが大切だと思っています。学校運営協議会制度は学校と地域が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換していく仕組みです。木島平村の学校運営協議会制度も３年目を終え、「地域とともにある学校」づくりがゆるやかでありますが確実に進んでいるものと感じています。

一方、これまでは、学校が地域に支援をお願いし、地域の支援に感謝することで信頼関係が築かれてきましたが、いつまでも学校が一方的に支援してもらうだけでは、関係は長続きしないものです。学校が地域にできることは何か。お互いがお互いを必要とする関係を築いていくことが長く続いていくには必要です。「学校から地域へ」を意識することで、子どもたちの地域での存在感が増し、子ともたちを一緒に育てるという感覚が大きくなっていくことが一番大事かなと思います。こうした学校運営協議会の活動を通して、地域の大人と子どもたちの交流が自然な形で展開されることがふるさと木島平をこころに刻む教育の実践に繋がり、ふるさとへの誇りと愛着を育むものと考えています。

地域や保護者の皆様のご理解とご協力を得て学校運営協議会の活動が発展していることに対して厚く御礼を申し上げます。今後も、地域のみなさまや子どもたちとともに進める「地域とともにある学校」づくりにご支援、ご協力をお願いいたします。

地域とともにある学校づくりの推進を

学校運営協議会会長　阿部　弘

小学校の運動会でした。テントでお茶をいただきました。係の児童の本当に心のこもった挨拶をしながらお茶を届けていました。嬉しくかつ驚きました。今回のコミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平の熟議では、中学生が理路整然と大人にグループ討議の説明をする姿をみました。小学校の宿泊体験学習では、東京大学において学生の皆さんに日頃の学習活動等の説明を堂々と述べたそうです。中学校では、地域施設を訪問して学び交流し、協同活動する姿もあります。

第３回の研修会では、講師の先生から「子どもたち自らが、学び発信できるように」という助言をいただきました。コミュニティ・スクールがスタートして５年、子どもたちには、確かな発進力が育っています。

コミュニティ・スクールだより第１２号では、地域の方々の支援をもとに展開された、多方面のふるさと学習が報告されています。ふるさと学習の取り組みやアイディアについては、研修会の熟議の中でも討議されてきました。年々中身の充実がみられます。また、学校の呼びかけに応じて、家庭科や音楽、冬期のスキー学習への支援に、地域の方にボランティア参加していただくことも実現できました。

学校とこの村全体を学習ステージにして、子どもたちと地域の私たちが共学を重ねることで、子どもたちには未来を見据えた視野が広がり、私たちには生き甲斐の幅が広がります。ゆっくりと着実に前進を目指して。

二　会議記録

１　ＣＳ推進委員会開催記録

第１回　ＣＳ推進委員会	平成２８年４月２１日（木）　午後６時～

◇協議

①平成２８年度木島平村学校運営協議会委員（案）ならびに役員（案）

②第１回　学校運営委員会　の内容について

③第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平について

◇その他

①生涯学習係との連携について⇒地域や団体の要望と、小中学校の要望をすりあわせ、学校と地域とのパイプ役をしていく。

第２回　ＣＳ推進委員会	平成２８年５月２日（月）　午後６時～

◇協議

①　第１回　学校運営協議会について

②　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平　について

③　具体的な支援事業の推進について

・中学校学習支援

・小学校クラブ活動支援

④　その他

・各大学と木島平村との関連については、各担当窓口との連絡を密にしておきたい。特に中学校との関わりについては、長期のスパンで進めていきたい。

◇その他

①生涯学習係との連携について

・人材リストづくり

・地域や団体の願いと小中学校の願いを摺り合わせていく。

第３回　ＣＳ推進委員会記録	平成２８年６月９日（木）　午後６時～

◇　協議

①　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平　について

１）基本的日程について

⇒８月２０日（土）　９：００～１５：３０　途中昼休み１時間を入れる。

２）テーマ

木島平で学べること・やりたいこと ～９年間の木島平ふるさと学習をみんなで考えよう～

３）その他

②　具体的な支援事業の推進について

○中学校学習支援

○小学校クラブ活動支援

◇　その他

①生涯学習係との連携について

第４回　ＣＳ推進委員会記録　　平成２８年７月５日（火）　午後６時～

◇　協議

①　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平　について

②　その他

〇夏休みから二学期にかけての中学校での取り組み

〇調布市との関係で

〇小学校より

◇　その他

①　村内小中学校研修視察訪問報告

第５回　ＣＳ推進委員会記録　　平成２８年８月２日（火）　午後６時～

◇　協議

①　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平　について

②　その他

・規則一部改正について（本山）

◇　その他

・佐藤ひらりスペシャルライブについて（関）

・研修視察受け入れについて

・信州型コミュニティスクール推進セミナーでの発表

・第１１回小中一貫教育全国サミットｉｎ武蔵村山

第６回　ＣＳ推進委員会記録　　平成２８年９月１２日（月）　午後６時～

◇　協議

①　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平の反省

〇日時・日程　　〇研修会・実践報告

〇熟議　　〇コミュニティ・スクールの位置づけ

〇その他

②　今後の方向について

〇熟議の結果報告（１０月）

〇今後のボランティア支援活動について

◇　その他

・第１１回小中一貫教育全国サミットｉｎ武蔵村山

⇒１０月２１日（金）・２２日（土）…村民祭のため中止

・教育視察の受け入れ・日程の調整…京丹波町の現場の先生方（１２名ほど）

第７回　ＣＳ推進委員会記録　　平成２８年１０月６日（木）　午後６時～

◇　協議

①　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平　実施報告書　発行について

②　ユネスコスクール加入について

・早急に結論を出さないで、次回も継続協議とする。

③　ボランティア支援活動について

④　「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム　長野会場　参加について

◇　その他

①　京丹波町教育委員会視察研修受け入れについて

第８回　ＣＳ推進委員会記録　　平成２８年１１月１０日（木）午後６時～

◇　協議
①　小中学校でのＥＳＤに関する教育活動について
②　ボランティア支援活動について
③　その他
○報告
１）　「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム　長野会場　参加について
２）　京丹波町教育委員会視察研修受け入れについての報告（小中学校長）

◇　その他
①ポスター等の指導で誤字の注意を（阿部）
②ペットボトルでの米販売について（阿部）
③東京大学勝野ゼミの学生の視察研修（山屋・関）
④教育委員、社会教育委員、ＣＳ推進委員会との合同懇親会（本山）
⑤村教職員会秋季総会について（山屋）
⑥観光地域づくりシンポジウム（渡辺）
⑦次世代サポート事業で、パワースポットづくり（池田）

第９回　ＣＳ推進委員会記録　　平成２８年１２月８日（木）午後６時～

◇　協議
①　冬休み中の子どもの生活とコミュニティ・スクールについて
②　教育委員会との合同会議について
③　小中学校でのＥＳＤに関する教育活動について

◇　その他
①報告
○平成２８年度　地域とともにある学校づくり推進フォーラム（長野会場）
○木島平村と協定している大学について（芳川）
②　その他
○北信地区学校支援コーディネーター研修会について
○見守り活動補助金申請について（池田）
⇒候補から外れた。
○ペットボトルでの米販売について（池田）
⇒信濃毎日新聞社に提案したところ、すでに他で実施しているとのこと。
○ＰＴＡの役員改選について（渡辺）

第１０回　ＣＳ推進委員会記録　　平成２９年１月１２日（木）午後６時～

◇　協議
①　第２回学校運営協議会について（事務局）
⇒資料の内容で承認された。
②　年間活動の反省
③　次年度の活動予定案（別紙提案）
⇒資料の内容をたたき台にして、検討し、最終的には委員にアンケートをとって次回の推進委員会までに再提案する。

◇　その他
①報告 ⇒特になし
②　その他
・村の歴史カルタの読み札一般公募について（土屋係長）
⇒小中学生も取り組みたいので資料を。締め切りは１月２７日。２月中に出来上がる予定。
・小学校で困っていること…口座の引き落とし手数料値上げについて。
⇒給食費は個人負担にならず、全体会計でまかなえる。学級費については、後日対応。

第１１回　ＣＳ推進委員会記録　　平成２９年２月８日（水）午後６時～

◇　協議

①　年間の反省、次年度の方向

・アンケート結果に基づいた提案内容を検討した。その結果、
⇒成果と、課題・反省の２項目とする。
⇒実施した項目ごとにまとめる。ことになった。

・次年度できそうな活動例に対しては、提案番号の４，５，６，７を中心にすすめ、その他の件については、協力、参画、学校の領域として分け、案として乗せる。

②　第２回学校運営協議会について

１）次第⇒前回に決定した通りで執行していく。

２）平成２８年度小学校・中学校学校評価及び平成２９年度学校経営ビジョンについて（各小中学校長）

・小中学校の学校自己評価や保護者アンケートについては、コンパクトに分かりやすくまとめて報告する。

・平成２９年度学校経営ビジョンについては、基本的には小中で一つにまとめて提案する。

◇　その他

①２９年度年間行事予定について
⇒小学校、中学校、要害学習係、子育て支援係等の年間行事と摺り合わせて、次年度の予定を立てる。

②生涯学習推進者実践講座【北信】開催について（公民館長）
⇒２９年度は木島平村が当番。開催期日、日程、内容については、今後教育委員会事務局内で詰めていく。

第１２回　ＣＳ推進委員会記録　　平成２９年３月２日（水）午後６時～

◇　協議

①　コミュニティ・スクールだより　第１２号　発行について
⇒一部修正を加えて、提案のように志向する。

〇配布先

・小中学校はＰＤＦ版を職員数、家庭数を印刷（白黒）の上３月６日に配布

・村の３月回覧板配布（手配：本山）

②　推進事業報告書作成について

〇体裁

・本文…Ａ４版両面刷り左綴じ（別紙：目次　参照）

・表紙…Ａ３版、業者印刷、製本

〇発行部数　１００部

・学校運営協議会、教育委員会、理事者（３１）、小中学校職員（４１）、議員（８）、研修会講師（５）、保存資料（１５）計１００部

③　次年度の第１回ＣＳ推進委員会について

〇期日　４月１３日（木）　午後６時から

〇場所　小学校ＣＲ

〇委員等の選任…教育委員会

〇第６回コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平について

◇　その他

①シニア大学支援ボランティアひまわりにつて（岩井）
⇒次年度、学校運営協議会協力団体として登録し、小中学校の依頼があれば仲介をとる。

②新年度準備委員会について

・期日：３月２９日（水）午前１０時～

・会場：役場会議室

・内容：新年度委員の選定について

・参加範囲：教育長、教育次長、会長、副会長、小中学校から１名計９名

３　学校運営協議会の記録（詳細は議事録参照）

第１回　学校運営協議会・教育委員会合同会議の記録

１　期日　　平成２８年５月３０日（月）　午後３時３０分開会
２　会場　　木島平村役場　第１・第２会議室
３　参加者

学校運営協議会委員	１５人
教育委員会教育委員	３人
教育委員会事務局	６人
小中学校教頭	２人
計	２６人

４　次第
（１）　開会　高森教育次長
（２）　あいさつ　丸山教育長
（３）　平成２８年度　学校運営協議会委員の委嘱、並びに会長、副会長の選出
（４）　議事
　１）平成２７年度　事業報告について
　２）平成２８年度の学校運営委員会の組織について
　３）平成２８年度学校目標、教育活動について
　４）第５回コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平　について
（５）　閉会　高森教育次長

第２回　学校運営協議会の記録

１　期日　　平成２９年２月１６日（木）　午後３時３０分開会
２　会場　　木島平村役場　第１・第２会議室
３　参加者

学校運営協議会委員	１４人
教育委員会教育委員	３人
教育委員会事務局	６人
小中学校教頭	２人
計	２５人

４　次第
（１）開会
（２）あいさつ
　・学校運営協議会会長：阿部　弘
　・教育長：内堀幸夫
（３）平成２８年度木島平村学校運営協議会活動報告について（事務局）
（４）協議
　１）平成２８年度小学校学校評価及び平成２９年度学校経営ビジョンについて
　２）平成２９年度学校運営協議会運営計画について
（５）その他
（６）閉会

三　実施事業報告

１　平成２８年度　第５回コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平

１　主　催　　木島平村教育委員会

２　主　管　　木島平村学校運営協議会

３　期　日　　平成２８年８月２０日（土）

４　会　場　　木島平村若者センター　研修室

５　テーマ　　木島平で学べること・やりたいこと PART Ⅱ
～９年間の木島平ふるさと学習への提案～

６　講　師　　前川　喜平　先生（文部科学事務次官）
小国　喜弘　先生（東京大学大学院教授）
岸　　裕司　先生（文部科学省ＣＳマイスター）
渡部　秀則　記者（日本教育新聞社編集局記者）
随行者　　出塩　　進　様　（文部科学省事務次官秘書）
三木　直樹　様　（文部科学省初等中等教育局参事官付）

７　参加者（実質）

（１）講師		６名	
（２）村関係	村長	１名	４７名
	議会	７名	
	教育委員	４名	
	教育委員会事務局	６名	
	学校運営協議会	１１名	
	村民（保護者を含む）	１８名	
（３）学校関係	木島平小学校職員	１６名	３６名
	木島平中学校職員	１７名	
	下高井農林高等学校職員	１名	
	信州大学職員（ＥＳＤ関係）	２名	
（４）生徒	木島平中学校生徒	１４名	１８名
	下高井農林高等学校生徒	４名	
（５）その他	県外ＮＰＯ	２名	
（６）報道関係		２社	
		計　１１１名	

【講師陣左より岸,前川,小国,渡部,日臺,各氏】

【中学生を交えた熟議】

８　日　程　・　内　容　　全体進行（本山）

Ⅰ　第１部　研修（講話・実践報告）　９：００～１１：００

9:00　１　開会行事　進行：渡辺　孝　副会長　１５分

（１）開会のことば　（　岩井真里子　副会長　）

（２）挨拶　（　阿部　　弘　会長　）

（３）講師の紹介　（　丸山　幸一　教育長　）

（４）閉会のことば　（　岩井真里子　副会長　）

２　研修会

9:15　Ａ　報告：「学びの力で地域を元気に～近未来の教育は～」　４０分

渡部　秀則　記者（日本教育新聞社編集局記者）

10:00　Ｂ　地域にかかわるふるさと学習の発表　（実践発表）

①米作りを通して学んだこと（木島平小学校）　２０分

②輝け木島平！未来塾より「お年寄りとの交流」（木島平中学校）　２０分

③地域とともにいきいき！私たちが目指す園芸福祉交流　２０分

（下高井農林高校）

11:00　◇休憩（１０分）

Ⅱ　第２部　熟議　１１：１０～１５：００

11:10　３　熟議　テーマ「木島平で学べること・やりたいこと　PART Ⅱ」

～９年間の木島平ふるさと学習への提案～　５０分

11:20　Ａ　前半　熟議のテーマと進め方　（池田　剛　副会長）

具体的なふるさと学習の内容を絞り込む　１０分

12:00　◇ 昼食　（１２：００～１３：００）

13:00　Ｂ　後半　前半で絞り込んだふるさと学習の企画・運営等のアイディア　６０分

13:40　Ｃ　振り返り（具体案発表　各班５分以内）　４０分

14:20　Ｄ　講評　５０分

アドバイザー　小国 喜弘 先生　前川 喜平 先生

渡部　秀則記者　日臺 正博 村長

コーディネーター　岸　裕司　先生

15:10　閉会行事　進行：渡辺　孝　副会長　１５：１０～ １５：３０

（１）開会のことば　（　岩井真里子　副会長）　２０分

（２）運営協議会会長挨拶　（　阿部　弘　会　長）

（３）お礼のことば　（　山屋 秀夫　小学校長）

15:30　（４）閉会のことば　（　岩井真里子　副会長）

【阿部　弘　会長】

【岩井真里子副会長】

【池田　剛副会長】

※実施内容は、資料の項参照

２　小中学校ＥＳＤ活動への支援並びに地域講師の紹介

◇　木島平小学校

活動名		参加児童・生徒	地域講師	ＥＳＤの観点から
米作り		５年生中心で 全校で取り組む	佐藤　正市	・自然の仕組みと食の関係について ・食料の生産、消費を通じたつながり
ふれあい体験学習	絵手紙教室 ①②③	４年・５年・６年 年間３回 （２校時単位） ①７／１４ ②９／１５ ③１２／１	佐藤　洋子	・村の文化や人とのつながり
	郷土料理 ①②③		小林　恵子	・季節と地域の文化と食べ物の関係について
	和紙体験 ①②③		上埜　暁子	・村の伝統的工芸品について ・自然がもたらす恵みについて
	フラワーｱﾚﾝｼﾞﾒﾝﾄ　①②③		持田　昭子	・村の文化や人とのつながり
	工作 ①②③		上埜　　満 柴田　源太	・村の文化や人とのつながり
	凧づくり ①②③		佐治　　到	・村の文化や人とのつながり
	ゲートボール　①②		鈴木　信一 内川　啓江	・村の文化や人とのつながり ・ゲームを通した人格形成
	鬼島太鼓 ②③		小林　春彦	・村の文化や人とのつながり ・村の伝統芸能に触れる

◇　木島平中学校

活動名		参加生徒・担当		地域講師	ＥＳＤ活動の観点から
木島平探検		１学年総合的な学習の時間 ・塩崎　・太田 ・小林　・畔上 ・徳竹　・４２名		訪問先の寺社や施設管理者	○村の各地区を訪問調査し、文化財、史跡、名所に関する８０のクイズ問題を作成 ・村の文化や人とのつながり ・村の産業や環境とのつながり
第Ⅱ期輝け！木島平	地域材活用	２・３学年連合の総的な学習の時	・宇田 ・吉田 ・１４名	上埜　　満 武田　靖弘 柴田　源太 武田　幸一	○村内の間伐材の杉を利用したカホン作りと演奏活動 ・地域の林業産業の理解 ・環境の保全活動と廃材の有効利用
	米粉		・三井 ・１３名	江田　宏子 なちゅらるスィーツの会	○木島平産の米粉（玄米粉）を利用したスィーツの開発と販売活動 ・自然の仕組みと食について ・地域の文化と食べ物の関係 ・村の産業や環境とのつながり
	伝統の美 内山和紙		・有賀 ・山崎 ・１３名	上埜　暁子	○紙すき体験と和紙を用いた制作活動 ・村の伝統的工芸品について ・自然がもたらす恵みについて
	俳句		・越 ・１１名	片桐　静雄 山嵜　　堯 本山　育人	○村内にある１１基の芭蕉句碑めぐりと、村内風景のフォト俳句づくり ・村の歴史と文化活動の関連

未来塾		間2校時単位で年間10回程度開催			・村の文化やひととのつながり
	木彫り		・大日方 ・内山 ・２０名	森　　徳壽 信州ものづくりマイスター	○村内産の木材を利用した木彫作品づくりと、伝統工芸品飯山仏壇についての理解 ・身近な地域の伝統工芸品の理解 ・村に住む人や文化とのつながり
	お年寄りとの交流		・笠原 ・１２名	真篠　淳子 「夢ひろば」スタッフ	○民間で設営している「夢ひろば」への訪問と、木中特設「夢ひろば」を開催しお年寄りとの交流活動 ・村の文化や人とのつながり ・地域に奉仕する心の育成
	ふるさとＣＭ大賞		・胡桃澤 ・１４名	西谷　和洋 ふう太ネット職員	○３０秒のふるさとＣＭの題材探しや構成、脚本、撮影、編集作業 ・地域の自然や文化についての理解 ・制作活動を通して地域文化の発信

３　木島平型教育視察研修の受け入れ

（１）　６月２０日（月）・２１日（火）…京都府京丹波町教育委員会：４名
（２）　６月２９日（水）・３０日（木）…静岡県川根本町教育委員会：７名
（３）　７月１４日（木）…長野市教育委員会：２名　小学校対応。
（４）　８月２９日（月）・３０日（火）…三重県木曽岬町教育委員会：５名
（５）１０月１３日（木）…長野県東北信地区女性教育委員：３０名
（６）１１月　１日（火）・２日（水）…京丹波町の教育関係者：１４名
（７）１１月１７日（木）…東京大学勝野ゼミ・勝野正章教授と大学院生：１３名

４　信州型コミュニティスクール推進セミナー　～学社連携意見交換会～　参加

○　７月１２日（火）北信合同庁舎　会場にて　実践事例発表
○　発表者　阿部　弘（会長）　龍野正和（中学校教頭）　本山育人（コーディネーター）

５　平成２８年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム（長野会場）参加

期日　１１月１７日（木）１３：００～１６：３０
会場　ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）中ホール
参加者　ＣＤ推進委員７名　　※内容は資料の項参照

６　村と協定する大学を分類整理　別紙一覧表参照

７　小中学校学習環境づくりとしてのボランティア募集、人材リストづくり

（１）小学校のボランティア支援者
①音楽会支援…島崎としえさん　竹内智美さん
②家庭科ミシン補助…池田美恵子さん　小林敏枝さん
③スキー支援…祢津澄博さん　小林和彦さん
（２）中学校の学習支援
①わせだいら学習塾…夏休みに実施
②東京大学寺子屋プログラム…東大生教育実習中３日間でのべ１００人の中学生が参加
（３）地域学習に関する地域講師人材リスト
○小中学校ＥＳＤ活動の「地域講師」参照

四　本年度事業推進の成果と課題・反省

１　第５回コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平について

（１）成果

①講師４名を含め、村関係、村民、学校関係、生徒など総勢１１１名を越える参加者となった。

②地域を素材とした教育活動が、ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の理念と一致することが確認され、小中学校の教育課程に位置付いたこと。

③パネルディスカッションでは、本村のコミュニティ・スクールの在り方が再認識され、新しい教育の流れに反映していることが確認されたこと。

④熟議のあとの振り返りでは、地域講師の皆さんの声が聞かれて、「研修会に参加してよかった」と話され、地域とともにある学校づくりが進められたこと。

⑤小中高校生、村民、保護者、村議等、年齢や立場の異なる人たちが一堂に会して、テーマに添った熟議を行うことなど、参加された人たちの意識の変革につながっている。（村や教育をどうするのかを、自分ごとにして考えている。）

⑥熟議の結果を踏まえながら、９カ年の「ふるさと学習のカリキュラム」の見直しがされたこと。（小中一貫教育推進委員会で、学校が作成した。）

（２）課題・反省

①研修会で出された子ども達のアイディアや地域の意見を活かす活動を、次年度以降、具体的どのような方法で活かすことが可能か検討していくこと。

②テーマによっては、小中学生の積極的な参加も視野にいれていくこと。

２　木島平型教育推進について

（１）成果

①木島平型教育が全国的に注目を集め、多くの視察研修者の受け入れに至っている。参観された方々からは、「地域や学校の目指す姿を示している。」と評価をいただいている。

②本村の教育の取り組みが、教育関係メディアの記事となり、全国に発信できたこと。

③本村のコミュニティ・スクールの取組が、県のコミュニティスクール推進に反映されたこと。

（２）課題・反省

①保護者や、地域住民に対しての活動内容の啓蒙を図ること。今後広報でのコミュニティ・スクールコーナーの設置を考えていくこと。

３　地域支援ボランティア活動について

（１）成果

①地域の方の支援を得ての活動が広がった。（小学校のゲートボールを取り入れた交流、家庭科や音楽での支援、昨年に続いて、スキー学習への支援）

②中学校では、地域の方を講師とした「輝け！木島平未来塾」での学びが、地域に発信する活動に広がったこと。（「米粉」⇒村民祭でのスィーツ販売、「お年寄りとの交流」⇒軽トラ市参加、木中夢ひろばの開催、「地域材活用」⇒村民祭でのカホン演奏　等）

③学校の教育活動にボランティア支援していただいた方の意識の中に、充実感ややり甲斐、生き甲斐、満足感が見られる事例があったこと。（ｗｉｎ＆ｗｉｎの関係）

（２）課題・反省

①学校との縁のあった講師の方は、学校運営委員会の「人材バンク」の登録し、人材バン

クの有効的な活用を図ること。
②村のスペシャリストからの支援活動に限らず、さらに広範囲の人とも関わりの 持てるような活動を企画すること。
③村の方々からの、子ども達とふれあいたいという要望に対して、地域と学校が互恵関係になるようなコーディネートをすること。(スクールコミュニティをめざすこと。)
④学校でのボランティアをもっと気軽に出来て、シニアの方が活動しやすくし、子ども達と村民が交流できるようにな場を設定すること。

４　その他の活動、組織全般について

（１）成果
①中学校の長期休業中での学習支援は、協定大学の大学生による支援がなされたこと。
（東大生による「寺子屋プログラム」　わせだいら（早稲田大学）による夏休み講座）
②小学生が東京方面への宿泊体験学習の機会を利用して、村と連携協定を結んでいる大学を訪問し、「協同的な学び」の取組の様子を発表した。この取組を通して、自分たちの学びの意義や良さに目を向けることができたこと。

（２）課題・反省
①学校運営協議会が日常的に機能するよう、部会組織を位置づけた学校運営協議会にしていくこと。特に、コミュニティ・スクール研修会には係分担を位置づけること。
②他地域のコミュニティ・スクール活動に学び、実働できる組織をつくること。
③学校運営協議会の取り組みは、村教委・学校・生涯学習係と連携を密にして、地域の方も学ぶ機会と場を作れるように進める。(スクールコミュニティの推進)

五　平成２９年度　学校運営協議会事業（案）

１　第６回コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平の実施

○期日　平成２９年８月１９日（日）
○会場　木島平村若者センター研修室
○内容　今後検討

２　小中学校と地域を繋ぐ活動・支援

○学校から要望された地域講師についてのつなぎ
○地域の方から要望された、学校や子ども達とのふれあい活動の照会

３　平成２８年度の熟議から出された活動の企画・運営

（１）中心に進める活動

NO	企　画　名	企　　画　　内　　容	参加呼びかけ団体等
1	みまもりたい （見守り隊）	○登下校の子どもの安全を見守る。 ・あいさつ　・避難場所 ・有事の際の連絡元など	○ボランティアによる。 ・地域グループをできるところから組織していく。・商工会　・ＰＴＡ
2	ふるさと探検隊	○木島平には、歴史在る里山、神社、史跡がある。そこを子ども、大人	○ NPO 地域創生 ○村の歴史、自然に詳し

		が一緒に訪れ、大人にとってはふるさと再発見、子どもにとってはふるさとの良さを見つける機会に。　１回目は高社山。	い人 ○学校運営協議員 ○ CS 推進委員
3	かるた大会	○木島平史跡かるたができる。これを使ったかるた会を実施する。	○かるた製作スタッフ、 ○学校運営協議員 ○ＰＴＡ
4	わら細工	○わらを使った細工物（しめ縄作り、雪ぐつ作り、ねこつぐら、みのかさ…）	○生涯学習係 ○公民館 ○老人会

（２）学校、他団体、機関と協力して進めたい活動例

①　地域の活動や行事の企画の段階から、子ども達が関わろう。（公民館）

○公民館活動での子ども達の出番を支える。

②　自分たちの願いや想いを、村に発信しよう。（教育委員会）

○小中学生による村（村長、村議会）への提言を進めるためのサポート、環境づくり。

③　村に残されている民俗資料をもっと活用しよう。（生涯学習係）

○大町収蔵庫に収蔵されている民俗資料の積極的な活用。

④　独り住まいの老人宅へのボランティア（学校）

○四季に応じた図工や美術で作成したもの、学校通信等を届ける。誕生日訪問。栽培活動として四季の花（鉢花）を届ける。ときどき様子を見たり別の花を取り替える。

４　学校運営協議会委員や学校職員の視察研修

○コミュニティ・スクールの先進地視察研修（目的地、日時は今後検討）

５　年間を通した定例ＣＳ推進委員会・学校運営協議会の開催

月	日	曜	会　　議　　名		
4	１３	木	第１回ＣＳ推進委員会		
5	１１	木	第２回ＣＳ推進委員会		
	１８	木		第１回学校運営協議会	
6	1	木	第３回ＣＳ推進委員会		
7	6	木	第４回ＣＳ推進委員会		
8	3	木	第５回ＣＳ推進委員会		
	１９	土			研修会
9	7	木	第６回ＣＳ推進委員会		
１０	5	木	第７回ＣＳ推進委員会		
１１	2	木	第８回ＣＳ推進委員会		
１２	7	木	第９回ＣＳ推進委員会		
1	１１	木	第 10 回ＣＳ推進委員会		
2	1	木	第 11 回ＣＳ推進委員会		
	１５	木		第２回学校運営協議会	
3	1	木	第 12 回ＣＳ推進委員会		
	２３	木	ＣＳ推進委員打合せ会議		

六　資料

1　コミュニティ・スクールだより　第１１号、第１２号 ---------- 15

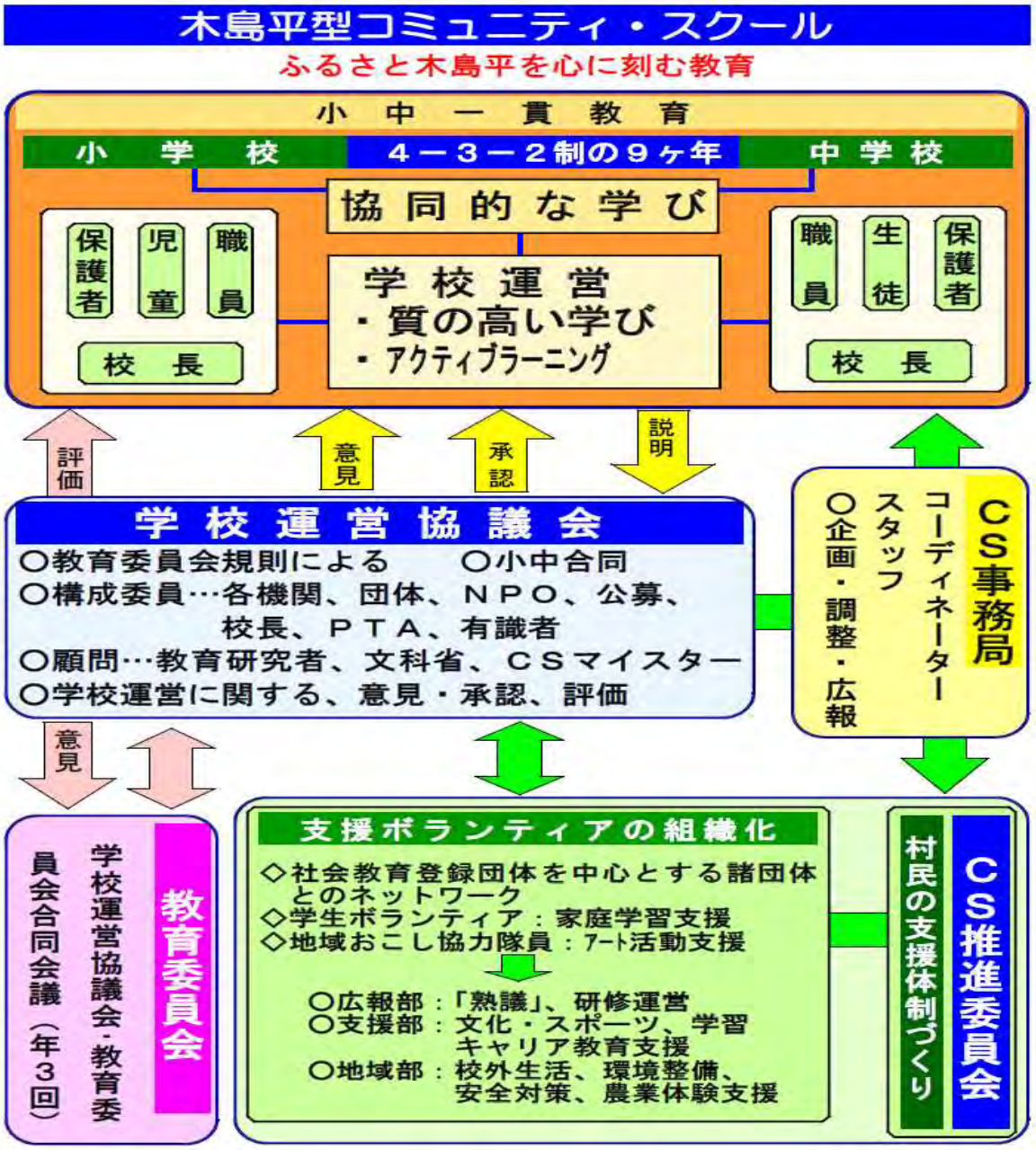
2　第５回コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平研修報告書 ---------- 23

3　平成２８年度　地域とともにある学校づくり推進フォーラム参加報告 --- 89

4　村と協定する大学分類一覧表 ---------- 94

5　木島平村立学校　学校運営協議会の設置等に関する規則 ---------- 95

6　平成２８年度　木島平村学校運営協議会　委員名簿 ---------- 98



木島平村民のみなさんへ

コミュニティ・スクールだより

第１１号
平成２８年　８月３０日
発行者　木島平村教育委員会
木島平村学校運営協議会

第1回学校運営協議会で、小中学校の運営方針承認

◇５月３０日、役場会議室において、平成２８年度第１回学校運営協議会・教育委員会合同会議が開かれ、①平成２８年度の学校運営協議会の組織・活動計画、②小・中学校の学校教育目標、教育活動の方針が協議され、それぞれ承認されました。

テーマ　２１世紀社会に求められる「資質・能力」を育てる教育への挑戦
～持続可能な開発のための教育～

1　教育理念と教育目標

教育理念　ふるさと木島平を心に刻む教育の実践

教育目標　心と体をひらいて学ぶ子ども

子どもたちは、人生のなかで最も心と体が成長する児童期や青年期の大半の時間を学校で過ごす。学校でのあらゆる出来事は、義務教育を修了して何十年たっても、記憶として残り、財産となり、宝となる。この学校でしか学べないもの、この仲間としか学べないものが多々ある。そのことを「ふるさと木島平を心に刻む教育の実践」と唱っている。そこで、学校教育目標の「心と体をひらいて学ぶ子ども」は、「自分との対話を重ねながら、自分自身を深めつつ、友とかかわる」ということである。

2　一貫教育の３視点

視点１　経営の基本を「協同的な学びを基礎に置く学校づくり」とする
- 公共性…他者に開かれた学校づくり・授業づくりを展開すること
- 公平性…子ども、教師、保護者、村民が互いの声に耳を傾けること
- 卓越性…教師と子どもが最上の学びを追い求め、挑戦し続けること

視点２　協同する学びでつなぐ一貫教育により「自立する学び手」を育成する
- 聴き合う関係を創る子ども…学校生活全般でめざす姿
- 学んだことのよさを自分のことばで説明する子ども…主として教科の学習でめざす姿
- 意思をもって他とかかわる子ども…主として総合的な学習でめざす姿

視点３　「発達段階に応じる指導」と「地域との連携」をキーワードに教育システムを構築する
- 義務教育9年間を４（前期）・３（中期）・２（後期）で構成する。
- 小中一貫教育による学校経営を扶ける学校運営協議会を設置する。

教育理念・教育目標は、小学校と中学校とで同じ内容にし、小中一貫型教育を目指します。

「協同的な学び」で、一貫型教育を目指します。

小中学生の「自立する学び手」を育てるために学校運営協議会が支援します。

平成28年度の組織です。よろしくお願いします。

学校運営協議会委員			委　員	小林　恵子	有識者	事務局(推進委員)
会　長	阿部　弘	社会教育委員長	委　員	湯本　幸伸	小PTA会長	丸山　幸一:教育長
副会長	池田　剛	NPO(教育)	委　員	上野　雅之	中PTA会長	高森　喜久:次　長
副会長	渡辺　孝	NPO(地域)	委　員	山屋　秀夫	小学校校長	藤田　一樹:子育て支援係
副会長	岩井真里子	有識者:文化	委　員	関　孝志	中学校校長	土屋伸二郎:生涯学習係長
委　員	芳野佐太郎	有識者:防災	委　員	小林　乙枝	おひさま保育園園長	土屋　聖史:生涯学習指導員
委　員	小林　直喜	有識者:芸文協	委　員	大崎　森雄	区長会長	関川あかね:小学校教頭
委　員	嘉部美津子	有識者:図書委員長	委　員	山浦　謙三	民生児童委員長	龍野　正和:中学校教頭
委　員	高橋　英子	有識者:スポーツ	委　員	山嵜　澄人	放課後子ども教室	本山　育人:コーディネーター

丸山教育長　木島平型教育を全国に発信！

◇去る５月１２・１３日、東京で全国町村教育長総会・研究大会で、ここ５年間の木島平型教育の取り組みを発表しました。発表の骨子は、「木島平小・中学校を、協同的な学びで９カ年を貫き、その学びを支えていくのが、地域とともにあるコミュニティ・スクールである」ということです。発表スライドをピックアップして紹介します。

第58回　全国町村教育長会　研究大会

保育園・小学校・中学校を貫く協同的な学びへの取り組み

長野県木島平村教育委員会
教育長　丸山幸一

保育園・小学校・中学校を貫く協同的な学びへの取り組み

学びの改革を進めるための一貫型教育
学びの改革を持続するためのしくみ
その他の取り組み
学びの改革の成果と今後の課題

協同的な学びの視点　アクティブ・ラーニング

対話的コミュニケーションを培い、
学びから逃げない主体的に学ぶ姿勢を育てる

・一人ひとりの学びの保障（学習権）
・聴き合う関係、自分のことばで説明、意思をもって他とかかわる子ども（互恵的な学び）
・質の高い授業づくり（小中合同の学習検討会）
・主体的・協働的に学ぶ（アクティブ・ラーナー）

協同的な学びの効果

学習指導と生徒指導の一体的、相互補完的な展開が可能になり、児童生徒の居場所をつくり、自尊感情を育て、自己実現を図ることにつながる。

平成27年度全国学力学習状況調査結果に見られる
児童生徒の生活意識①

学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。　①

選択肢		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小6	木島平村	65.7	34.3	0.0	0.0
	全国	54.2	31.9	10.0	5.1
中3	木島平村	75.7	18.9	0.0	0.0
	全国	56.0	28.2	9.5	3.7

平成27年度全国学力学習状況調査結果に見られる
児童生徒の生活意識②

授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。　②

選択肢		その場で先生に尋ねる	授業が終わってから先生に尋ねに行く	友達に尋ねる	家の人に尋ねる
小6	木島平村	14.3	4.8	73.8	4.8
	全国	16.1	8.7	30.8	23.1
中3	木島平村	5.4	8.1	75.7	0.0
	全国	10.6	10.3	35.9	5.7

学びの改革を持続するためのしくみ①

教師研修の日常化と継続　「学び続ける教師は崩れない」

学びの改革は教師の研修に始まり、教師研修の日常化と継続が必須。教師の研修システムを構築

・年間7回の自主公開学習検討会（小3回、中3回）の実施
　教育研究者の指導助言を得る機会
　小中全職員が参加し、国内外に公開
・教職員の県外先進校視察支援
・個人課題の研修支援

台湾からの視察団

学びの改革の成果と今後の課題

学びの改革の成果

・児童生徒の互恵関係が向上し学びに向かう意識が高まる。
・児童生徒の挨拶や積極的な姿勢が村民に好評価を得ている。
・教師が短期間で意識改革を果たし、小中教職員の同僚性が充実してきた。教師の研修意識が向上し、共有されている。
・保育士研修が充実し、小中の協同的な学びへつながる幼児教育が充実してきている。

◇参加された多くの皆様方からは、「協同的な学び」「小中一貫型教育」「コミュニティ・スクール」を一つの視野に入れ、様々なアプローチを試みていることに多大な評価をいただきました。その結果、６月に京都府京丹波町教育委員会と静岡県川根本町教育委員会が、８月に三重県木曽岬町教育委員会の皆様が、本村を訪れ、小中学校視察研修をされ、非常に参考になったという礼状もいただいています。

平成28年度　第５回コミュニティ・スクール研修会　ｉｎ木島平

主催　木島平村学校運営協議会　　木島平村教育委員会

テーマ

木島平で学べること・やりたいこと　PARTⅡ

～９年間の木島平ふるさと学習への提案～

時期　平成２８年8月20日（土）９：００～１５：３０

会場　木島平村若者センター　研修室

研修会Ａ　報告「学びの力で地域を元気に～近未来の教育は～」

渡部　秀則記者（日本教育新聞社編集局）

木島平村が現在進めていることは？

保育園・小学校・中学校を貫く協働的な学びへの取り組み

・教育課程を4・3・2に区分した小中一貫教育

・「協同的な学び」（アクティブ・ラーニング）

・コミュニティ・スクール（CS）

※木島平ふるさと学習、CS研修会（熟議）など、学校と地域をはじめいろいろな人たちが協働した取り組みが行われている

これは、事例紹介した「学びの力で地域を元気に」する近未来の教育の姿に重なりませんか？

・保育園も入って取り組みを行っていることが、他地域にはないアドバンテージ

これまでの取り組みを充実、発展させることが、何より重要

◇参加者の声より

・秋田、北海道の事例はよかった。木島平で行っていることは間違いない。先を行っているということが分かりました。（村民）

・地域との交流は、地域への愛着を深めると共に、地域へ将来戻ってくることへのきっかけともなるので、大切にしていきたいと思った。（中高生）

Ｂ　実践報告　①米作りを通して学んだこと

今井　輝彦　先生（木島平小学校）

◇参加者の声より

・なつかしい米作りを見て、私たちはこんなに米のことを気にかけてなかったかもなぁと思った。佐藤さんには何年もお世話になっていて、大切な存在だと思った。（中学生）

・木島平米はとても美味しいということをこれからどんどん実感していくと思うので、米作りの経験を忘れず、大切にしていってほしいです。（村民）

B　実践報告　②輝け！木島平未来塾より「お年寄りとの交流」

木島平中学校：お年寄りとの交流講座受講生
　３年生：大羽南さん、祢津小町さん、萩原梨帆さん

◇参加者の声より

・「夢ひろば」に関わる方々の願いや思いが、中学生へと着実に継承されていっている。学校 と地域が連携したすばらしい実践である。（村民）
・生徒と地域がつながっているのがよく分かりました。互いが幸せを感じられる関わり方だと感じました。（教職員）

B　実践報告　③地域とともにいきいき！私たちが目指す園芸福祉交流

下高井農林高校園芸福祉コース３年生
　田中理沙さん、青木里沙さん、藤澤由佳さん、平井くるみさん

◇参加者の声

・中学校の実践に繋がるものがありました。お年寄りが住みやすい村を作っていくことは課題の一つです。園芸福祉という面からのアプローチはこれからどんどん広がっていってほしいです。
・農林高校の取り組みには本当に頭が下がります。是非今後も活躍してアピール　　（村民）
　していってほしい。（教職員）

◇熟議：テーマ９年間のふるさと学習への提案、講評については、紙面の都合上次号に掲載します。写真は、熟議の後、みんなで内容をシェアする場面

コミュニティ・スクール
　だより　第１１号
問い合わせ先
　木島平村教育委員会
　ＣＳコーディネーター
　本山育人まで
TEL/FAX 0269-82-2350

木島平村民のみなさんへ

コミュニティ・スクールだより

第１２号
平成２９年　３月６日

発行者　木島平村教育委員会
木島平村学校運営協議会

小中学校の“ふるさと学習”が充実しています…

◇木島平小学校・中学校のふるさと学習は、多くの村民の皆様のご支援を得て活動してきました。今年度は次のような活動が、小中学校で行われ、大きな成果を上げています。

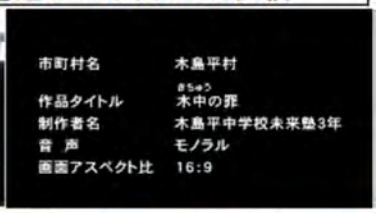
木島平小学校　　※地域講師の皆さんの敬称は略させていただきます。

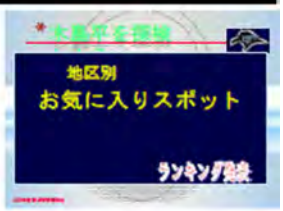
活動名		参加児童・生徒	地域講師	木島平村とのつながりの観点から
米作り ＊食味分析鑑定コンクール　金賞		５年生が中心で 全校で取り組む	佐藤　正市	・自然の仕組みと食の関係について ・食料の生産、消費を通じたつながり
ふれあい体験学習	絵手紙教室	４年・５年・６年	佐藤　洋子	・村の文化や人とのつながり
	郷土料理	年間３回 （２校時単位） ①７／１４ ②９／１５ ③１２／１	小林　恵子	・季節と地域の文化と食べ物の関係について
	和紙体験		上埜　暁子	・村の伝統的工芸品について ・自然がもたらす恵みについて
	フラワーアレンジメント		持田　昭子	・村の文化や人とのつながり
	工作		上埜　　満	・村の文化や人とのつながり
	凧づくり		佐治　　到	・村の文化や人とのつながり
	ゲートボール		鈴木　信一 内川　啓江	・村の文化や人とのつながり ・ゲームを通した人格形成
	鬼島太鼓		小林　春彦	・村の文化や人とのつながり

◇活動のあれこれ

木島平中学校

活動名		参加生徒・担当		地域講師	木島平村とのつながりの観点から
木島平探検		１学年総合的な学習の時間 ・塩崎　・太田 ・小林　・畔上 ・徳竹　・４２名		訪問先の寺社や施設管理者	○村の各地区を訪問調査し、文化財、史跡、名所に関する８０のクイズ問題を作成 ・村の文化や人とのつながり ・村の産業や環境とのつながり
第Ⅱ期・輝け！木島平未来塾	地域材活用	２・３学年連合の総合的な学習の時間の２校時単位で、年間10回程度開催	・宇田 ・吉田 ・１４名	上埜　満 武田　靖弘 柴田　源太 武田　幸一	○村内の間伐材の杉を利用したカホン作りと演奏活動 ・地域の林業産業の理解 ・環境の保全活動と廃材の有効利用
	米粉		・三井 ・１３名	江田　宏子 なちゅらるスィーツの会	○木島平産の米粉（玄米粉）を利用したスィーツの開発と村民祭での販売活動 ・自然の仕組みと食について ・地域の文化と食べ物の関係 ・村の産業や環境とのつながり
	伝統の美 内山和紙		・有賀 ・山崎 ・１３名	上埜　暁子	○紙すき体験と和紙を用いた制作活動 ・村の伝統的工芸品について ・自然がもたらす恵みについて
	俳句		・越 ・１１名	片桐　静雄 山﨑　堯 本山　育人	○村内にある１１基の芭蕉句碑めぐりと、村内風景のフォト俳句づくり ・村の歴史と文化活動の関連 ・村の文化やひととのつながり
	木彫り		・大日方 ・内山 ・２０名	森　徳壽 信州ものづくりマイスター	○木材を利用した木彫作品づくりと、伝統工芸品飯山仏壇についての理解 ・身近な地域の伝統工芸品の理解 ・村に住む人や文化とのつながり
	お年寄りとの交流		・笠原 ・１２名	真篠　淳子 「夢ひろば」スタッフ	○民間で設営している「夢ひろば」への訪問と、木中特設「夢ひろば」を開催し、お年寄りとの交流活動 ・村の文化や人とのつながり ・地域に奉仕する心の育成
	ふるさとＣＭ大賞		・胡桃澤 ・１４名	西谷　和洋 ふう太ネット職員	○３０秒のふるさとＣＭの題材探しや構成、脚本、撮影、編集作業 ・地域の自然や文化についての理解 ・制作活動を通して地域文化の発信





木島平村小中一貫型教育が注目されています…

◇木島平村小中一貫型教育は、三つの柱から成り立っています。

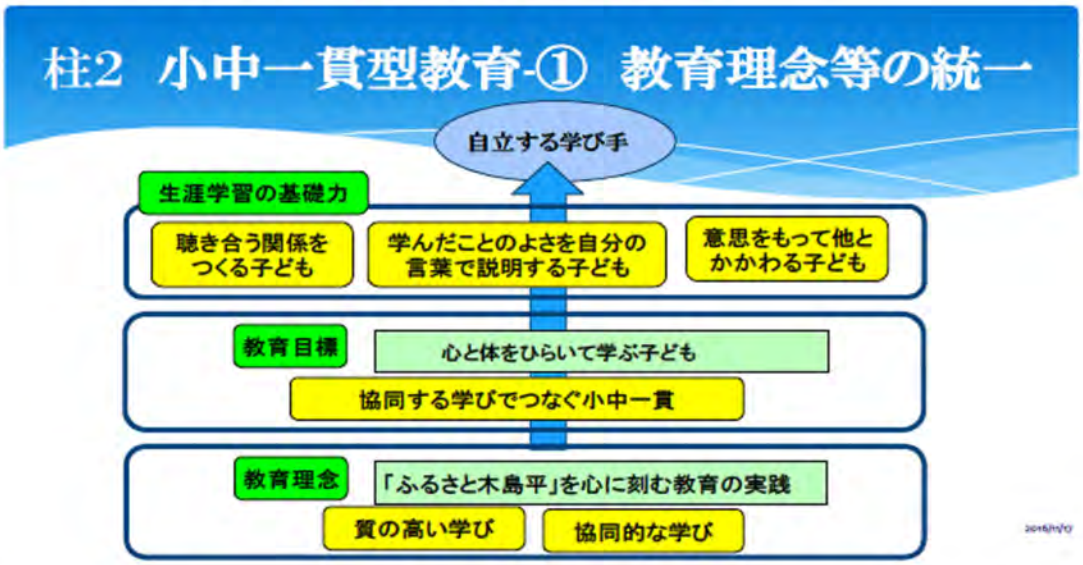
柱１　共同する学びでつなぐ９年間

○対話的コミュニケーションを基盤として、課題について少人数で互恵的に学ぶこと。

・小学校低学年はペア学習で、小学校３年生からは、４人のグループで課題について学び合います。

・友だちの話を聞き、分からないことを互いに語り合いながら、学び合いをします。

柱２　小中一貫型教育…９カ年を同じ教育理念で学びます



◇９年間を４（小１～小４）－３（小５～中１）－２（中２，３）で区切ります。

柱３　地域とともにあるコミュニティ・スクール（学校運営協議会）

○小中学校のふるさと学習を支援しています。

○毎年８月の研修会で、学校、村民、中学生等を交えて、ふるさと学習の報告をしたり、９年間のカリキュラムについて、熟議しています。

○学校や地域からの要望をとりまとめ、相互のコミュニケーションを図ります。

木島平村では、６つの大学と協定を結んでいます…

○金沢大学
○域学連携協定書
○糠千地区を中心とした地域おこし事業
○生涯学習係　Ｈ２５～

○國學院大学
○共同研究交流事業
○村内古文書の整理と目録づくり
○生涯学習係　Ｈ２６～

○早稲田大学
○人材育成と学術・文化地域社会の発展に寄与
○学生受入地域活性化
○政策情報係　Ｈ２６～

○東京農業大学
○連携に関する協定書
○大学生１年農業（農家）受け入れ
○農林係　Ｈ２５～

○東京大学
○教育・研究交流
○教育実習受け入れ
寺子屋プログラム　他
○子育て支援係　H26～

○桐朋学園
○文化芸術等の援助協力
○村内での音楽演奏
からす踊り関係
○生涯学習係　Ｈ２７～

第２回学校運営協議会開催される（２／１６）

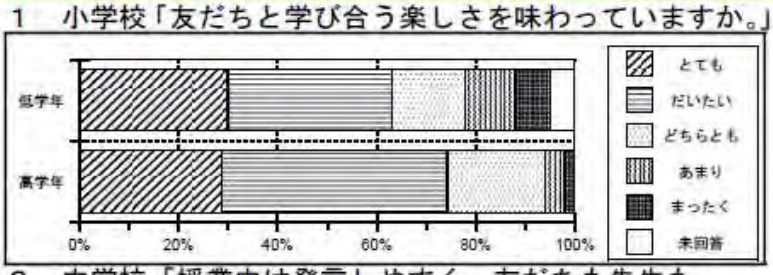
◇第２回学校運営協議会が、２月１６日に開催され、平成２８年度の学校評価と、２９年度の学校経営のビジョンについて、協議されました。

◇小中学校からは、保護者や児童・生徒による評価アンケートの結果が発表されました。どの評価項目についても、プラス評価の割合が高く、小中学校で行われている協同的な学びの成果が現れてることが確認されました。

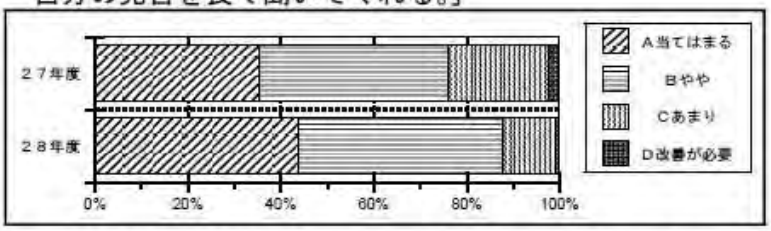
◇平成２９年度も、「木島平村小中一貫型教育」を推進していく方向で協議されました。

小中学生の学校評価から（主な事項について）

１　小学校「友だちと学び合う楽しさを味わっていますか。」

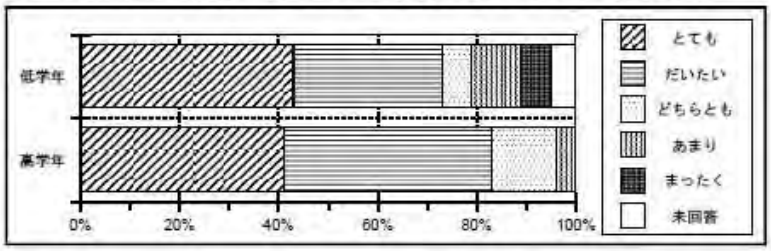


２　中学校「授業中は発言しやすく、友だちも先生も自分の発言を良く聞いてくれる。」

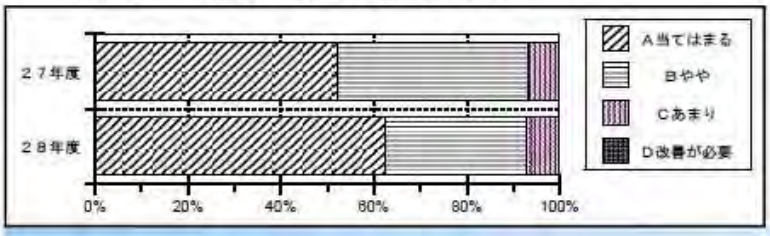


◇項目１，２については、授業中の学び方を質問したものです。小学校では、「とても」「だいたい」のプラス評価が、低学年で６３％、高学年で７５％となりました。また、同項目の中学生版では、ＡＢのプラス評価が８７．６％にのぼり、昨年度より好評価となっています。これは、小中でやっている協同的な学びの成果の現れとも言えます。

３　小学校「学校に行くことを楽しみにしていますか」



４　中学校　「学校に来るのが楽しい」



◇項目３，４については、「学校が楽しいか」という内容です。小学校低学年は、７３％、高学年８３％、中学生は９３％が楽しいと答えています。しかも、中学生でのＡ評価が昨年度比で１０％増加しています。これは、学年が進むにつれて、友だちや先生関係を含め、学校生活が充実していることを示しています。子ども達にとって過ごしやすい環境となっています。

コミュニティ・スクールだより　第１２号
問い合わせ先　木島平村教育委員会　TEL　0269-82-3111 /FAX 0269-82-4121

資料２　第５回コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平　発表内容

Ａ　報告：「学びの力で地域を元気に～近未来の教育は～」

渡部　秀則　記者（日本教育新聞社編集局記者）

学びの力で地域を元気に
―近未来の教育は―

日本教育新聞社　編集局
渡部　秀則

新しい時代の教育に向けた教育再生実行会議の提言と取り組み

・教育再生実行会議＝21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を実行に移していくため、内閣の最重要課題の一つとして教育改革を推進する必要があります。このため、「教育再生実行会議」を開催しています。（内閣府HPより抜粋）
・平成25（2013）年1月24日より議論開始。今年5月20日までに、九次にわたる提言を実施。
・この提言を基に、中央教育審議会に諮問され議論、答申が出され、必要な法改正などが行われている。

第一次提言　いじめ問題等への対応について　（平成25年2月26日）

・道徳教育の抜本的改善・充実　・いじめ対策　・体罰禁止の徹底
・**「いじめ防止対策推進法」成立**（平成25年6月21日）
・「道徳の時間」を**「特別の教科　道徳」**（小・中学校で週1時間）として新たに位置付ける学習指導要領の一部改正（平成27年3月）※平成30年4月1日より全面実施

第二次提言　教育委員会制度等の在り方について　（平成25年4月15日）

・地方教育行政の権限と責任の明確化
・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」（平成26年6月13日成立　平成27年4月1日施行）→**教育委員会制度改革**

第三次提言　これからの大学教育等の在り方について　（平成25年5月28日）

・グローバル化に対応した教育環境づくりを進める
・イノベーション創出のための教育・研究環境づくりを進める
・学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能の強化
・社会人の学び直し機能を強化　・大学のガバナンス改革
↓
・官と民が協力した海外留学支援制度の創設（トビタテ！留学）
・スーパーグローバル大学創成支援
・**スーパーグローバルハイスクール**

・小学校3年からグローバル化に対応した英語教育を行う英語教育改革実施計画の公表（平成25年12月13日）
・中教審に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問（平成26年11月20日）→現在議論が進む「学習指導要領」改訂

第四次提言　高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について　（平成25年10月31日）

・高校教育の質の向上（達成度テスト（基礎レベル）の創設等）
・大学の人材育成機能の強化
・大学入学者選抜改革（達成度テスト（発展レベル）の創設、多面的・総合的な選抜への転換等）
↓
・中教審「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」とりまとめ（平成 26 年 12 月 22 日）
・今後取り組むべき重点施策とスケジュールを作成した「高大接続改革実行プランの作成」（平成27年1月26日）
・「高大接続システム改革会議」で具体的な方策について取りまとめ（平成28年3月31日）

第五次提言　今後の学制等の在り方について　（平成26年7月3日）

・新しい時代にふさわしい学制（幼児教育、小中一貫教育、職業教育等）
・教員免許制度の改革　・教育を「未来への投資」として重視
↓
・「学校教育法等の一部を改正する法律」（平成27年6月17日成立、平成28年4月1日施行）
→**小中一貫教育の制度化**、高等学校専攻科からの大学への編入学の制度化等
・有識者会議を経て、中教審「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について（答申）」とりまとめ（平成28年5月30日）
→実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化

第六次提言 「学び続ける社会」、全員参加型社会、地方創成を実現する教育の在り方について　（平成27年3月4日）

・誰もが「学び続け」、挑戦できる社会の実現
・女性、高齢者、障害者など「全員参加型社会」の実現
・教育の力による「地方創生」
↓
・中教審「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」とりまとめ（平成27年12月21日）　コミュニティ・スクールの努力義務化、地域学校協働活動の推進等
・中教審「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について（答申）」とりまとめ（平成28年5月30日）→一人ひとりの生涯を通じた学習の成果の適切な評価・活用のための環境整備
・女性・高齢者・障害のある児童生徒等の学び促進のための各種事業の実施
・奨学金を活用した大学生等の地方定着を促進するための新たな仕組みの創設
・地（知）の拠点となる大学への支援

第七次提言　これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について　（平成27年5月14日）

・これからの時代を見据えた教育内容・方法の革新（アクティブ・ラーニングの推進、ICT 活用等）
・教師に優れた人材が集まる改革（育成目標の明確化、全国的な育成支援拠点の整備等）

↓

・次期学習指導要領に関する中教審での審議（平成26年11月20日諮問）の中で、教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方等について審議
・有識者会議（平成27年5月12日～）にて、いわゆる「デジタル教科書」の位置付けや関連する教科書制度の在り方について検討
・中教審「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」とりまとめ（平成27年12月21日）→教員育成指標の全国的な整備、独立行政法人教員研修センターの機能強化等 ※後段の答申が**「チーム学校の推進」**

第八次提言　教育立国実現のための教育投資・教育財源の在り方について　（平成27年7月8日）

・「幼児教育の段階的無償化及び質の向上」、「高等教育段階における教育費負担軽減」を優先した教育投資
・民間基金の活用、税制の見直し等による教育財源確保
・国民の理解の醸成

↓

・幼児教育の段階的無償化及び質の向上、高等教育段階の教育費負担軽減（無利子奨学金の貸与人員の増員、授業料減免の充実等）などについて、平成 28 年度予算に反映。今後も、予算等において逐次対応
・国立大学法人等への個人寄附のうち、学生等に対する就学支援事業に充てられるものについて、税額控除の対象（平成 28 年度より）
・中教審に「第三期教育振興基本計画の策定について」を諮問（平成28年4月18日）し、提言の趣旨も踏まえて審議。

第九次提言　全ての子供たちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ　（平成28年5月20日）

多様な個性が生かされる教育の実現
・発達障害など障害のある子供たちへの教育
・不登校等の子供たちへの教育（**全小中学校へのスクールカウンセラー、全中学校区へのスクールソーシャルワーカーの配置、都道府県による不登校特例校の設置支援など**）
・学力差に応じたきめ細かい教育（**よりきめ細かい習熟度別少人数指導の推進、「地域未来塾」など地域の協力も得た学習の場の充実など**）
・特に優れた能力をさらに伸ばす教育、リーダーシップ教育
・日本語が十分ではない子供たちへの教育
・家庭の経済状況に左右されない教育機会の保障（貧困により学力に課題のある学校への重点支援など公教育の充実、給付型奨学金の検討など教育費負担の軽減）
・これらの取り組みを総合的に推進するための体制の整備（「教育再生先導地域（仮称）」）の仕組みの検討

近未来の姿を見るためのキーポイント

1　小中連携・一貫教育

2　新学習指導要領（アクティブ・ラーニング）

3　コミュニティ・スクールの努力義務化と地域学校協働活動の推進

小中一貫教育全体の制度設計

制度設計のポイント

・一人の校長の下、原則として小中免許を併用した教員が 9 年間の一貫した教育を行う新たな学校種を学校教育法に位置付ける（義務教育学校）
・独立した小・中学校が義務教育学校に準じた形で一貫した教育を施すことができるようにする（併設型小・中学校、連携型小・中学校）
・既存の小・中学校と同様、市町村の学校義務履行の対象とする（市町村は全域で小中一貫教育を行うことも可）
・既存の小・中学校と同様、市町村教委の就学指定の対象校とし、入学者選抜は実施しない。

義務教育学校＝学校教育法等改正で措置（平成27年6月17日成立、平成28年4月1日施行）
併設型小・中学校＝省令改正で措置（平成28年3月公布）

小中一貫教育の二つの類型

義務教育学校

・修業年限＝9年（ただし、転校の円滑化等のため、前半6年と後半3年の課程の区分は確保）
・教育課程＝9年間の教育目標の設定、・9年間の系統性を確保した教育課程の編成・小中の学習指導要領を準用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設（一貫教育の軸となる新教科創設、指導事項の学年・学校段階間入れ替え・移行）
・組織＝・一人の校長　・一人の教職員組織　・教員は原則小・中免許を併有（当面は小学校免許で小学校課程、中学校免許で中学校課程を指導）
・施設＝施設の一体・分離を問わず設置可能
※平成28年度は全国で22校設置（学校基本調査より）

併設型小学校・中学校

・修業年限＝小・中学校と同じ
・教育課程＝・9年間の教育目標の設定、9年間の系統性を確保した教育課程の編成　・小中の学習指導要領を適用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設（義務教育学校と同じ）
・組織＝・学校ごとに校長　・学校ごとに教員組織（ただし、一貫教育を担保する組織運営上の措置を要件化）
　※一体的にマネジメントする組織を設け必要な権限を教育委員会から委任、学校間の総合調整を担う者をあらかじめ任命、学校運営協議会の合同設置、校長の併任等一貫教育を担保する組織運営上の措置・教員は各学校種に対応した免許を保有
・施設＝施設の一体・分離を問わず設置可能

学習指導要領改訂のポイント

急激な社会的変化の中でも、子供たちに未来の創り手となるために必要な知識や力を育むため、以下のような方向性で学校の教育課程を充実。

・「ゆとり教育」か「詰め込み教育」かといった、二項対立的な議論には戻らない。知識と思考力の双方をバランスよく、確実に育むという基本を踏襲し、学習内容の削減を行うことはしない。
高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題となっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

・学校教育のよさをさらに進化させることを目指し、「学校教育を通じてどのような力を育むのか」を明確にして育成する。**「アクティブ・ラーニング」の視点**は、知識が生きて働くものとして習得され、必要な力が身に付くことを目指すもの。知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を行う
①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点。特に「深い学び」こそが質の高い理解に不可欠

・こうした方向性のもと、必要な教科・科目等の見直しも行う（小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」等の新設など）

本年度中に学習指導要領を改訂し、2020年度から順次実施

コミュニティ・スクールの努力義務化と地域学校協働活動の推進

「次世代の学校・地域創生」の実現

学校の指導体制の充実

教員が総合的な指導を担う日本の学校の特徴を生かしつつ、日本のこれからの時代を支える想像力をはぐくむ教育へと転換するとともに、複雑化・困難化する課題に対応できる「次世代の学校」を構築し、教員が今まで以上に一人一人の子供に向き合う時間を確保し、丁寧に関わりながら、質の高い授業や子に応じた学習指導を実現するべく、教職員定数の戦略的な充実を通じ、学校の指導体制を充実させる。

教員の質の向上

次期学習指導要領の実施に先駆けて、新たな教育課題に対応できる知識・ノウハウを備えた教員の育成環境を整えるとともに、大量退職・大量採用を背景とした年齢・経験年数の不均等による若手教員への知識・技能の伝承の停滞を克服するべく、養成・採用・研修の一体改革を着実に進める。

チーム学校の実現

複雑化・多様化する学校の課題に対応するとともに、子供たちに必要な資質・能力を育むためには、学校のマネジメントを強化し、組織として教育活動に取り組む体制を作り上げるとともに、学校において教員が心理や福祉等の専門家と連携・分担する体制を整備することにより、学校の機能を強化し、「チーム学校」を実現させる。

「地域とともにある学校」への転換

地域と学校の連携・協働の下、幅広い地域住民等（多様な専門人材、高齢者、若者、PTA・青少年団体、企業・NPO 等）が参画し、地域全体で学び合い、未来を担う子供たちの成長を支え合う地域をつくる活動（地域学校協働活動）とコミュニティ・スクールを全国的に推進し、高齢者、若者等も社会的に包摂され、活躍できる場をつくるとともに、安心して子育てできる環境を整備することにより、次世代の地域創生の基盤をつくる。

「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（中教審答申）」の概要

背景

・地域社会のつながりの希薄化や家庭教育の充実の必要性が指摘されており、地域の教育力の充実が必要
・学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教職員のみならず社会総がかりで対応する必要
・これからの時代を生き抜く力の育成、地域から信頼される学校づくり、社会的な教育基盤の構築等の観点から、学校と地域がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが必要

主な課題　コミュニティ・スクール

・さらなる加速が必要（現在、約２８００校）
・学校のガバナンス強化を目的に導入された制度であり、さらに学校を応援する存在とする必要
・学校運営の責任者である校長のリーダーシップがより一層発揮されるようにする必要
・教職員の任用に関する意見等の事項について、これまでの懸念を払拭する必要

主な課題　地域における学校との協働体制

・子供を育て、地域を創るため地域の教育力を向上し、持続可能な地域社会を創ることが必要
・地域と学校が連携・協働して、地域全体で子供たちの成長を支える活動の全国的な推進が必要
・従来の学校地域支援本部、放課後子供教室等の活動を総合化・ネットワーク化することが必要
・地域住民や学校との連絡調整等を担う、コーディネート機能の強化が必要

両者の一体的推進

・両者の体制が、相互に補完し高め合う存在として、両輪となって相乗効果を発揮していくことが必要
・学校や地域の実情、両社の有機的な接続の観点等を踏まえた体制の構築が重要

地域学校協働本部

保護者・地域住民・企業・ NPO 等　地域の人々が学校と連携・協働して子供の成長を支え、地域を創生

↓

学校を核とした地域の創生　時代の郷土をつくる人材の育成、まちづくり

↓

「地域学校協働活動」の推進

・郷土学習　・地域行事　・学びによるまちづくり
・放課後子供教室　・家庭教育支援活動　等

これらのことから考えられる　近未来の教育の姿

・小中一貫校で小中一貫教育が行われる
・教員が心理や福祉等の専門家と連携・分担する体制が整備される
・学校ではアクティブ・ラーニング型の授業が行われ、子どもたちが主体的に学ぶ
・公立学校はコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置）になるとともに、地域学校協働本部と連携・協働しながら地域の子どもたちを育てていく
・地域学校協働活動が推進され、地域住民もさまざまなことを楽しみながら学んでいく
・子どもも大人も主体的に学ぶことで「グローカル」な人材が育ち、新たな活動が生み出され、地域の活性化に結び付く
→ 学校を核にした地方創生が進んでいく

考えられる近未来の教育を実施している地域の例
これまでの取材を基に

秋田県大館市「大館ふるさとキャリア教育」

・大館市　秋田県北部にある人口約 7 万 5 千人の市→2005年の合併から1万人弱人口が減少 町の元気も失われつつある　消滅可能性都市のリストにも入る
・地域に残された唯一の財産が、全国的に見て学力も運動能力も高い子どもたち
・教育こそが、（町の消滅を防ぐ）最後の防波堤と考える
　↓
・そこで、ふるさとに生きる基盤を培う**「ふるさと教育」**と、その基盤の上に自らの人生を描く**「キャリア教育」**を融合した、市独自の**「ふるさとキャリア教育」**を2011年度からスタートした

「大館ふるさとキャリア教育」とは

・ふるさとに生きる基盤を培う「ふるさと教育」と、その基盤の上に自らの人生の指針を描く「キャリア教育」を融合した大館市独自の教育理念。
・コンセプトは**「大館盆地全体を教室に、市民一人一人を先生に」**。ふるさとに根差し、大館の未来を切り開く人材を育成することを目的としている。
※地域への誇りを育てる場合、地域の歴史や偉人よりも効果があるのは、今働いている大人の姿。
※社会の〝ほんもの〟に触れる体験を重視。社会の本物とは、オリンピック選手など世界的に有名な人、大企業の社長のように成功を収めた人の姿もあるが、それだけでなく地元の発展を願いながら日々自分の仕事に誇りをもって働く身近な大人の存在

大館市ふるさとキャリア教育の二つの柱

1 「百花繚乱作戦」
　地域の素材や特色を生かした、各小・中学校のふるさとキャリア教育活動
2　子どもハローワーク
　子どもたちが、地域や社会が行う仕事のイベントや手伝い、ボランティア、職場見学や職場体験が自由に何度も体験できる

「百花繚乱作戦」

きっかけ
大館市立釈迦内小学校が2010年に始めた「釈迦内サンフラワープロジェクト」
※ 地域の人たちとともに、子どもたちが休耕田などを使ってひまわりの花を栽培。種を収穫して油をしぼり、商品として販売する。収益は、子どもたちの体験活動を充実させるために使う。
※ひまわりが地域ブランドとなり、これを核とした町づくりが進み始める。
※子どもたちもひまわりの栽培、種の出荷、ラベルのデザイン、油の販売などを行い、主体性、創造力、発信力、課題発見力が育まれる。
　↓
・この成果に、市教委も注目。2013年度から「百花繚乱作戦」として、市内17小学校、8中学校でも地域の素材や特色を生かした取り組みをスタート

「百花繚乱作戦」のさまざまな取り組み

市立長木小学校
「エゾタンポポプロジェクト～命をつないで～」
　校区内にある希少在来種エゾタンポポの植栽など、エゾタンポポを守り、育てるための活動を実施。他地域との交流、地域の人たちへの学習成果発表などに加え、6年生による絵本作り活動などを実施

市立成章小学校
「成章かがやきプロジェクト」
　取り組みの一つに、地域の特産品である成章枝豆を使ったキャリア教育を実施。栽培した枝豆を使っての商品開発、販売などを行う。

子どもハローワーク

　企業からのオファーと子どもたちの体験を直接つなぐキャリア体験システムとして、大館市教育研究所内に立ち上げ。
↓
・大館市内の小中学生が対象
・体験日は土日祝日と長期休業期間
・活動内容は企業の仕事の手伝い、地域のイベント・お祭りの運営、町内会の清掃活動、農家の農作業の手伝いなど（職人への弟子入り、保育体験などもあり）
・企業や団体が子どもハローワークに「求人」を出し、教育センターから各学校に求人票を送付。それを見た体験を希望する子どもたちが申し込み、当日は各企業や団体に行って体験活動を行う。
・企業や団体は基本的に大館市内のもので、子どもたちが働く地域の大人の姿から学ぶ

・この他にも、高校生を含めて医師や教師、薬剤師などを職業を知り、将来目指す人を育てる
　「未来人財プロジェクト」などを実施。
・これらの活動のベースとなる学力を育むために「おおだて型学力」も提唱
※「おおだて型学力」は自立の気概と能力を育て、ふるさとの未来を切り拓く総合的人間力
※「おおだて型学力」を鍛える授業の視点では、
　①**主体的に学ぶ授業**
　②**思考力、判断力、表現力等を磨く授業**
　③集団で学び合う授業 ― を示している

「大館ふるさとキャリア教育」の取り組みを行った成果

・「未来を担う子どもたちのために」と、地域の人たちが主体的に関わり、まちづくりをするようになった→地域活性化
・学校と地域の協働体制ができた
・子どもたちと関わることで、地域の大人たちが自分たちの仕事や活動に誇りを持つようになった
・中学生の補導がゼロになった（２０１５年度）

北海道浦幌町「うらほろスタイルふるさとづくり計画」

・北海道東部の人口５０００人の町（幼稚園2園、小学校3校、中学校2校）
・人口減少により、児童生徒数が３０年間で１／４強まで減少。雇用不足などの理由から社会的流出も多いという課題。
・旧北海道浦幌高校の閉校が決定（平成２０年生徒募集停止、２２年閉校）し、さらなる人口流出の危機
・そうした中、平成１９年に浦幌小・中学校の教員と保護者、地域住民が集まり、子どもたちに地域の魅力を伝え、愛着を持ってもらうことを目的に「うらほろスタイル教育プロジェクト」がスタート（この時に実施した、総合学習などの学校の取り組みが「うらほろスタイル」の原型）
・この取り組みによって、子どもたちだけでなく、周りの大人たちの意識も変化するなど、浦幌町の活性化に向けた大きなきっかけになった。

・この流れを浦幌町全体の活動として広げていきたい考えにより、平成２０年に保護者や地域住民、浦幌町が地域協議会を設立し、具体的な行動計画である「うらほろスタイルふるさとづくり計画」を策定した。

北海道浦幌町「うらほろスタイルふるさとづくり計画」

キャッチフレーズは

「子どもが変われば、大人が変わり、地域が変わる、社会が変わる！」

大人たちがすべきことは、過去から受け継いだ地域（社会・つながり）を次の世代（子ども）に引き継ぐこと。そのためには

「子どもたちが夢と希望を抱ける地域を築いていかなければいけない」

ということが基本理念

取り組むプロジェクト

・「地域への愛着を育む事業」 小・中学校が中心となり、総合的な学習の時間などを活用して展開。「地域の魅力発見」などの体験活動を通し、子どもたちが主体的に地域への愛着を育む取り組みを実施

・「子どもの想い実現事業」「地域への愛着を育む事業」などの実施により、子どもたちから提案された地域活性化の企画を、大人たちの手で実現していく

・「農村つながり体験事業」 農林漁業を子どもたちが体験。小学5年生時に、農林漁家で生活体験、民泊を行い、食べ物を生産する営みの大切さ、感謝や思いやりの心、産地に生まれたことへの自信と誇りの育成を目指す取り組み。

これら3つのプロジェクトを進めた結果、「浦幌が好き」「将来、浦幌で就職し住みたい」という子どもたち、「一度、浦幌を離れたけども、浦幌に戻り仕事をしたい」という若い人が増加。しかし、実際に浦幌で就職しようと考えた時、「働く場所がない」「自分がしたい仕事がない」という問題がある。

それを解決するため、４つ目のプロジェクトを開始。

・「若者の仕事創造事業」 浦幌に住むという希望がかなわず、浦幌町以外で就職している状況もあるのではないかと考え、若者の雇用の場の確保やU・I・Jターンした若者や創業を考える若者が集える場、活躍する場づくりを目指して取り組んでいる→現在は町の花「ハマナス」を活用した６次産業化などに取り組む

北海道浦幌町「うらほろスタイルふるさとづくり計画」のこれまでの成果

・以前、「浦幌には何もない」と思っていた子どもたちが、地域での体験学習を通して浦幌町の魅力に触れることで、地域への愛着や自信、誇りが芽生えるとともに、地域へ貢献しようという意識が生まれてきている。

・大人たちも、子どもたちの学びや提案された地域活性化の企画を知ることで、子どもたちのために、地域のためにという意識が生まれた。子どもたちに地域の大人が提案を実現しようと努力する姿を見せることで、地域への愛着が増す好循環が生まれている

・行政も、子どもを核とした町づくりに大きな可能性を感じ、まちづくりを進める重要な施策の一つになっている

・「うらほろスタイル推進事業」が基盤となり、町内小中学校5校で小中一貫コミュニティ・スクールを実施。

北海道浦幌町「うらほろスタイルふるさとづくり計画」のこれまでの成果

・「地域の持続可能性の実現」という地域課題の解決に向けた地域人材育成の取り組みが、学校、地域、行政と多種多様な立場の連携・協力・協働により推進されているプロジェクト。それが「地域

とともにある学校づくり」、「学校を協働の場・核とする地域づくり」につながり、子どもたち、学校、地域、行政が、互いの学びから学ぶ「学び合い」が実現している。

福島県双葉郡8町村　「ふるさと創造学」

東日本大震災による福島第一原発事故の被害により、5町村で避難指示が出されたまま。学校も避難先にちらばり、地域が失われている現状がある。その中で、復興を担う人材を育成しようとスタートした取り組み。

- 「震災で子どもたちが得た経験を、生きる力に」との思いからはじまった、双葉郡 8 町村の学校が地域を題材に取り組む、探究的な学習活動の総称。
- 子どもたちの実践的な学びが地域を勇気づけ、地域の人びととの出会いが子どもたちの学びを充実させる、教育と地域活性化の相乗効果を生み出そうと、「双葉郡教育復興ビジョン」をもとに、平成26年度にスタート。

狙い

- 自ら未来を切り拓く力とふるさとへの誇りを育むことを目指す。
- 学習を通じ、自分の考えを持って、多様な他者と一緒に、知識や技能を活用し、課題を解決できるように、主体性・協働性・創造性を伸ばす。

福島県双葉郡8町村　「ふるさと創造学」

どのように進める

日常生活や地域社会に目を向けて、子供たちが自ら課題発見と解決のために思考し学ぶアクティブ・ラーニングを重視。

- 「総合的な学習の時間」を中心に、課題やテーマを設定し、情報を集め、整理・分析して考え、まとめて表現するという、一連の探究的な学習プロセスを通じて学ぶ
- 伝統文化や歴史、自然、くらし、産業、復興・まちづくりなど、地域に関わる「もの」「こと」「ひと」のすべてが学びの素材。地域に関わる人びとの思いや考えも対象となる
- それぞれのまちや学校の特色を生かし、地域や学校外の団体と連携したり、体験的な活動を取り入れたりして進めている

福島県双葉郡8町村　「ふるさと創造学」

実際の取り組み

大熊町立大熊中学校→会津若松市に避難

・ふるさと大熊町のために自分のできることはどのようなことか「一人一研究」を基本に、子どもたちが研究を進める。
・課題をつくるために、役場職員から町の現状や復興計画について話を聞いたり、町民の声に耳を傾けたりした。県外の商業施設で福島県産の野菜の販売状況を調べたりした。
・その中から設定した研究テーマは「県内外に避難する大熊町民の絆を深めるにはどうしたらいいか」「大熊町を最終処分場にしないためのよりよい最終処分の研究」「消えつつある大熊町の伝統芸能や民話の継承をどうすればいいか」「原発に頼らないでエネルギーを賄うために私たちにできることは何か」など
・研究成果は、町民のためなど各種発表会で発表

福島県双葉郡8町村　「ふるさと創造学」

実際の取り組み

富岡町立富岡第一・第二小学校→三春町に避難

・特徴的な取り組みは5年生。町に関するラジオ番組を作り、臨時災害FM局で放送する。
・各地に避難する町民（中学生～お年寄りまで幅広い年齢）に話を聞き、避難前の町の思い出、町の良いところ、子どもたちへの思いなどをまとめる。
・その内容から、番組を作成する。
・子どもたちが多くのことを学ぶことはもちろん、ラジオを聞いた町民たちが故郷を思い出すきっかけになる。
・各町村立小中学校に加え、新たに開校した県立ふたば未来学園高校でも「ふるさと創造学」の取り組みを実施。復興を担い国際的に活躍できる人材を育成する。
・各町村立小中学校、県立ふたば未来学園高校は、避難によってバラバラになった住民たちの心のよりどころになっており、将来の地域復興に向けた核になることも期待される。

その他の取り組み

高知県南国市立稲生小学校
・PTCAによる学校支援活動から、公民館を核とした地域支援活動に発展。高齢化が進む地域休眠が元気になり、地域活性化につながる
岩手県紫波町「オガールプロジェクト」
・新しく整備された図書館・情報交流館（生涯学習施設）に町民らが集い、主体的にさまざまな活動を実施。生涯学習の力で賑わいを創出。→学校支援活動からスタートし、地域住民が対話を重ねながら地域を元気にする活動を行う土壌が作られていたことがプロジェクトの成功と発展を生む
この他、
兵庫県立龍野北高校（地域の協力によるファッションショーや蔵の修復を通じた地場産業との出会い）、
仙台市立吉成小学校（震災の被害が少なかった学校による、被害が大きかった地域への支援）、
茨城県つくば市（小中一貫教育、ITCの活用、つくばスタイル科）などがある。

木島平村が現在進めていることは？

保育園・小学校・中学校を貫く協働的な学びへの取り組み
・教育課程を4・3・2に区分した小中一貫教育
・「協同的な学び」（アクティブ・ラーニング）
・コミュニティ・スクール（CS）
※ 木島平ふるさと学習、CSコーディネーター研修会（熟議）など、学校と地域をはじめいろいろな人たちが協働した取り組みが行われている
⇒これは、事例紹介した「学びの力で地域を元気に」する近未来の教育の姿に重なりませんか？
・保育園も入って取り組みを行っていることが、他地域にはないアドバンテージ
これまでの取り組みを充実、発展させることが、何より重要

ご清聴ありがとうございました

参考文献
平成28年度文部科学省行政説明資料
秋田県大館市教育委員会資料
北海道浦幌町資料
福島県双葉郡教育復興教育ビジョン推進協議会資料
長野県木島平村教育委員会資料

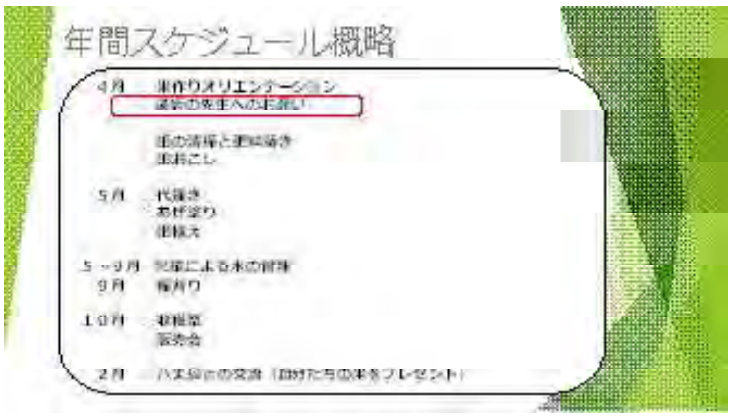
Ｂ　地域にかかわるふるさと学習の発表

①米作りを通して学んだこと　（木島平小学校）

発表者　今井　輝彦　教諭

○木島平小学校で、昨年度の５年生が行った、米作りを通して学んだことを発表します。
○学校の水田は、校舎に隣接していて、面積は１５ａです。
○５年生交流先の八丈島の先生方も、すごい！　と驚く広さです。

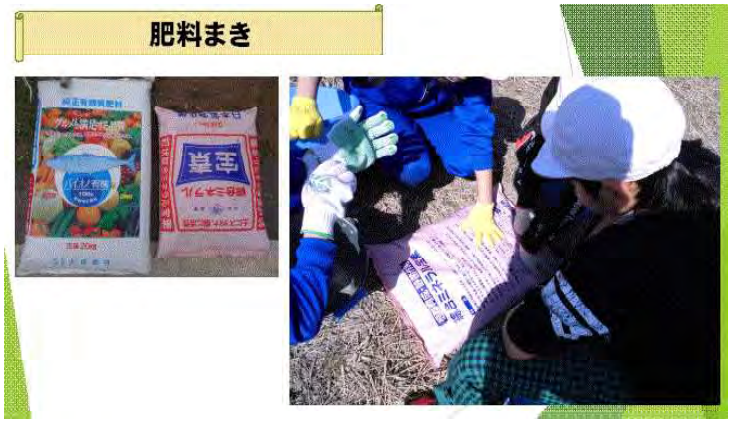
○米作りは、総合的な学習の時間で、年間、全学年を通して位置付いています。
○全校で活動することは、田植え、稲刈り、収穫祭です。ですから、小学１年生から６年生まで、木島平村の基幹産業である米作りに関わっています。



○５年生がやることと、全校でやることに分かれています。
○５年生は、特に、長年講師をして頂いている、佐藤正市さんにお願いにあがることをはじめとして、田植えの準備、水の管理、米の販売、八丈島との交流まで、一年間のサイクルで学習を進めています。

○木島平村の耕地
　全体　１０４５．１７ｈａ
　田　　６４６．９９ｈａ
　畑　　３９８．１８ｈａ
　農家は、４２２戸あります。
○村内の米作りのスペシャリストは何人かいます。そのうちの第一人者の佐藤正市さんです。

○スペシャリストから子ども達はこんなことを学びたいという願いを持っています。
・木島平の、安心・安全なお米を作りたい。
・佐藤さんから、本物を学びたい。



○安心・安全なお米を…という願いを叶えるためにも、肥料にもこだわる、木島平のお米をしりました。
○このことに子どもも驚き、袋の成分表示をじっくりと読み、有機農法にも気付いていきました。

○子ども達自慢の看板です。
・すごいお米を作っているという自信につながっていきました。
・木島平米ブランド研究会という任意団体が、小学校の米作りを支えてくださいます。

○子ども達の記録から
・安心安全なお米作りには、肥料も大切だということがわかった。ぼくたちがまいた肥料は、「特別肥料」で、安全で、、しかも稲がよく育つそうです。

○米作りを通して、他教科とのつながり
・社会科の農業単元での鋭い気付きへとつながっていきました。（現代農業の機械化）
⇒横断的な学びと言えます。

○水が命
・米作りには水が大切な要素であることを知った子ども達は、水漏れがないよう、泥が顔にくっつくのではないかというところで、真剣に作業に向かっていました。

○田作りの基本　畔塗り
・膝まで泥につかります。
・水漏れのないよう、手でしっかりと畔に泥を塗ります。

○佐藤さんの機械にくっついて回る子ども達
・自分でやっているかのような気持ちになる子ども達。
・いつも、子ども達に作業を見せてくれる佐藤さん。
⇒心の絆を感じる場面です。

○田植え集会
○本校では、全校で田んぼに関わる形をとっています。そのため、５年生は、佐藤さんから学んだことを、自分たちの知識として、全校に伝えていく場面が何度かあります。

○頭の中で、分かっていることをどうすれば伝えられか、よく考え､工夫して発表します。
・現物で説明したり
・模範演技でしめしたり…

○全校田植え
・５年生が全体進行をし、
　１・６年
　２・５年
　３・４年
の姉妹学級で、田植えを一日かけて行います。

○姉妹学級でペアを作り田植え
・５年生は、全体の運営にあたります。６年間ですべて異学年との交流になります。
⇒学年意識と異年齢交流が生まれます。

○地域との関わり
・村の任意団体「田植え歌の会」の皆さんが、田植えのことを聞きつけて、自主的に来てくださいました。
⇒地域の伝統芸能を伝承していただいた時間にもなりました。

○５年生の特権！！
・田植機に子ども達を乗せて運行する佐藤さん。
・子ども達の表情がとてもよい。学校の先生とは違う、学びの場。

○姉妹学級との関わり
・年上が年下の子の面倒を見る。冷たい水で一生懸命ペアの子の足を洗う子ども達。これはずっと続く伝統です。この子達も昔はやってもらう側だった。

○毎日行う水の管理
・水量調節の難しさを実感します。
・天候により、村の水源の量の変化にも気付いていきました。

○水量を調節する場所
・草等が引っかかり、水量が落ちることも…
・蛇やネズミが引っかかっていて、地域の方に助けていただいたこともありました。

○事件かな！
・白くなった稲穂に驚く子ども達。心配で、田んぼの中を回り調べた。
・すぐに、佐藤さんに相談に向かう子ども達。

○稲の花
・この夏は、冷夏でなかなか花が咲かず、子ども達は心配してました。
・でも稲の花と聞いて一安心。
・一粒一粒に花が咲くことに気付いた子ども達。
⇒理科とのコラボ

○全校稲刈り
・いよいよ収穫です。
・スペシャリストの佐藤さん達と行いました。
・一面の黄金色に、全校も大喜びです。
・どれだけ収穫できるのか、わくわくしていました。

○手作業の稲刈り
・本校の子ども達は、全員稲刈り鎌で手作業の稲刈りを体験します。

○一粒に思いを馳せる
・落ちているお米を一生懸命拾い続ける子ども達の姿がありました。
・お米は八十八の手間がかかる。その営みを大切に。

○米農家の方達の苦労を実感
・子ども達の記録を見ると、自然を相手にすることの大変さや、自然のすごさやを目の当たりにした記録が多く見られました。

○木島平村の地域性のよさ
・お二人の保護者の方が、稲刈りに駆けつけてくださった。
・村で子どもを育てる。学びを充実させ、豊かにしてくれているという現れです。本当に感謝です。

○他教科とのつながり
・図工…稲刈り作業。作品への思い入れがとても高まりました。
○その他に、
国語…米作り記録文
社会…農業、米の流通
理科…稲の成長の変化
算数…１ａ当たりの収穫量　等

○お米の検査
・グリーンセンターにて
・検査行程の見学
・「味が良い」という検査数値に大喜び

○１３．５俵の収穫
・米一俵…６０ｋｇ
・耕作地１５ａ
Ｑ：木島平小学校の田んぼの収穫量は、１ａ当たり何ｋｇになりますか。
Ａ：６０×１３．５＝８１０
　　８１０÷１５＝５４
Ａｎｓ１ａ当たり５４ｋｇ

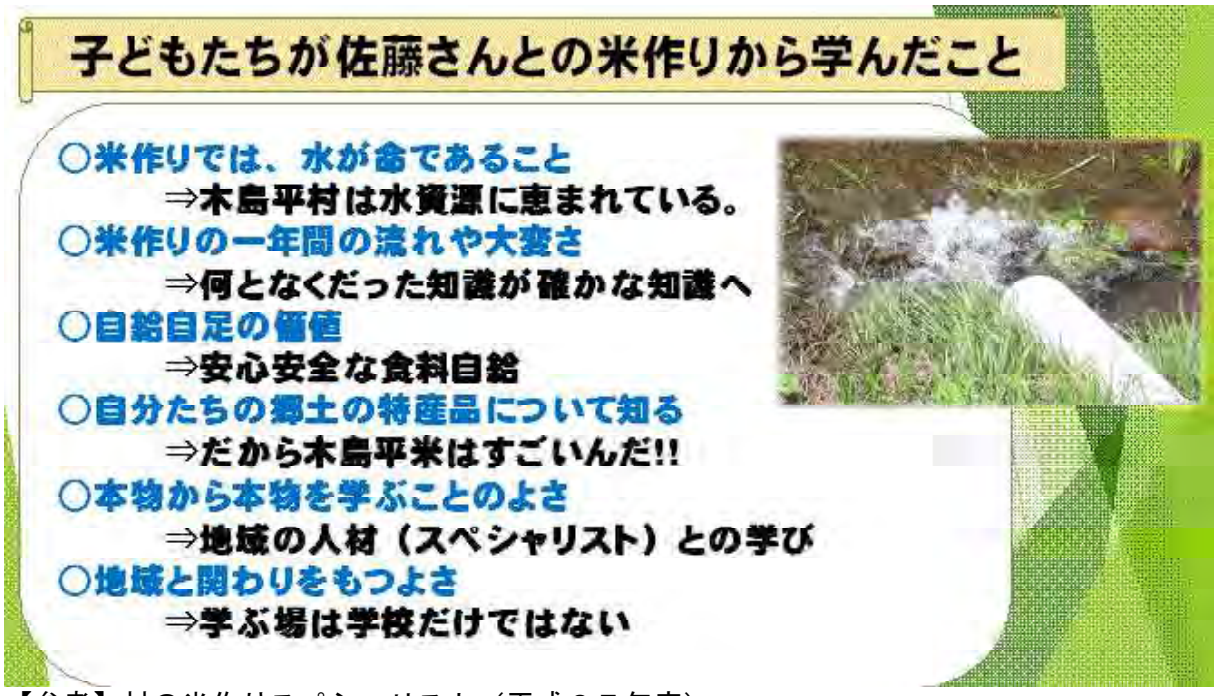
○米食味分析鑑定コンクール
・６年連続入賞！
・金賞４年連続
・一昨年、昨年は特別優秀賞
（昨年度は、小学校部門で
金賞…３校
特別優秀賞…７校
で、全国１０位以内に入賞）

○収穫祭
・自分たちの学びを深めていただいた方への感謝の気持ちを表す会
・家庭科で学んだことを生かして、おにぎり作り、プレゼントの小物入れ作り

○収穫祭
・収穫したお米で、全校分のおにぎりを握る
・感謝の気持ちを込めた、８０種類の手作りシールを貼る

○全員で試食
左…おいしく食べてもらえて、うれしそうな子ども達。地域の食材の入った他のメニューも味わう。
右…近所の土屋さんも招待。子ども達の田んぼを心配し、自分から何年も水調整を一緒に見てくださっている。

○販売会
・保護者中心に２００袋（１袋３０ｋｇ）売れた。
・ふう太ネットでも宣伝
・自分で作った物を買ってもらえたという達成感。



【参考】村の米作りスペシャリスト（平成２７年度）

第17回 米・食味分析鑑定コンクール：国際大会の結果について

米・食味分析鑑定コンクールとは、米・食味鑑定士協会が主催する国内最大の ”お米のコンクール” であり、本年度は11月22日～23日に石川県小松市で開催されました。

今大会には、日本全国や海外から合計5,119点の米が出品され、自慢の米の美味しさを競い合いました。

【受賞者】（敬称略）

◆国際 総合部門

金賞

・木島平米ブランド研究会　吉川　昭

・木島平米ブランド研究会　(株)岳農　佐藤公敏

特別優秀賞

・木島平米ブランド研究会　竹内農園　竹内昭芳

・木島平米ブランド研究会　山嵜　徹

◆若手農業経営者部門：男性

特別優秀賞

・木島平米ブランド研究会　小池雅章

◆小学校部門

特別優秀賞

・木島平小学校　５学年

（村のホームページより）

②　輝け木島平！未来塾より「お年寄りとの交流」（木島平中学校）

発表者　木島平中学校　未来塾　お年寄りとの交流　講座　受講生
祢津 利宝　大羽　南　　萩原 梨帆　（中学３年生）

今年「お年寄りとの交流」グループで活動をしている３年生の祢津小町、大羽南、萩原梨帆です。今回はこのような機会をあたえていただきありがとうございます。

昨年度と今年度、１学期までの活動の報告をさせていただきます。昨年度は「夢ひろばから夢ひろげよう」という講座で、（南）５回の交流をしました。特に印象に残っているのは、真篠さんに教えてもらいながら作った、エプロンドレスです。とても細かい作業でしたが、真篠さんに優しく教えていただき、全員完成させることができました。
また何回かは、スタッフの方や来ていたお客さんとお話をしたり、一緒にお手玉や、あや取りをしたりして、楽しく遊ぶこともできました。

１年間の活動の最後には、夢ひろばの方々に感謝の気持ちを込めて、お礼の会を行いました。自分たちでクッキーや、きゅうりの漬物を作って持っていき、みなさんに喜んで食べていただき、うれしかったです。

高齢者の方々と話すと、自分たちは知らない昔の話や知恵を知ることができていい経験になりました。また来ている高齢者の方も、スタッフの方々もみんな笑顔で楽しく話していていいなと思いました。

５回の交流を通して、最初はみんな緊張していて、なかなかお年寄りの方と話せなかったけど、お年寄りの方やスタッフさんがやさしく話しかけてくださったので、楽しく交流できました。

ただ活動を通して、真篠さんをはじめ、スタッフさんや高齢者の方々に関わっていただくことが多く、自分たちから関わるということが少なかったように思いました。

今年はその反省をもとに、「自分たちから進んでお年寄りとの交流ができるようになりたい」という思いをもった２、３年生１２人のメンバーが集まりました。

今年の目標！

お年寄りの方ともっと積極的に関わりたい?

夢ひろばで大切にしていること！！

「あ」は「あいさつ」

「い」は「いいさぁ～、遠慮しないで」の気持ち

「う」は「うれしいよ」

「え」は「えがお」

「お」は「おかげさま」

第１回のオリエンテーションでは、真篠さんから「夢ひろば」で働いているスタッフさんが心がけていることを教えていただきました。

例えば、夢ひろばではお互いの「あ・い・う・え・お」というのがあります。

「あ」は「あいさつ」

「い」は「いいさあ～、遠慮しないで」の気持ち

「う」は「うれしいよ」　「え」は「えがお」　「お」は「おかげさま」

この他には、誰かと話すときには「いいね」、「せつないね」、「そうかい」など共感することや「気にかける」ことの大切さなどです。

やはり人とのつながりを持つためには、心配りが大切であることがわかりました。

そして、グループで話し合って、今年はさまざまな活動に挑戦することになりました。

まずは７月８日に夢ひろばで行われた軽トラ市への参加でした。

前日準備では、希望した６人で笹もちづくりを手伝いました。

まず、笹もちに使う笹を布巾できれいに拭き、もちを挟めそうな笹とダメな笹に区別しました。

次に、笹にもちを挟む作業をしました。お年寄りの方々がおもちを笹に乗せてくれて、それを私たちが挟んでならべました。とても熱いもちを素手でつかんで、形を整えていて、すごいと思いました。

今年度

軽トラ市に参加してみて

前日準備

希望者だけで笹もちづくりに参加

軽トラ市当日

笹もち作り第一弾が終わり、休憩をしました。スタッフの方々がお茶やお菓子、漬物などを用意してくれました。とてもおいしかったです。飲んだり食べたりしながら漬物のおいしい漬け方などのたくさんのお話をしました。

休憩の後は笹もちづくり第二弾です。少し慣れてきたので作業がとてもスムーズでした。

いよいよ当日。当日は、講座のメンバー全員で行き、前半、後半で販売活動と接客に分かれての活動でした。接客はお客さんに、お茶や甘酒を出したりお客さんとのお話をしたりしました。販売活動では、前日作った笹もち

以外にも、笹寿司や、お菓子、カップラーメン、スイカなどの販売もしました。

たくさんのお客さんが来てくれました。自分たちが頑張って作った笹もちが売れると、すごくうれしかったです。

最後は夢ひろばの皆さんと、記念撮影をしました。

とてもいい体験になってよかったです。

今講座では、活動の第２弾「９月９日の木中特設夢ひろば」に向けての準備を進めています。

準備の様子①

１回目の準備では、３つの班に分かれてホットケーキを練習で作りました。１５０ｍＬの牛乳を２００ｍＬ入れてしまい、生地が薄くなって、焼くとき、あまり膨らみませんでした。でも、食べてみたら美味しかったです。食べた後に、お手玉の練習をしました。動画を見ながら

歌に合わせていろいろな技を練習したけど、なかなかうまくいかなくてお手玉を何回も落としてしまいました。今も練習中ですが、みんな少しずつ上達しています。

準備の様子②

二回目の準備の時に、蒸しパンを作りました。生地を作って、バナナチップスを中に入れました。ホットプレートに水を１センチほど入れて蒸しました。生地のところに水が入ったりして大変でした。出来上がったものを食べてみると、中が生のものもありました。失敗してしまったけど、美味しくできたものもあってよかったです。

食べ終わったらけん玉とジェンガをしました。けん玉はもしもしかめよの歌に合わせて、やりました。できる人とできない人が半々でした。ジェンガは女子と男子に分かれてやりました。とても難しかったので、お年寄りとやるには向いていないと思いました。

まだ９月９日がどのようになるかは、わかりませんが、前半は、高齢者の方やスタッフさんと簡単な調理をし、後半は、私たちが昔の遊びを使った出し物をしようと考えています。もし、お時間がありましたら、「夢ひろば」に来ていただけると嬉しいです。

また木島平村には、南部地区の「夢ひろば」さんのようにお年寄りが毎日集まれる場所が他の地区にはないというお話をお聴きしました。ぜひ私たちの活動がきっかけとなって、中部地区、北部地区にも広がっていけばいいな、と思っています。

以上で、木島平中学校　高齢者との交流グループの発表を終わりにします。

③　地域とともにいきいき！私たちが目指す園芸福祉交流　（下高井農林高校）

発表者　下高井農林高等学校　グリーンデザイン科　園芸福祉コース
３年生　田中　理沙　　青木　里沙　　藤澤　由佳　　平井　くるみ

1　プロローグ

下高井農林高校がある木島平村は、ほとんどの家に田畑があり農作業を行っています。農業を行うには、とても恵まれた地域ですが、最近は高齢化が進み、平成２５年の調査によると木島平村の高齢化率は３４.５％と、全国や長野県と比較しても高い割合となっています。【図１】

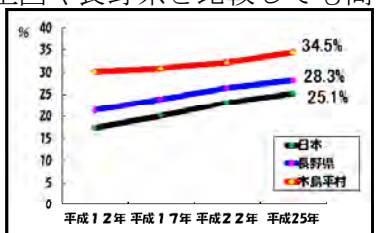


図１　６５歳以上人口の推移
（統計局HPより）

老人世帯が増え、農地を荒らしてしまったり、自分の仕事や役割がなくなったため、生きがいが持てずに家に引きこもり、地域とのつながりが薄れてしまうなどの問題もうまれています。そこで私たちは、高齢になっても元気に働ける地域づくりができないかを考えました。

2　目的

活動にあたって、以下の３つを目的とし、取り組むことにしました。

（１）農業高校で植物の基礎的な知識を学び、園芸福祉活動に活用します。
（２）高齢者の現状と課題を見つけ、園芸を軸とした解決策を探ります。
（３）地域の中につながりをつくり、情報の発信と活動の普及をしていきます。

３　私たちの取り組み

（１）今までの園芸福祉活動の取り組み

私たちは、平成２２年から地元のデイサービスセンターにて園芸福祉活動として利用者と一緒に野菜栽培交流を開始しました。園芸を通した相互理解や地域の特産野菜をとり入れるなど農林型園芸交流プログラム作成を確立させることができ、地域の人たちとの連携も拡大してきました。

（２）地域で実践そして普及に向けて

①園芸福祉講座の実施

私たちは、中学生や地域の方たちを対象に園芸福祉講座を開催しました。中学生からは、「園芸福祉を学びたい。」そして福祉関係の方からは、「園芸福祉の考え方を施設内に導入したい。」との言葉をいただきました。

②「園芸交流活動」の情報発信

これまで、私たちが地域の中で園芸交流を行ってきた結果、取り組みについて評価をいただきましたが、もっとたくさんの方たちとも園芸交流をしたいと考えました。

そこで、木島平村主催の「農村学講座」【図３】や「北信ブロックボランティアの集い」などで私たちの取り組みの発表をしました。発表会場では、聴衆に向け「私たちと一緒に園芸交流をしてみませんか？」と呼びかけました。

私たちはまずは「活動を知ってもらう」「活動に興味をもってもらう」そして「活動を実践してもらう」ことを目標に活動発表や PR 活動に力を入れました。

③園芸交流の拡大

「私たちと一緒に園芸活動をしませんか？」と投げかけたところ、冬の間に楽しめる園芸交流を馬曲集落で行ってもらいたいとの話を頂きました。私たちが講師役をつとめ、芝人形作りを行いました。また、隣の山ノ内町からも一緒に園芸活動を行うとともにノウハウを教えて欲しいとの要望もありました。

（３）高齢者福祉の現状と課題

①連携授業の実施

私たちは、地域の中で園芸交流を行うために、村役場・デイサービスセンター・木島平村社会福祉協議会・特別養護老人施設里山の家の職員から講演をしていただき、この地域の現状や福祉現場について教えていただきました。さまざまな立場の参加者が、理解を深め合う良い機会となり、職種を越えた連携による拠点づくりの第一歩がスタートしました。

②高齢者意識調査

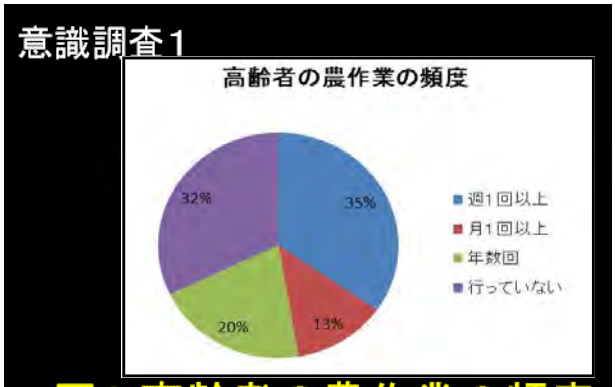


図2 高齢者の農作業の頻度

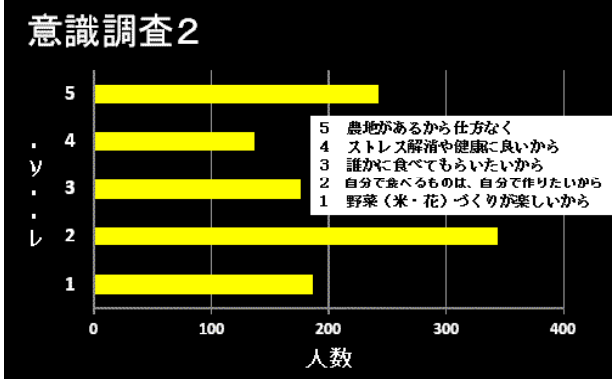


図3 農業を行っている理由

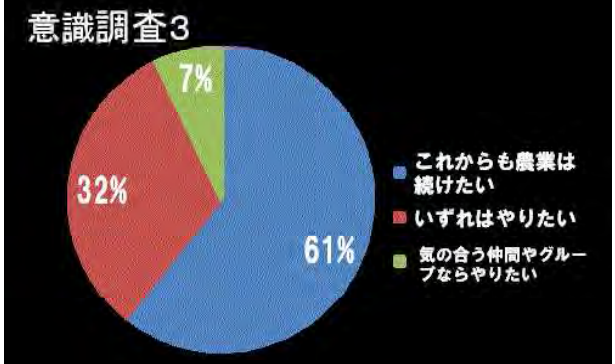


図4 今後の農業について

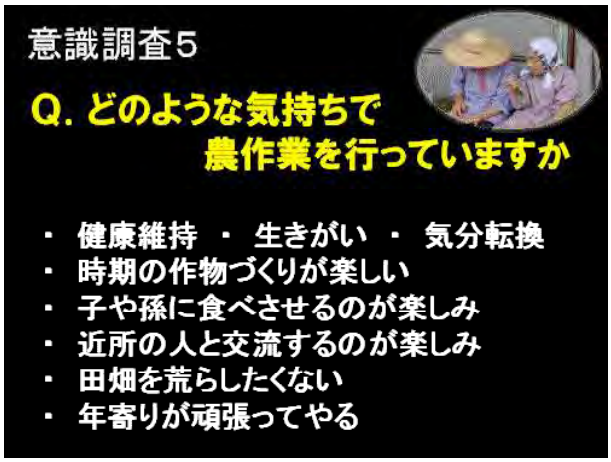
私たちは、さらに新分野「園芸福祉」について地域へ普及するため、木島平村役場が実施したアンケートをもとに高齢者の意識分析を行いました。

■意識調査１
「農作業はどれくらいやっていますか？」
図２のように現在の農業については、地域の実情から田畑があり、回数には差があるがほとんどの方がやっています。

■意識調査２
「農業をやっている理由は？」
図３のように農業を行うことにより楽しみを感じている人が多く、楽しみを農業に求めていると考えられます。

■意識調査３
「あなたの今後農業について」
図４より今後の農業については、今後も農業を続けたい。いずれはやりたいが多数でした。

■意識調査４
「どのような活動に参加したいですか」
　活動への参加意識は高く、７割の方が何かしらの活動に参加したいとの回答がありました。みんなで集まって活動したいという意識が高いのは、コミュニケーションをとる場面が増えるとともに、地域のきずなや仲間意識の向上につながります。



■意識調査５
「どのような気持ちで農作業を行っていますか。」
・健康維持・生きがい・気分転換・時期の作物づくりが楽しい・子や孫に食べさせるのが楽しみ・近所の人と交流するのが楽しみ・田畑を荒らしたくない・若い人は勤めで大変なので年寄りが頑張ってやる・趣味や娯楽活動・区の活動・若い世代との交流
　と考えていることが分かりました。

②拠点づくりの実際
　村が行った聞き取りやアンケート結果から、私たちは園芸福祉活動をさらに拡大していく必要があると考えました。そこで私たちは、学校近くの地域密着型特別養護老人ホームに、１００㎡の畑を作りました。

　そして、地域住民がここに集い園芸福祉交流をしていく環境を整えました。地域住民、施設利用者とともに農閑期にできる交流として、切り干し大根作り【図９】や干し柿つくり【図 10】を実践しました。高齢者ができない柿もぎなど、生産加工工程の一端を私たちが担うことによって地域のビジネスモデルとなろうとしています。

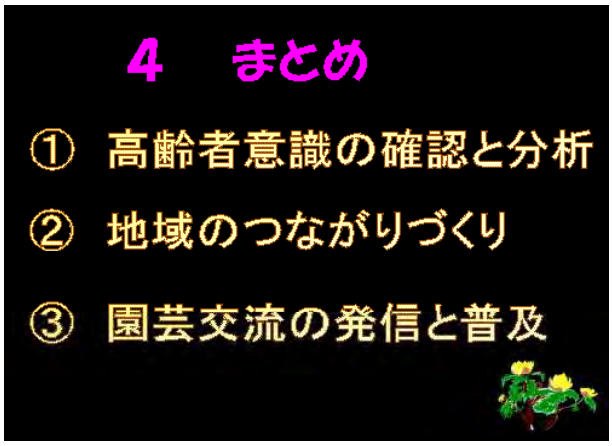
（４）高校生と地域をつなぐ園芸交流

昨年までの取り組みは、学校や施設を拠点とした活動でしたが、次の一歩を踏み出すためには地域の中に誰もが集える場所が必要だと考え、これに向けた活動も開始しました。

①拠点作りからつながりある地域へ

私たちは、木島平村役場、木島平村社協や地域住民の協力のもと耕作放棄地だった 200 ㎡の畑を耕し、交流畑を作りました。ここでは、大豆を栽培し収穫後は木づちと石臼を使った昔ながらの製法で伝統的な大豆の保存食である打ち豆を作ります。こうして作ると、皮がはがれにくく、煮崩れもしません。高齢者の冬仕事で作った打ち豆は、高齢者の冬の保存食として提供するとともに直売所などでの販売も検討しています。

４　まとめ



この研究をとおして、次の３点について実践することができました。

（１）農業・園芸に対する、高齢者の意識の確認と分析

（２）植物栽培を軸とした地域のつながりづくり

（３）園芸交流に関する情報発信と普及

私たちは、地域住民が高齢になっても生き甲斐を持ち自分らしく健康に暮らしていくためのひとつに、農作業は切り離せないことであると感じています。そこで、農作業を通した居場所と出番作り、仲間作りを地域住民ともに作っていくことが大切だと感じました。

5　今後の課題

今後の活動の中では、次のことを課題として取り組んで行こうと考えています。

（1）地域住民を対象とした園芸交流活動のさらなる普及
（2）次世代リーダーの育成および拠点の活用に向けた取り組み

6　エピローグ

私たちは、この活動をとおして、高齢化社会を担う私たちの使命を確認するとともに、農業高校の持つ新たな可能性に希望を持つことができました。今後も農園芸の交流を軸とした地域づくりをリードするため、日々、挑戦していきます。

ご静聴ありがとうございました。

四　熟議

（1）熟議のテーマと進め方　　（　池田　　剛　副会長　）

テーマ:「木島平で学べること・やりたいことPART Ⅱ」
～9年間の木島平ふるさと学習への提案～

熟議とは

◆多くの当事者が「熟慮」と「議論」を重ねながら、課題解決・政策形成をしていくことです。具体的には、
①多くの当事者（学校、保護者、地域住民）が集まって、
②課題について学習・熟慮し、議論することにより、
③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
④解決策が洗練され、
⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、
という話し合いのプロセスのことです。

熟議５ヵ条　（参加者の心構え）

①他の人の発言をよく聴きましょう。（聞く７割、話す３割くらいの気持ちで）
②発言は簡潔に分かりやすく伝えましょう。（結論を先に）
③人を傷つけない発言に心がけましょう。他人の意見を否定しない。
④共感や感想、自分の考えが変わったことなどを伝えましょう。
⑤一回の発言で言いたいことは一つだけ。

熟議を進めましょう　＊事前に決めたファシリテーター（進行推進役）により進めます。

内　　容		時間
事前説明	①テーマの説明、付箋紙の使い方　等　　（池田副会長）	１０分
熟議開始（前半）	◇各グループのファシリテーターによる進行（含む自己紹介） ②テーマに関する課題の抽出 〇木島平ふるさと学習の９年間で取り入れてみたい、地域をステージとした学習活動を考えましょう。 ・やってみたいこと、こんな取り組みが考えられるなど、付せんＡに一人３枚程度書く。（１枚１事項）	２０分
	③１人ずつ付せんを読み上げ、模造紙に貼っていく。 ・取り上げた活動が、どの学年に位置付くのがいいのか、意見を交換する。 ・似たような学習活動があれば、線で結び、その関係を考える。（例：文化伝承系、福祉系、産業系、環境保存・防災系、自然系、国際理解系等） ・それらの活動を通して、どのような能力が形成されるのか、一覧表を通して考え、付せんを貼る。 ＊前半部分を、近くのパネルに貼る。	２０分

熟議後半	④パネルから机上に戻し、参加者全員で、出された内容を整理し、ふるさと学習の見出しを考える。 ・同じ学習活動をマジックで囲み、それにふさわしいタイトルを付ける。 ・総合的な学習以外の教科との関連性を考える。 ＊再び近くのパネルに貼る。	２０分
振り返り	⑤ワールドカフェ的に、お互いのパネルを見合う。 ・テーブルホストを二人決め、１０分交代で他のパネルを見合い、意見交換をする。 ・客となって他のパネルを訪れたとき、良いと思った活動には、「イイネ！シール」を貼る。（一人３枚） ・５分単位で、自分以外のパネルを４カ所訪れる	２０分
	⑥各グループでの結果を見合いながら、役立ちそうな情報などを発表しあい、全体で共有する。 ・全体のファシリテーター（池田）が特徴的なパネルを紹介し、インタビューで良い点を尋ねる。 ・他の参観者の感想などを聞く。	２０分

【ＥＳＤとの関連について】

持続可能な開発のための教育(ESD:Education for Sustainable Development)は、私たちとその子孫たちが、この地球で生きていくことを困難にするような問題をについて考え、立ち向かい、解決するための学びです。ESDは持続可能な社会の担い手を育む教育です。

ESDの実践には、特に次の２つの観点が必要です。

・人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
・他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと

以上の観点から、今回の熟議のテーマ「木島平で学べること・やりたいことＰＡＲＴⅡ」はＥＳＤと重なると主催者は考えています。

ESDの概念図

〇ＥＳＤの活動例（ユネスコスクールの資料より）

“暮らす”の観点から…

・自分たちが住む町の文化や人のつながりについての学習
・自分たちが住む町の防災に関する学習
・自然がもたらす恵みや災害に関する学習
・エネルギーの大切さや環境問題についての学習

″食べる″の観点から…

・自然の仕組みと食の関係についての学習
・季節や地域の文化と食べ物の関係についての学習
・食料の生産、輸送、消費を通じた国内や世界のつながりについての学習
・食と健康の関係や食の安全に関する学習

″生きる″の観点から…

・身近な生き物の観察や、生き物の分布の地域比較を通じた、生き物と環境のつながりに関する学習
・私達の生活と生態系のつながりに関する学習

木島平で学べること・やりたいことPART II　熟議　文化・伝統

区分		A 班
後期	中3	○有機・無添加・伝統食・地元食材を使った加工品開発（出来すぎた野菜の有効利用） ファームスに売り込む ★質⇒米作り ★けやき祭に売店を ・地元産の野菜 ・食品 ○外からのお客さんに観光案内をする。 ○木島平の自然 ・動物 ・虫 ・魚 ☆三世代で済んでいる。または、三世代が近くに住んでいる。（家族の絆）
	中2	○木島平の ・産業分布 ・生産高調べ ○米・農作物の収穫の喜び ○仕事をやっている人へのインタビュー 販売に目を向けているとこがよい。村外にも買ってもらう、産地直送、市場などつくってもいい。 ○給食センターの見学 ・身の回りの事を知る。できれば何かを体験する。 ・食のありがたみ 中学生がでたんて作し喜ぶ。参加が回れる。人でく ☆村のオリエンテーション ・楽しみながらスタンプラリー ・クイズ（神社）
中期	中1	○地域産業について ・牧場・農業・スキー産業・馬曲温泉など地域に出て学ぶ ☆米づくりから ⇒水資源の豊富さ 水源地調べ ⇒水源開発の歴史 稲作の歴史　調べ 東京へも進出！ ・インターネット販売 ○地域に伝わる ・民話 ・昔話　を学ぶ
	小6	○小中合同でお米の売り出し ○夏祭りやけやき祭など 米作り（２段階） 小５ ↓ 小３ 産業（米）・資源 地域と人と ○昔話やライフヒストリーの ・聞き書き ・編集 ○普段の生活に対しての意見文を書く。（自分を見直す） ・校内発表、けやき祭
	小5	○小学校が作った米を中学校が加工して売る。 ○小中で祭り屋台出してみる。 発信 ひと・産業・地域・ふるさと・米農業 ○高社山登山 ・地域の環境の良さを知る。 ・体力づくり
前期	小4	米の販売で大事にしたいこと★ ①小中合同で★★ ②　クオリティ（質の向上）☆ 安心・安全　金賞であること　など ③　宣伝の工夫（ネット販売など） ★★★ ○小学校高学年 ・蛍を守る活動 ・鑑賞 ○これがクラス最後なので、何か団結力のあるものを。 例：夏祭りの山車を作る
	小3	○冬のスキー ・上級生と、下級生の交流 ☆保育園児と遊ぼう ・異年齢交流 ・保小の交流
	小2	収入が安定するには？
	小1	

区分 | 自然・生物 | 産　業 | コメント・標題　☆イイネ　★複数

B　班

後期

中3

○修学旅行の日程を長くする。
・人生の経験を高めるため。大人になって役立つように

★★村行政への参加
・中３の村長への提言
☆中学生の模擬議会

○地域の特色のＰＲ
・休耕田活用⇒ソバ
・原大沢の福寿草祭り
・下高井農林高校の取り組み
・木島平の雪祭り

村のＰＲ

中2

○外国人との交流
・台湾、香港からのスキー合宿
（生きる英語））

○村の政治
私たちの提言

★★★
地域ハローワーク
・大館市のような
・農業のお手伝いも可
・ボランティア活動
・いろいろな所に行って、いろいろなことを体験しながらお手伝いしたい
・夢ひろばを村全体へ。
→福祉ボランティア

○木曽義仲伝説
・木島平村誌に紹介されている木曽義仲と県歌「信濃の国」社会科の歴史学習

☆中学校の部活動
・外部指導者の活用
・社会体育と連携した、地域総合クラブ化
・地域の指導者が平日にも来て、子ども達と交流する

中期

中1

○保育園の子どもともっと交流したい。中学生として、保育園児との交流しいっぱい遊びたい

☆根塚遺跡
・大塚山⇒県下で一番低い山？
・塚巡り
・等高線学習

小6

☆ベルマーク集め
・学校備品の整備
・災害地への寄付
・村全体で

○小６の村長への提言
・村議会の見学

☆年中行事への参加
・平安・室町時代から続く行事
・昔ながらの行事を大切に

○地域とのスポーツ交流
・お年寄り中心に

小5

つながりを深める

・地域のボランティア
・ハローワーク

村の歴史と地理

地域ぐるみのスポーツ活動

前期

小4

☆長坂織部
・郷土の発達に尽くした人
・今の米作りに大切な水の確保
・４年の社会科

小3

☆炭づくり
・今の６年生が３，４年で取り組む
・村の山の資源の活用
・木炭・竹炭 ─ 販売活動・活用（バーベキュー）
・山の自然に親しむ

★技を持った子どもづくり
○木島平独自カリキュラム
・ＢＢＱ（キャンプ）の達人
・スキーの指導員
・米・野菜（農業）の育て方

小2

木島平の達人を目指して

○体育の授業で
地域の施設を利用して
⇒小学校
・マレットゴルフ
・ゲートボール
・スキー
⇒保育園
・風船
・鬼ごっこ

小1

木島平で学べること・やりたいことPART II　熟議

区分		C　班
後期	中3	☆「わせだいら」との交流 ・学習相談 ○木島平村アピール ・中学生によるコーディネーター（村の案内） ○中学生による農業講座 ・学級園の充実 宝探し ☆発掘体験 ☆ドローンで木島平発見
	中2	☆大学生受け入れ ・農業体験を一緒にやる ・地元の子どもとの交流 win & win ・大学生との交流 ★★★★木島平のパワースポット ・探す ・つくる ・人を呼ぶ ○ふれあい交流の回数を増やす ・小学生から中学生になると、友だちとの会話が少なくなるので ・小学生の、中学生は怖いというイメージを払う ○環境保護ボランティア ・地域のゴミ拾い ・草取り
中期	中1	大学生との交流 ★ SNS で木島平をアピール ○小学 6 年生の、中学校体験入学を増やす ・中学生と協働して中学校生活の雰囲気を味わう ☆地区別運動会 ○家の手伝い
	小6	☆サシバと米作りとの関わりの研究 ・生物環境 情報・アピール系
	小5	サシバの渡り地区間の情報交換 ・国際交流 ○地域を元気にする小学校祭 ・学校を地区に開放 ・地区の人との交流 世代間交流
前期	小4	
	小3	
	小2	
	小1	

文化・伝統	自然・生物	産　業	コメント・標題

D 班

村への提言★★★★★

★今の木島平とこれからの木島平
・村の現状を知る
・これから村がどうあるべきかを考え発信する

★村長・村議会への提言
・人口対策
・産業振興
・観光開発　等

観光・魅力発信

★木島平村魅力マップづくり
⇒観光客への配布

☆観光パンフレットづくり
・村のおすすめスポットを紹介
・英語版も作る

地域文化の伝承

○２１世紀算額プロジェクト
・現代の野口湖龍を目指して
・地域学び合い学習

○郷土料理の伝承
・いもなます
・笹寿司
・煮物
・笹餅

○鬼島太鼓の伝承
・鑑賞会
・体験
・音楽家との関連

○高齢者への聞き取り
・子ども時代の思い出

○誘客イベント①
○ツアー企画
・小中学生が考える、小中学生向けの村遊びツアー企画

○誘客イベント②
○村の豊かな自然環境を活かしたイベント企画・運営
・トレイルランニング大会
・川のぼり　など

○誘客イベント③
○歓迎隊
・ようこそ木島平へ
・また来てね木島平へ

○米
・米作り
・米の流通
・米の販売
・米の評価
⇒村以外にも発信

○そばづくり
・そば畑
・収穫
・そば打ち
・そば料理

○農林高校生に教えてもらう

☆小学生の視点でのマップづくり
・あの場所から見える夕日がきれいだ

交流・ふれあい

☆他の学校との交流

○高齢者との交流
・協力すること
・雪下ろしなど

☆地域の方を招いて学ぶ
小⇒１学級１教師
どの教科でもＯＫ
中⇒１教科１教師

○都会にはない木島平の特色を学ぶ

○長期休み・放課後に
・学習講座
・遊び講座
・職体験講座
開講

○総合の時間で地域と交流できる

○身近な人とのふれあい

自　然

☆自然の恵み・雪を活かせ
・雪は貴重な資源
・利雪、克雪←嫌雪

○みどりの少年団での木の育成

○木島平の水再発見プロジェクト
・米作りの命、清らかな水
・ゆき水・水脈
・樽川、馬曲川の水の活用

○自然の多い中で学ぶことで、豊かな考えが生まれる

生と死

☆死について学ぶ
・木島平での人生の終え方

☆誕生について学ぶ
・木島平で生まれる

木島平で学べること・やりたいことPART II　熟議

区分		E　班		
後期	中3	資源の活用・経済効果 ○村で出来ること体験 ・パラグライダー ・カヌー　など	○一年を通して楽しめる村づくり ・四季を感じる ・体験（農業・虫取り・スキー・和紙など）	★村の未来を語る ・こんな村になったらいいな ・中学生議会で提言・提案をする
	中2	○温泉に人を呼ぶ ○ファームスに村の特産品で集客 ・ズッキーニ ・米 ・酪農・乳製品 ⇒ブランド化	○スキー場の利用法を考える ○土地の安さをアピール	村づくりへの参　画
中期	中1	○特産品企画 ・村のものを使って村の名物を ⇒ＰＲ、販売	○空き家対策 ☆ファームスに人を呼ぶ	★塚の学習 ・周辺マップづくり ・村の歴史・文化マップ ・ボランティア案内
	小6			★水を学ぶ ・水源 ・先人達の苦労 ・水の大切さ
	小5	☆田んぼアートをやりたい ☆農地・休耕地コンクール	○野菜作りを通して地域と交流 ・ズッキーニ ・ヤーコン ・ピーマン	☆村に伝わる伝統食 ・やたら丼 ○みどりの少年団 ・森林学習 ・森林体験
前期	小4	☆菜の花咲かせ隊 ・休耕田利用で ・ヒマワリでもよい ⇒観光資源に	○きのこ栽培 ・商品化 ・菌付けした原木販売	☆村の伝統文化伝承 ・太鼓、横笛、獅子舞 ⇒早いうちの伝承
	小3	農地活用	★農業＋経済	○村探検 ・農村交流館 ・オススメスポット
	小2			歴史・文化伝　承
	小1			

文化・伝統	自然・生物	産　業	コメント・

F　班

★木島平村の良さをみんなに伝える

昔話 ↓　　観光 ↓　　子育て福祉 ↓

★保育園での読み聞かせ
・木島平の民話
・歴史

☆村の伝統品の商品づくり
・内山和紙など

○村の観光大使

☆日本一の地域作り
・高齢者が住みやすい
・子育てしやすい

★村の伝説の発掘
・残していく活動
・本⇒マップ
⇒散策

★外国人によるトーク
・日本の大学で学び、日本語を話せる外国人を招き、木島平の良さを話してもらう

☆若い人のアイディアを生かす
⇒実践できる場づくり

○村の方言の研究
・残していく活動
⇒テープ起こし
⇒お年寄りとの交流

☆日本一新幹線駅に近い日赤病院
・近隣市町村と協力して医師の充実を図る
・脳外科、心臓内科などの専門医療
・看護学校や老人施設の完備

交　流

○村の達人との交流

☆一斉グランド草取り、環境美化活動 BY 中学校

○小中学生もてなし隊
・一人暮らしの高齢者訪問

○空き教室開放
・地域の方と小中学生のふれあいの場（休み時間、放課後）

○小中高の交流
・地元産業を興す
・加工食品開発
・地域での仕事の確保
↓
・農林高生の進路

○他の学校との交流

○小中高の生徒の交流

○学校展覧会
・村のお年寄りの作品を小中学校で発表
・子ども達は、感想を書いて送る

自　然

○高社山の環境を生かした取り組み

☆特色ある生物・植物を生かした取り組み

○みどりの少年団
・小型水力発電
・ソーラーパネル
⇒省エネルギー

○冬季湛水・不耕起農法の田んぼづくり
・田んぼにいる生物の観察
・ホタルの里づくり

木島平で学べること・やりたいことPART II　熟議

区分　G　班

集い・交流

○お年寄りとの交流
・ゆめ広場（南部）
・中部
・北部でも実施

○語り合い
・Ｉターン者
・地域の普通の人（エライ人でなく普通の人…）

○他の学校との交流

○集いの場
・そこで○○
・野菜のフリーマーケット
・手作り小物

・仕入れ⇒販売
・生産⇒販売

○地域の人々と知り合える機会
・ゲートボール
・スポーツ
・歩く・登る（子どもと共に）

商　売

中学生の校外学習

○村外・県外の人との交流や見学
・村の良さを再確認

○勉強合宿
・学校で
・農村交流館で

★★村中ホームステイ

★中学生の社会見学

○世界遺産巡り
・歴史的建造物
・富岡製糸工場
など

木島平のお宝巡り

★★★★★★
木島平のパワースポットを探そう

○村の遺跡や建造物や遺産を再認識しよう
・全国や県レベルと比較して
・根塚遺跡
・芭蕉句碑

○ふるさと資料館にあるお宝を調べよう

地域の方から学ぶ

★★お年寄りと一緒にゲートボールをしよう
・低学年から
・室内競技場活用

○地域の方から学ぶ
・郷土料理
・昔の遊び
・民話

★鳥おどり
・今風の振り付け
・アップテンポの曲で

☆郷の家で学ぼう
・語り…地域に伝わる民話
・炉端を使った郷土料理

○伝統芸能の継承
・踊り
・民謡
・北信地区の童謡歌の研究

自　然

☆フラワーロード
・道路端に花を植えて育てる

☆水遊び
・樽川
・馬曲川

○植物の種類・名前を知る
・身近な植物

○水
・名水・米作り

○環境を知る地域巡りで
・植物や樹木
・生物

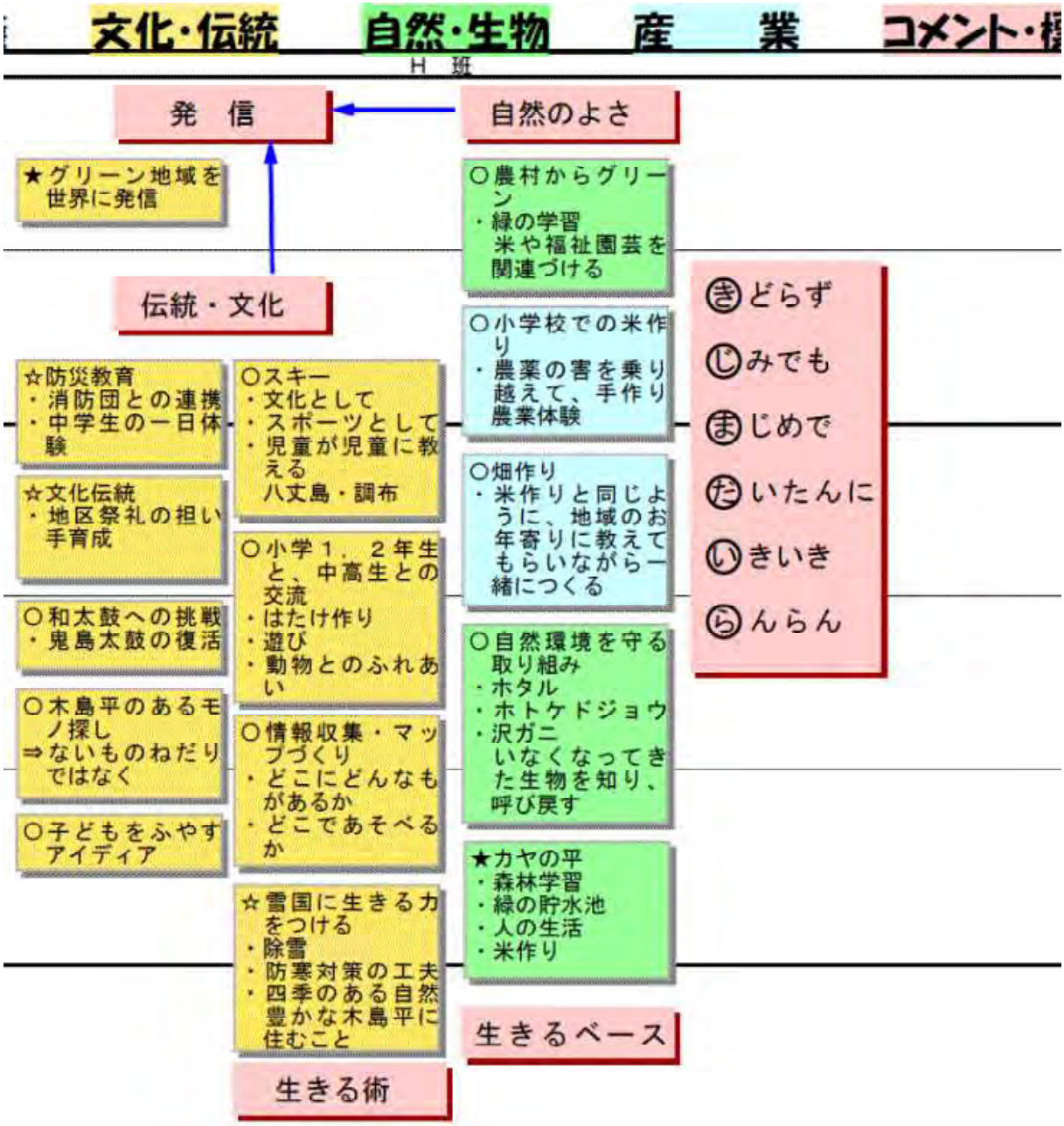
○虫と遊ぶ
・クワガタ
・カブトムシ

健康・食育

○自分の体を知ろう
・疑問に答える
・食との関わりを知る

☆食育
・命をいただく
・自然の恵み
・郷土食

区分：後期　中期　前期
学年：中3　中2　中1　小6　小5　小4　小3　小2　小1


文化・伝統
自然・生物
産　業
コメント・様
H　班
発　信
自然のよさ
★グリーン地域を世界に発信
○農村からグリーン
・緑の学習
米や福祉園芸を関連づける
伝統・文化
○小学校での米作り
・農薬の害を乗り越えて、手作り農業体験
☆防災教育
・消防団との連携
・中学生の一日体験
○スキー
・文化として
・スポーツとして
・児童が児童に教える
八丈島・調布
☆文化伝統
・地区祭礼の担い手育成
○畑作り
・米作りと同じように、地域のお年寄りに教えてもらいながら一緒につくる
○小学１，２年生と、中高生との交流
・はたけ作り
・遊び
・動物とのふれあい
○和太鼓への挑戦
・鬼島太鼓の復活
○自然環境を守る取り組み
・ホタル
・ホトケドジョウ
・沢ガニ
いなくなってきた生物を知り、呼び戻す
○木島平のあるモノ探し
⇒ないものねだりではなく
○情報収集・マップづくり
・どこにどんなものがあるか
・どこであそべるか
○子どもをふやすアイディア
★カヤの平
・森林学習
・緑の貯水池
・人の生活
・米作り
☆雪国に生きる力をつける
・除雪
・防寒対策の工夫
・四季のある自然豊かな木島平に住むこと
生きるベース
生きる術
き どらず
じ みでも
ま じめで
た いたんに
い きいき
ら んらん

木島平で学べること・やりたいことPART II　熟議　文化・伝統

区分　I 班

後期

中3

☆ 小中高のつながり 高校へ商品開発 販売へ

農業体験（職場体験）

発信、外国へ 大学生へ

中2

☆特産物を生かした商品開発
・流通にのせ、小中校生が一緒に売り込む
・米粉を生かした商品開発

☆中学生の物作り
・木島平村の特産品を利用したおいしい物（野菜・牛乳）づくり
⇒販売
⇒ファームス利用

○名人に学ぶ
⇒農業体験
・民泊しながら、第一次産業を学ぶ

☆地域創生で外部との交流

高齢者を巻き込んで活躍の場へ

○農家の仕事体験
⇒キャリア教育

中期

中1

★ 産業としての米づくり

歴史を学ぶ

★一人暮らしお年寄り家庭のマップづくり
・訪問してお話をする
・子どもが栽培し鉢植えの花プレゼント

○市民農園
⇒世代間交流

○地区ごとに、休耕地を利用した、野菜づくり体験を子どもと一緒に

小6

○木島平の米作り
・スペシャリストを多く集めて、米作り

○お米の追求
・なぜおいしいのか
・米の食べ比べ
⇒販売方法の工夫

○村の石造文化物調査・マップづくり
・石碑、石仏
・歌碑、句碑
・民間信仰

○若い人、高齢者との畑交流
・一人暮らしのお年寄りの農作業をサポートし、交流する

○敬老の日を利用して、子ども達と交流
・手仕事・話
・ゲーム　等

○文化伝承
・祭礼⇒参加
・伝統的な食文化

小5

水資源の活用

観光資源へ

☆古墳と鉄剣がなぜこの地にあるのか
・調べて劇に
・発表
（中学生の社会科）

前期

小4

★水・川の利用
・樽川の水
⇒冷たい
・けやき公園の川
⇒川遊びに
・やまびこ公園の水⇒川遊びに
（観光と子どもの遊び場）
・バーベキュー
・デイキャンプ場の設営

○湧水
・ホトケドジョウ
・カジカ
・ホタル

環境保全としての水田

○雪の利用
・雪の下の野菜
・雪遊び
・雪像づくり
・しみ渡り
・カヤの平のモービル遊び

○村民の方と一緒にスキーをしよう
・スキー教室指導員との交流

小3

○樽川、馬曲川の生物を知る
⇒カジカ・イワナの住める川に

★田んぼの生き物
⇒環境保全型農業
・カエル、ゲンゴロウ、メダカ、コウノトリ、トキ

○小中合同キャンプ体験（夏休み）
⇒自然を学ぶ

☆カヤの平の魅力をさらに広げる
⇒スーパー林道は自転車天国

○木島平でのイベントを増やす
・けやきの森公園などの自然を利用し、世代を超えて楽しめるイベント

小2

○里山学習
・キノコ、炭焼き
間伐

○「そば」を育む地域の環境
・気候・地質
・昆虫（花粉）
・獣害

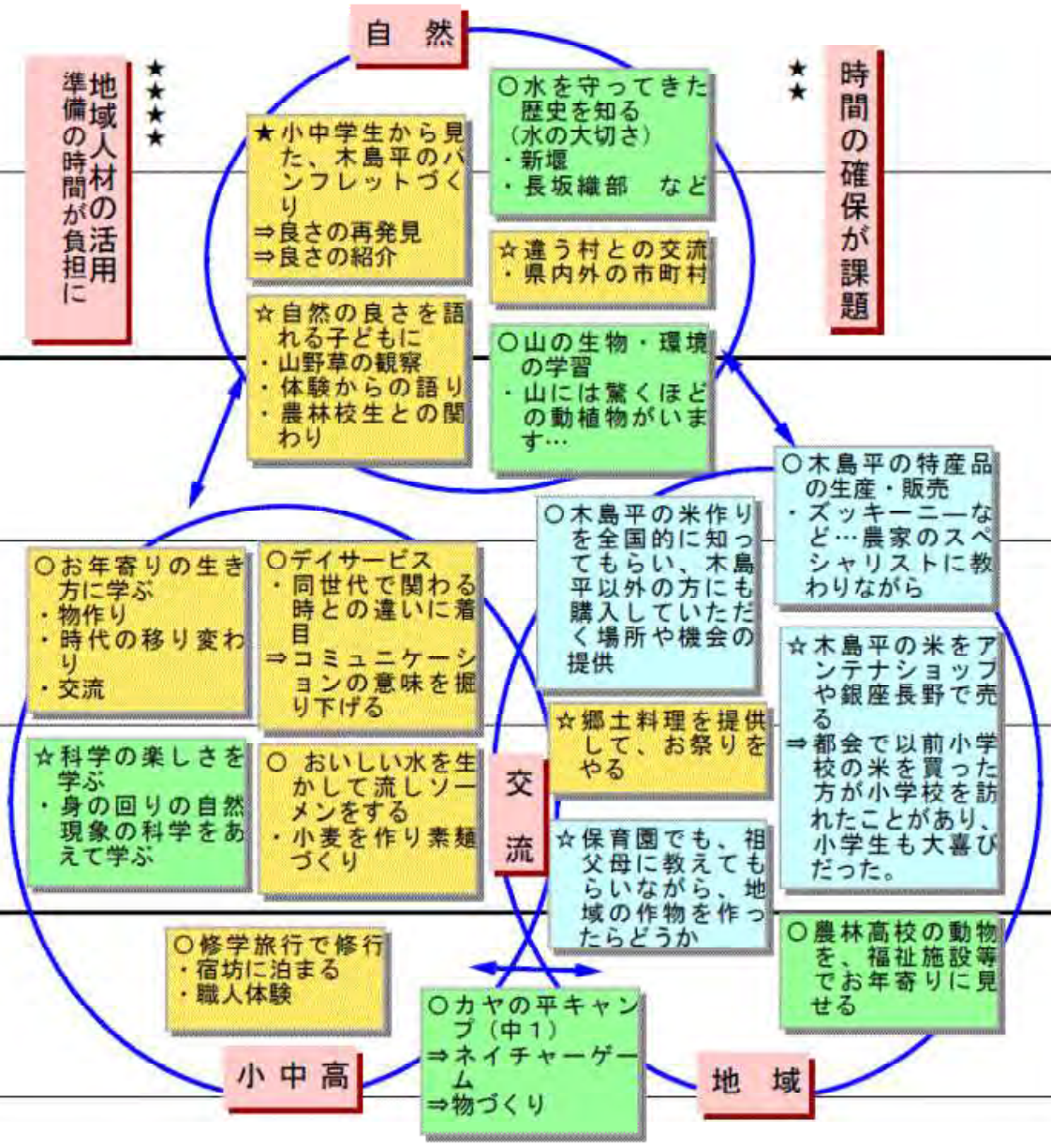
村民と一体になっての活動へ

☆スキー場に花いっぱい活動を

小1

自然・生物　産　業　コメント・標題　☆イイネ　★複数

J　班



木島平で学べること・やりたいことPART II　熟議

区分		K班			
後期	中3	交流		学ぶ	
		地域	学校間	起源	産業
	中2	○農業体験 ・村の高齢者の家に一日訪問し、体験する	○小・中・高の交流 ・互いにやってきたことを発表する		
中期	中1	○伝統的祭り継承 ・村内外を見渡し、笛太鼓、神楽の系統を調べる	★農林高校との交流 ・高⇔中 ・高⇔小 ・高校生の積極的な関わり	☆水資源の保全活動 ・元が大切 ・高齢化により危うい状態に	○進路について学ぶ ・農業以外 ・村の二次、三次産業
	小6		圏外 ★異文化交流 ・会わなくても、インターネット上での交流	☆木島平村に流れる水の起源を探る ・カヤノ平 ・長坂　織部	○地域の一次産業を知る ・米作り ・野菜作り ・特産品
	小5	☆米粉を使った調理活動 ・ファームスややまびこの丘との関わり	☆異文化交流 ・早稲田大学などの留学生との深い交流		☆米の流通について学ぶ
前期	小4	○俳句づくり ・芭蕉句碑巡りを通して、地域を知る	☆芸術家との交流 ・アーティストレジネンスの活用		
	小3	★民泊の実施 ・他人の家に泊まり、農業の手伝いなど体験	村の課題		○動物を育てて、命をいただく ・サフォーク ・豚　など
	小2	○昔の遊び ・地域の方に昔の遊びを聞いて、やってみる	○祭りや伝統行事への ・参加 ・伝承	○木島平村の高齢者の現状と課題を講義	
	小1				

文化・伝統　自然・生物　産　業　コメント・様

L　班

縦の糸・横の糸

☆大人と子どもの交流の場づくり
・親子対向球技大会とか

○高齢者との触れ合い
・仲良くなり一緒に出来ることを探す

○小～高と高齢者の方との交流
・一人暮らしのお年寄りを外に出そう

☆村歌のような村の体操やダンス
・編曲
・振り付け
・指導

○広域地域（中野以北）での交流の場のネットワークづくり

★おじいちゃん、おばあちゃんと学ぼう
・いろいろな知識
・いろいろな遊び

☆わくわく広場にお年寄りも参加して頂き、昔話を伝えてもらいたい

○小⇒中⇒高
・バトンをつないでいくような活動

地元の知恵

○生き方を学ぶ
・村内バージョン

○村出身で県外で活躍している方の話を聞く　＆
Ｉターンの方の話を聞く

○郷土料理を作ってみる

○自給自足
・学校で米や野菜を育て、収穫し、みんなで食べる

☆地域人材の活用
・村の伝統的な行事などを受け継いでいく
・中学の未来塾

☆米作り＋和算
・俵の数え方
・田畑の面積

○そば
・そばづくり
・そば打ち
・販売活動

○水田の生物調査
・定点観察
・２ヶ月ごとに
・指標生物

自然の喜び・財産

○村の景色をもっと広める
・田園風景の維持
・外観保護

○校外学習
・テーマを決めてオリエンテーリング　など

☆村から金メダリスト

☆全校登山
・例えば
高標山

○雪を生かした産業

○子どもに出来ることは子どもに
・自信を持って
・やりきる心を育てる

六　講評　パネルディスカッションによる

テーマ「木島平で学べること・やりたいこと　PARTⅡ」
～９年間の木島平ふるさと学習への提案～

アドバイザー　　小国 喜弘 先生　前川 喜平 先生　渡部　秀則記者
　　日墓 正博 村長
コーディネーター　岸　裕司　先生

【熱議の後半：班ごとのアイディアをシェアしあう】

岸：成長した中学生の発表を聞いて、大変嬉しく思いました。僕なりに、二つのテーマを持ちました。一つは「生」と「死」、木島平で生まれたことと、木島平で死ぬことに関わって。それから、木島平と都会の違いを学びたい、という発表がありましたね。生というのは、我々が今ここに生きているということはまさに奇跡なんですね。僕の大嫌いな言葉で、戦争中天皇陛下のことを翼賛するために万世一系という言葉で表していました。万世一系というのは、地球が誕生して４５億年、生命が誕生して２０億年と言われていますが、ずっと一つの系統できたというのですね。草や木も含めて、万世一系でない生き物はありえないんですよ。すべての生き物に連綿と続いてきたご先祖様がいるのです。しかし、都会の死を考えたとき、「最近、あのおじいちゃんいないね。」「そうなのよ、一週間前に部屋で一人で死んでいたのよ。」という会話があります。孤独死と言いますが、東京２３区内の公団住宅の賃貸だけで年間２０００人を超えているというのですよ。そういうことも学んでもらえば、木島平と都会の生の違いについて、都会だけに価値があるのではなく、我々のところにも価値があるのだという気づきにもなっていくのかなと思いました。

それからもう一つは、小学校、中学校、高校、そして「わせだいら」（早稲田大学と木島平をかけた造語）の学生とも交流をしたいということですね。そして「９年間のふるさと学習」と書いてあるんですね。９年間というのは、義務教育の小学校１年生から中学３年生までのことだと思うのですが、僕は、０歳から１８歳まで地域で育てるという考え方なんですね。ですから、保育所に行っている子ども、あるいは行ってない子も含めて、０歳から１８歳までの子どもを地域（木島平）で育てるということなんですね。今の都会はあまりにも私的なことや自分の子どもにしか関心がないという親が多いです。だから、是非大人の方には、社会的親になっていただき

たい。ということを感じました。

さっそく、具体的に入っていきたいのですが、自己紹介も兼ねてご自分で各５分程度でやってもらおうと思います。順番的には、前川さん、小国さん、日台村長、渡部さんでお願いします。

前川：木島平村に４度目です。この研修会にも参加させてもらっていつも思うのですけど、参加者には、中学生の皆さんから小中学校の先生方、高校の関係者、保護者の皆さん、村長さんに、村議会の議長さん、議員さん、教育委員会の委員の皆さん、学校運営協議会の皆さん、こういった方々が一堂に会して、一つのテーブルに座って対等に議論するという、こういう光景は、日本の他の場所ではないのですね。みんなで地域のことを考えていこうという、この熟議の場というものは、大変先進的な取組と言っていいかと思います。

しかも、今日の議題というのは、それをいかにして学校の教育課程（カリキュラム）に取り入れていくかということで、これは、私たちの国がこれから考えている教育のあり方を模索する試みだと思っています。最初に渡部さんから、私が説明するよりももっときれいに説明がありましたが、あの中に出てきた「社会に開かれた教育課程」という言葉は、これから学校の中で学ぶことが、社会とつながっていることをいかに意識して進めていくかということです。これからの中学生の皆さんは、社会に出て仕事や結婚をして社会人として自立し、日本の国や世界の国際社会を作っていく担い手となるわけですね。その時に何が必要になるのか、どういう知識が必要でどういう力が必要なのか、ということを意識しながら学んでいこうということです。

これまでの勉強というのは、ともすると学校だけで閉じていて、学校の中では通用するけど、社会に出れば通用しないということがありました。じゃあ何のために勉強しているのかというと、中学生は高校受験のためだというわけですね。こういうことが往々にしてありましたが、試験の勉強も大事ですが、それだけじゃないんですね。試験は通過点ですから、その先を考えて勉強することが大事なんですね。地域のあり方を考えるということは、まさに地域の担い手として僕たちは何を学んでいこうかということですので、これからの学校教育を考えていく上で、非常に大事な取り組みだと思いました。いろんな言葉で表現できると思っているのですが、これは主権者教育でもあると考えますね。

主権者というのは政治を決める上で最終的に権利を持っている人で、これは国民にあたります。地方自治においては住民のことです。住民が住民として最終的に地域のことを決める権利があるわけです。そういう意味での主権者ということです。１８歳選挙権と言って、従来２０歳だった選挙権の付与年齢が１８歳まで降りてまいりました。下高井農林高校の発表された生徒の中には、参議院選挙で投票権を持っていた人もいたわけです。主権者というのは、有権者だけでなく、中学生であっても主権者なのです。中学生は、住民だし、主権者だし、国民でもあるのです。だから主権者として、自分たちの地域をどう変えていったらよいのかということを考えることは、それはそのまま主権者教育と言えるのです。それを中学生議会のような取組にしていけば、もっと具体的な取組となるわけです。

もう一つ、別の言葉を考えたのですが、「新しい公共」という言葉です。公共というと、それは、国がやること、県が、市が、村が、役所がやることと考えられています。公共事業というと、役場が金を出してやる工事だということになります。そういう意味での公共でなく、人と人とが結び合って作っていく公共とうのがあります。お役所仕事でない公共を「新しい公共」と呼ぶことがあるのです。

今日の発表にあった園芸福祉という言葉を、私は初めて聞いたのですが、園芸を通じた福祉ということは、まさに新しい公共を作っていくことと言えるのでないでしょうか。木島平中学校さんのお年寄りとの交流も、新しい公共ではないでしょうか。新しい公共の一番の根っこには、お金は介在しないのです。お金はもらわないが何かをしてあげるというのです。これは、東京では何かしてもらおう

とすれば必ずお金が必要になってきます。でも、お金はもらわないのだけど何かをしてあげる。なにかをしてあげれば、感謝される。「ありがとう」と言ってもらえるとそれがうれしい。何かしてあげることによって幸せな気持ちになれるということが見返りなんですね。それが「新しい公共」の一番のベースになることです。それを繰り返すことによって人と人とが繋がっていく、それが新しい公共です。小学校も中学校も学級が一つのコミュニティです。学級の中でなにかをやってあげることで幸せな気持ちになる。それが一つの公共となるわけです。

佐藤学先生が「学びの共同体」と言っていますが、学級は開かれた一つのコミュニティです。ですから、中学生の皆さんは、小学生や保育園の子ども達と交流することによって、学級を越えた新しいコミュニティが出来てきますし、さらに地域の皆さんと交流することによって、またコミュニティが広がってくるというわけです。ですから、地域の教育といった時は、岸さんと同意見ですが、保育所、小学校、中学校、さらに高校を含めた子どもを、一つの基礎的自治体で０歳から１８歳まで視野にいれて考えていくべきじゃないかと思います。その時に、新しい公共、あるいは地域づくりといったものを、中核に据えていくことは非常に大事だと思っています。特に木島平では、お金を通さない人との関係というものが濃密にあると思います。それを大事にしていくことは、一つの方向性だと思いますが、一方で、農業を中心としつつ、この地域の産業をどうするかということも大事な要素だと思います。

小学生の時に米作りを学ぶということは非常に大事で、地域の産業の中核となることですから、それをしっかりと理解し実践することは、木島平に生まれて育った子どもにしてみれば極めて大事なことだと思います。その米作りの経験をベースにしながら、いろいろな方向に発展させていくことが可能になります。今日の熟議の中でも、米作りのためには水が大事なんだ、水源に注目するべきなんだという意見もありました。田んぼの米だけ見ていたのではダメなんだ、田んぼの必要とする水のことも考えなければならない。その水のことを考えると、山のことも考えなければならないし、米作りはもっと広い自然と繋がっていることが理解できます。それから、作ったお米をどのように売っていくのか、それをどんな人に食べてもらうのか、木島平のお米はこんなに美味しいんですよということをどうやって発信していくのか、ということにつながります。こうなってくると、マーケティングスタイルとか広告の問題に繋がっていくわけで、いろんな課題に米作りが繋がっていくわけです。米作りということを中核にしながらいろいろな課題に広がってくると感じました。

米だけでなくてもいいんですよ。水とか観光という別の切り口でいいのですが、様々な課題を通じて教科横断的な学びを作っていくことが、これから、学校の先生の腕の振るいどころとなってきます。こういった熟議という機会を重ねながら、カリキュラムづくり、カリキュラムマネジメントと言いますけど、その腕を挙げていってもらえればと思った次第でございます。

岸：１０分かかりました。文部科学事務次官って知ってる。知らないよね。教育行政のトップオブザトップなんですね。この仕事が降りたら定年しかない、という top of the top なんですね。定年後はどうするかというと、木島平に移住するという。（笑）嘘ですよ。なので、１０分許しました。若干の討論は後で行います。次は、小国さん、お願いします。

小国：すごく午前中から楽しく見せてもらいました。今日、このような会は５回目なんですね。一番今日が、木島平が進もうとしているコミュニティ・スクールのあり方が見えてきたな、という気がします。それは、カリキュラムづくりを中心としたコミュニティ・スクールづくりなんだということです。

今日は、いろんなことが提案されたり、いろんな提言があったわけですけど、それを整理すると次のようになると思います。つまり学校というのは、直線的な時間の中で生きていると思うんです。直線的な時間というのは、よりできるようになるとか、より新しいものを知るとか、新しい能力がつくとか、発達と

か発展というものを主軸にした直線的な時間です。

もう一方で、人間の人生というのは循環的な時間ですよね。春、夏、秋、冬があるし、まさに岸さんが言われたように、人間の一生、誕生から死までであるという、村でいえばお祭りのような「ハレ」の場と日常的な「ケ」の場、つまり「ハレとケ」があります。そういう循環の場というのは、学校の中では取り入れられなくなってきている。お昼の時お話を伺っていたら、前川さんによると学校教育法の中に「農繁休業」というのが規定されているんだそうです。戦後直後のことですかね、子どもたちが農家が忙しい時には、田植えとか手伝うわけですから、循環的な時間の中での、当時は学びとはいってなかったと思いますが、労働として使われたのに過ぎなかったのですが、労働を通して学んだ時間というものがありました。それから、学校の中で教科学習という直線的な時間という基軸がありました。

この二つがあったけど、今では循環的時間というのが見えなくなってきている。村の田植えとかの労働の場面も見えなくなってきている。それから、生とか死の瞬間なんかも見えなくなってきている。そういう中で、どうやって循環の時間を子ども達の育ちの中に取り戻すのかということがテーマになっているのかなと思います。

だから、米作りを学んだ５年生の皆さんは、どれだけ高く米を売るかということは学んでなく、安心・安全の米作りを学んでいるわけですね。安心・安全というのは、日常生活を豊かにするということです。中学生の皆さんは、お年寄りとの交流をどう楽しむか、お年寄りと一緒に今の人生を共に生きるという、味わい深さを共に体験するということですね。

それから、農林高校は、前川さんがおっしゃったように、僕も「園芸福祉」というものがあるんだということを初めて知りました。産業としての園芸といえば、花をどれだけ高く売るかということが課題ですよね。おそらく農林高校で園芸というコースを最初に設定したときは、そういう課題だったと思うんですけど、今やその園芸が、人と人とが豊かに生きたり、失われた絆を取り戻したり、相互の信頼を回復したり、より厚くしたり、そういうことのために園芸を使うということを学び始めている訳です。これはまさに、循環の時間を重視するという中で生まれてきた価値観で、そういうものがこのコミュニティ・スクールの中で問われているということが重要なことだと感じたのです。

ですから、直線的な時間と循環的な時間というのをどういうふうにカリキュラムの中で配合していくかということは、一つの視点になるんじゃないかと思います。そういうふうな視点を置かないと、これをやっても良さそうだ、あれをやっても良いのではないかとなると、どんどん多様化していってしまいます。だから、軸がどこにあるのかということを考えることが大事なんだと思います。僕が循環的時間と言ったのは、まさに前川さんが仰っていた「新しい公共」に関わることです。新しい公共を違う言葉で定義しているに過ぎないことです。

もう一つ、面白かったこととと言うか素晴らしいと思ったことは、スペシャリストという言葉の使われ方が良かったということです。

今までの学校訪問でよく言われるのは「一流の人と出会わせたいんだ」ということです。高い講師料を払って、遠くからメディアで売れている人を呼んで来るということが多かったと思うんですよ。この発想の背後には、村の大人たちは二流なんだということがあったわけです。誰もこんなことをはっきりと言わないけど、学校というのはすごく失礼なことをやってきたんですよ。つまり、村の大人たちとは出会わせる価値がない。出会わせる価値があるのは、メディアで売れている一流の人なんだということです。だけど、今日の発想はそうではなかった。村に住んでいるどの人もスペシャリストとして位置づけることが出来るんだという提起を含んでいたということです。そのことは非常に大事なことだと思うので、今後も大切にして頂きたいと思いま

す。村の中でいろいろな形で汗をかいている人達と、中学生の皆さんを出会わすということが、非常に重要なんだということです。有名な人とか地位のある人と出会わすということはあまり意味がないんですね。ここが重要な視点だったと思います。

もう一つの視点は、生活主義的な発想をどういれるかということです。今日提案されたことを総合的な学習の時間だけでやろうとすると、ものすごく大変なことになってしまいます。米をどう流通させるかということは社会科で、水をどうするかということは理科の生態系の授業で、田植え歌みたいなことは音楽の時間に位置づけてもいいですよね。つまり、教科書をそのまま教えるという発想を出て、学習指導要領を読み替えながら、柔軟に取り扱わなければ、今日出されたアイディアは扱い切れないと思います。例えば田植えの体験を国語の時間で作文にするとか、どうやったらたくさん取れるかということは、調査報告という形で国語に位置づけることもできます。稲作文化を巡った文献は世の中にいっぱいあるわけですから、そういうものを読みながら田づくりをすることも十分に意味があります。教科書に書いてあることはさっとやって、速読を学ぶ時間にするということですね。村の生活を大胆に教科と結びつけてやってみることが大事になってきますね。今日の発表や熟議の中から以上のことを気づいたり学ばせてもらいました。どうもありがとうございました。

岸：ありがとうございました。１２分かかりました。たぶん次の村長さんも長いと思います。よろしくお願いします。

日台：はい、初めにそういうふうに言われると、なかなか話せないのですが、立場上教育という立場でなく、行政の立場から感想を述べさせてもらいたいと思います。

その前に、今話がありました村の総合戦略ですね。皆さんの手元にもございます、「木島平まち・ひと・しごと創生総合戦略」というパンフレットをご覧ください。これは、今年の冬に完成したものですが、その中で３ページに、「村の人口ビジョン」というのがあります。その当時、村の人口は約４，９００人、そして２０４０年の村の人口の目標は、３，６００人、その後２０年後の２０６０年には３，０００人と、そういう数字を目標にするということです。

今の人口から考えると大変減っちゃって大変だなと思われるかもしれません。確かにそうかもしれませんが私の考える人口３，０００人というのは、この村にとってずっと住み続けたい、この村が好きで住んでいたい、ここに生き甲斐があるという、そういう皆さんが３，０００人住んでいるとすれば、決して人口が少ないから不幸だとか、貧しい村だとか、そうでなくて人口が少なくても誇りを持って生きている、いい村になるんじゃないかと思います。

そんなことで、一番表のタイトルのところに、「みんなで楽しみを作り出す村」というふうになっています。やはり、この村に住んでいる人が日々楽しく生きてもらいたい、そんな村が理想かなと思います。そういう意味で、今日皆さんの意見を聞いていると、前向きな意見ばっかりで大変嬉しく思いました。

その中で一点自分のことですが、「パワースポット」ですね、これは村の中に楽しみを見つけ出す、そして楽しみを作り出す、という意味を込めてパワースポットというアイディアを出しました。「イイネ」マークたくさん付けていただいてありがとうございます。うっかり、付箋紙にフルネームで書いてしまったので、気を使っていただいて「イイネ」マークが増えたのだと思いますが、幸いにも他の人にもパワースポットがあって、そこにも「イイネ」マークがいっぱいあったので、安心したわけであります。先ほど言ったように、この村の中に楽しみを見つけ出す、そこに無いものがあったら作り出す、そんなことをこれからも続けていけば面白いのかなと思います。

それとまた、もう一点面白いなと思ったのは、「民泊」ですね。村の中に普段隣近所でいっしょに暮らしているのに、なんで泊まるのかなという意見もありましたが、確かに面

白いアイディアだと思います。考えてみれば、私も子どもがいますが、家にいて手伝いしろと言っても手伝ってくれませんよね。ところが、近所のところに行って泊まって、しっかりいい子にしていれよと言って送り出せば、たぶんそっちでは手伝ってくれるのではないかと思っています。

それは、だたただ人とのコミュニケーションをとると言うことでなく、そこにあるいろいろな技術とか経験とかを学ぶことだけでなく、世代間を越えた交流というか繋がりを作っていく場になるかと思います。先ほど話がありました、東京では年間に２，０００人の孤独死が出るという話がありましたが、少なくても木島平村では、そのような孤独死というものは無いというそんな村を是非作っていきたいと思います。それともう一点、「村長、議長に提言・提案する」という話がありました。大変ありがたいことですが、こと教育に関しましては、隣にいる前川さんは日本の教育行政のトップの人ですから、改善については前川さんに直に言っていただいた方がよほどいいのかなと思います。（その前に、教育長がいるよ）では、丸山先生を通して提言していただきたい。学校の現場では大変忙しくて時間がない、という声があるようであります。その中で、カリキュラムをいいように拡大解釈して取り組んでいくやり方についても今後考えていく場になればありがたいなと思います。

今日はいづれにしてもいろんな提案をいただいて、面白く、楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございます。

岸：はい。ありがとうございました。今までのお三方で一番短かったです。ありがとうございます。今日、事前に村の総合戦略のパンフレットを用意していただいたことはですね、今村長さんもおっしゃっていましたが、村の存亡をかけているわけですよ、特に小さな自治体は。このパンフレットの７ページに、基本目標と数値目標の一覧というのがありますが、この基本目標３に、「未来を育てる ―子育ての喜びを実感できる環境づくり ―」の中に、「結婚や子育ての希望を叶え、子育ての喜びを実感できる環境を整備する。」もう一つは、「子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばす魅力ある教育を進め、未来の村を支える人材を育成する。」その右に数値目標が出ています。ここまで具体的に施策を書くところというのはあまりないんですね。

特にこの二つの基本的方向というのは、つまり、子どもを産みたい社会というのは、未来に希望がないと生まれないんですね。歴史上でもみんなそうです。古代のギリシャやローマ時代は、人口が急激に増えましたが、未来に希望があるからです。日本も終戦後急に人口が増えたのは、食糧難の時代であっても、未来に希望があったから産んだんですね。だから、この基本的目標というのは、ものすごく立派だと思います。この具体的な施策が、１４ページと１５ページに書かれています。全戸配布されているということですので、ここであえて言う必要はないのですが、改めてここのところを考えていただきたいと思いました。はい。それでは渡部さん、よろしくお願いします。

渡部：すでにお三方に言いたいことは言っていただいたので、それ以外の所を。特に今回、このように皆さんが熱心に話し合われて、アイディアがどんどん出てくる姿に、すごく素敵だなと感じました。

こういう村で学べる子どもたちはすごく幸せだと思いまし、生活できる大人の皆さんも幸せだと思いながら拝見しておりました。こうした取り組みを続けていくことが一番大切だと思います。教育は数年で結果が出るものでなく、１０年後、２０年後に本当の結果が分かります。ですので、短期的に数字がどうのこうのと言って、一気に変えていこうとすると元の状況に戻ってしまいますので、改良をどんどん加えながら続けていくことが一番大切かと思います。

先ほども、前川さんや小国さんの方からカリキュラムマネジメントという話が出ていましたが、今日出されたいろいろなアイ

ディアを全てテーマとして取り込もうとすると、失敗したという例も聞いたことがあります。ですから、少数に絞って、例えば米であれば米を軸にする、観光であれば観光を軸にする、パワースポットであればパワースポットを軸にするというように、何か一つの軸から広げていくことが大切だと思います。

学校の先生方も、まだまだ「本当にそんなことができるの」と考えている方もいらっしゃると思います。一つ実例を上げさせていただきますと、文部科学省の研究開発校の東京都日野市立平山小学校さんは、防災を核にしてどう生き抜くかということをテーマにカリキュラムマネジメントを行っています。それが総合的な学習の時間プラス社会科、理科、家庭科などの防災に関連するところをすべて新しい教科である生き抜く科に集めて、学習しています。

平山小学校さんの事例を見ていただきますと、木島平では、水であったり米であったり、何を核にしてカリキュラムマネジメントができるのかが分かるとおもいます。ちょっと生意気になるかもしれませんが、そういう部分で参考にして頂ければと思います。これで終わります。

岸：はい、助かりました。討論したいと思いますが、その前に私が用意した資料を見てもらいたいと思います。この写真は、校舎内

の教室を地区に開放しているんですね。そこに休日に子ども達がやってきて、黒板に落書きしている様子です。だから何だということではありません。

次に、これが文部科学省で取り組む最新施策ですね。前半で渡部さんがおっしゃっていた、地域学校協働本部が右側で、左側がコミ

ュニティ・スクールです。いろんな施策が、例えば放課後子ども教室とか、学校支援地域本部とか、土曜日授業とかが、現在は運営体制がバラバラにあったりするんです。それらを全体的に取りまとめてやっていこうとする。この中で僕が大事だと思うのは、「学校にも地域にも人を配置」することなんですね。学校の方は、地域連携担当教職員（仮称）の実現について前川さんに聞きたいことがあります。人を付けるなんてものすごくお金がかかることなんですよ。それをやろうとしていることは、国の決意ですよ、国の決意。いかがですか。

前川：決意です。教職員の定数改善をしなくてはいけません。だから、教職員の定数改善をしようとしています。

岸：はい。実はもう一つ、この村の施策の、資料の右上の４ページにある、村民にアンケートをとっているわけです。その中で、左上にある「人口減少、少子高齢化が止まらないと考える要因は」なんでしょうか、と、あるんですが、その一番多い理由は、村長さんもおっしゃっていたんですが、「村内に働く場が限られ、結局村外に出て行かざるを得なくなったから」というのが、７１．６％なんですね。それをどう食い止めるかということが最大の課題です。

実は、解決策があるんですが、僕が知ってることは、和歌山県の田辺市に上秋津という地域があるんですね。僕の住んでいる秋津と名前が同じなので、和歌山大学の先生が応援団として僕を呼んでいただいたのです。その

うちの一つに、上秋津小学校というのがあるんですが、昭和２７年に建てられた校舎なん

ですね。昭和２７年に建っているわけですから、耐震性がない。これを取り壊さないで、何とか存続させつつ別の敷地に建てられないかということです。相談したら、建ったんです。そして、元の校舎を地域住民たちがリニューアルしてですね、秋津野ガルデンという施設に変えていったんですね。レストラン、宿泊体験、お菓子づくり工房などの施設にしていったんですね。地域の人たちが運営しているんです。その成果は、１００人の地域住民の雇用ができ、食材も地域から調達しているんですね。海にも面していますから、魚介類を使って運営するようになってきたんです。見学者がなんと世界からくるんですね。僕が行ったときにも、バスできていました。黒人の方もいらっしゃいました。やっぱり同じようなテーマや課題を持っている国がたくさんあるんですね。だから、校区の人口も増えちゃったんです。たぶん、同じような課題もこの村にもあると思います。やれることをやっていただいたらいいなと思いました。

ちょっと紹介させていただきました。また、討論に入ります。今日のテーマでは「９年間の木島平ふるさと学習への提案」とあるんですね、９年間というのは、小学校、中学校の義務教育です。今日は小学生の皆さんがいないので、中学生の皆さんに聞きたいのですが、一年間で、小学生の皆さんは税金をどのくらい使っていると思いますか。考えたこともないですね。大人の皆さんに聞きます。どのくらい小学生に一年間税金が使われているか。家庭で使う塾の費用とかは別ですよ。ということで、前川事務次官に聞いてみましょう。

前川：小学生だけでなく、小中義務教育全部で年間１０兆円使っています。小中学生の数は一千万人ですから、計算すると１００万円になります。平均して一人当たり１００万円の税金が使われているということになります。君にも１００万円、あなたにも１００万円ということですね。

岸：しかも、９年間というと９００万円になりますね。そういうことをかみしめていただきたいと、小中学生に。

前川：多くは、先生の給料です。だから、先生はありがたい、ということです。

岸：ということも、おおざっぱに考えてもらいたい。実は僕は（教育予算が）まだ少ないと思っています。リカレント教育のように大学を出ても、もう一回学び直したいということを税金でまかなう国もあるわけですから。留学生も０円という国もあるわけです。ですから、政治もそういうふうな関わりを持っていただきたいし、そのために１８歳まで下げた選挙権だと思っています。

今度は、小国先生に聞きたいのですが、先ほど、村のスペシャリストという考え方がありました。これはものすごく大切な考え方だと思います。僕らも小学校区で実践してきたわけですが、どうしても人材活用ということになって来ちゃうんですね。あの人は活用する人、こっちの人は活用しない人、という感じになって大失敗したことがありました。だから我々は隣にいるだけで価値があるというのを交流としました。隣にいるだけで安心する。小学生がいるだけでおばあちゃんが安心する、これが交流なんです。だから、価値がない人なんて一人もいないんだ、ということが重要な考え方ではないかと思うんです。

小国先生には最後にお願いして、村長にもう少しお話を伺いたいと思います。何か感じることがありましたらお願いします。

日台：見ていて、小学生が米作りを体験するということは、昔からやっていたことです。今話を聞くと、大変感心したことは、米をただ作るだけでなく、その米を作る元になっている水とか農地であるとか肥料とか、その先にある販売とか品質とか、そこまで考えてく

れているということは、本当にありがたい話だなと思いました。特に、木島平は農業の中心はお米ですので、コシヒカリであったり酒米の金紋錦というのも作っていますね。その他、キュウリとかアスパラガスとか、作っていますが、やはり一年間を通した農業が、生活を支えているということを学んでいただいていることは本当にありがたいことだなと思いました。

それともう一つ、ＳＮＳですね。情報を発信すると言うことは大事なんですが、正直いってその発信の仕方がうまくないのかなと思います。しかし、子ども達の発想で、フェイスブックとか使ってもっと宣伝すればいいんじゃないかなと中学生からアイディアがあって、なるほどなと思いました。ただ、個人個人でやっていてもあまり意味がないので、小学校単位とか中学校単位で、一年間このような活動をやっていますよという共同発信をすることはいいと思いました。木島平では、いいことをいっぱいやっているなということを、大勢の人に知ってもらう方法が大事だということがありましたので、その事も学校の方で考えていけば面白いなと思いました。

突然振られたので、よく分からなかったのですが、そんなことでお願いします。

岸：はい、ありがとうございます。突然の岸です。それでは、渡部さんお願いします。

渡部：今まで言いたいことは言い尽くしてしまったことがあるんですけど、とにかくこうしてアイディアを出し合って、元気にしていこうという姿勢こそが大切なことだと思います。実際に取材に行って事例報告したような地域では、まず人が元気になって地域を復活させていったという風に感じています。

木島平村は、底が抜ける前に手を打って、今日これで５回目の研修会になっていますので、日常的な取り組みも含めて、とにかく継続していくことが大事だと思います。そのために、皆さんがいろいろ考えてやっていくことも大事だと思います。逆に、人口の規模が小さいからこそこういう活動ができるということもありますので、人口が少ないことを逆手にとった取り組みを行い、村民がどんどん元気になって、それを全国や世界に向けて発信していくことが地域の活性化につながると思います。

私の生まれ育った福島県の郡山市では、音楽の街づくりということでやっているんですけど、学校区ごとの地域差が大きくて、統一的な取り組みができづらいことがあります。それは、郡山に限らず、多くの町でそうなっていますので、この小さな村ということを逆にスケールメリットとして、どんどん活かしてどんどん発展させて、それをまた我々に情報として発信していただければ、ますます元気になっていくと思います。

岸：どうもありがとうございました。さすがに報道人だなぁ、PR の仕方もと思いました。それでは、前川さんお願いします。

前川：先ほど言い残したことを言います。新しい学習指導要領が小学校で２０２０年から、中学校では２０２１年から導入されます。そこでは、アクティブ・ラーニングが大事だと言っています。アクティブ・ラーニングとは、能動的な学習、要するに自ら進んで学ぶということです。自ら進んで学ぶということは、「自ら進んで学びなさい」と言われて学ぶものではないんですよね。これを勉強したいという思いがあるから、自ら進んで学ぶのです。

では、どうやったら自ら進んで学びたいという思いになるかというと、自分に関わる問題だから、学ぼうとするわけです。これは、自分が解決しなければならない課題だと、自分たちで答えを見つけなければいけないと思うから学ぶんです。そういう課題が地域にあるんです。だから、地域のある課題を学習課題として取り入れていくことは、非常に大事なことだと思っています。そのために、学校のカリキュラムをどうするかということは、とても大事になってくるので、先ほどからカリキュラムマネジメントと言っているのです。

学習指導要領は、最低基準、大綱的基準ですから、教科書を１ページから最後のページまで全部やるということは必要ないんです。教科書の内容は、主たる教材として使うこと

は決まっているんですけど、主な内容をちゃんと押さえておけばいいんです。あと教育課程については、いろんな特例制度がありますから、学校とか市町村教育委員会の御判断で、いろんなカリキュラムづくりが出来るんです。先ほど、渡部さんもいろいろな事例を出してくださいましたが、「世の中科」とか「市民科」とか、「ふるさと創生科」とか、いろんな教育科目を作ってもいいんです。それを恐れずに、そのために国語や算数はすこし削ってもいいんですから、そういう新しい科目を作るということも可能ですので、特例制度を是非ご活用願いたいと思います。

岸：ありがとうございます。時間の問題もありますが、最後に小国さんお願いします。全体を総括するような内容を含めて。

小国：今日、ここに出席させていただいて、新しい価値が模索され始めている時代だということが明確になってきたような気がします。これまでは、観光化しなくてはいけないとか、村で収入を増やすにはどうするのかということ議論されがちでがあったわけですが、もう少し、安心安全な面でどうやって暮らすのかとか、人々の失われてきている信頼とか絆をどういうふうに回復するのかということが、明確に強い課題になり始めている。それと学校がどう絡んでくるのかということが、一つの柱になるんだと思いました。

もうひとつは、岸さんがおっしゃたことでなるほどなと思ったのですが、人口減という問題をどれだけ村の課題としてだけでなく、学校の課題として引き受けるのかということです。つまり、和歌山県の事例も含めて、いろんな形で成功している村づくりの地域に、小学校とか中学校の皆さんが社会科見学にいくとかして、そういうところで見てきた先進事例を、さらに木島平版でどうするかということが学習になって提言される。つまり、学校というのは昔から村の経済や文化の中心だったわけですから、学校から新しい提言を発信するということを真剣にやるのかやらないのかということが、岸さんから投げられた賽だったと思います。

最後に、おそらくこれらの問題を学校に返して、先生方が中心となって考えるべきなのか、学校運営協議会が責任を持って検討するのか、ということが今日は問われなかったわけですが、今後検討されるべき課題なのかなと思いました。どうもありがとうございました。すごく勉強になった一日でした。

岸：ありがとうございました。最後の言葉は、我々全員の言葉だと思います。これでパネルディスカッションを終わります。ありがとうございました。

（文責：本山）

【熟議の様子…村全体でカリキュラムマネジメント】

七　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平　アンケートのまとめ

◇実施アンケート

平成２８年度　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平　アンケート

＊選択肢のあるところには〇を、それ以外は文章でお答えください。

1　参加区分　　A　村民　　B　議員　　C　村職員　　D　教育団体（機関）
　　E　教職員　　F　学生　　G　その他（　　）

2　報告：「学びの力で地域を元気に～近未来の教育は～」についての感想

3　地域に関わるふるさと学習の発表について、感想やお気づきのこと
（1）木島平小学校：「米作りを通して学んだこと」
（2）木島平中学校：輝け未来塾！「お年寄りとの交流」
（3）下高井農林高等学校：地域とともにいきいき！私たちが目指す園芸福祉交流

4　熟議「９年間の木島平ふるさと学習への提案」について
（1）学校職員・村民・中高生を交えて、９年間のふるさと学習を考えたことは、
　A　とても意義がある　　B　意義がある　　C　あまり意味がない
（2）ふるさと学習を９年間系列的に行うことで、どのような力がつくと思われますか。
（複数回答可）
　A　村の自然・歴史や文化についての知識　　B　伝承的な文化に対する技能
　C　物事に立ち向かう思考力　　D　判断力　　E　コミュニケーション能力
　F　ふるさとに対する思い　　G　学びに向かう力　　H　その他（　　）

5　ＥＳＤ　についてお聞きします。
（1）ＥＳＤ　という言葉を
　A　知っていた　　B　聞いたことがあった　　C　知らなかった
（2）本日の研修会の内容がＥＳＤと関わりがあることについて
　A　よく理解できた　　B　まあ理解できた　　C　あまり分からない

6　本日の研修会で、お気づきになったこと・ご意見・感想などありましたらお願いします。

1　アンケート回答数内訳　全参加者１０８名のうち、４３名から回答を得た。

項　目	村民	議員	村職員	教育団体	教職員	学生	その他
回答数	3	2	4	4	１０	１６	4

＊以下のアンケートの区分で、「村民」「議員」「村職員」「教育団体」を「一般」とする。

2　報告：「学びの力で地域を元気に～近未来の教育は～」についての感想

＜一般＞

- **木島平が先進的と感じた。**
- **秋田、北海道の事例はよかった。木島平で行っていることは間違いない。先を行っているということが分かりました。**
- **後半の各地の具体例の話は参考になった。木島平も既に実践できていることが多いと思う。**
- **全国の市町村での取り組みを知ることができ、勉強になりました。**
- **多くの情報をいただいた。特に他県での実践事例の紹介から、木島平村に活かせそうな多く**

のヒントをいただいた。
・大館市の取り組み「地域に残された唯一の財産が子どもたち」ということに改めて教育の重要性を感じました。 地域を学び、また互いに地域、人自然・産業を知る。とてもよいことだ。
・子供が変われば大人も変わる。大人が変われば子供も変わると従来から言われてきましたが、まさにその通りだと思いました。お互いの持っている力を理解し表現する、できることが大切だと思います。
・各地の状況について興味深く伺いました。他の地域で木島平のことをどのように紹介されているのか、興味があります。
・木島平が、近未来の教育を実践していることがよく分かった。

＜教職員＞
・教育は日々に変化していくと感じました。私たちも日々変化に対応していくことも大切だと感じます。
・これからの教育に対する方向を知る機会となった。
・何か新しく始めるのであれば、何か一つ削ってほしいですね。そんな思いを新たにした一日でした。
・他県で実践されている村･町ぐるみの活動は、本村でもやられていることと似ていたり、つながったりしていると感じ、方向はまちがっていないと思いました。
・多くの可能性を秘めた会だと思います。
・今後の教育の中でますます重要となってくるコミュニティ・スクール、地域との連携の具体例が知れた。子供が地域から学ぶだけでなく、そうすることで地域が元気になることにつながる。
・難しい内容であったが、全国各地の取り組みが知られたよい機会だった。木島平村の取り組みがより効果的になるように考えたいと思った。
・木島平村は近未来の教育につながることに前向きに取り組んでいることがよく分かりました。

＜中高校生＞
・B班の人達とこれからの木島平についてよく考えられた。
・みんなといろいろ学べてとても楽しかった。
・地域ぐるみで意見を出し合って、変えていきたいと思った。
・学びの活性化で村が元気になるのはすごいと思いました。
・木島平でやっているいつもの学びがすごいこと？いいこと？だとわかり、すごいと思った。周りの県などの取り組みもすごいと思った。
・中学校でこんなことをしていると思っていなかった。私たちがその活動をできるまで続けてほしい。
・全国の様子を伝えていただけたのが、具体的でよかった。
・木島平は進んでいるんだなと思った。
・とても深い話し合いができた。
・自分の意見を出したり、他の人との交流があってよかった。
・大館市のように、木島平も工夫して消滅しないようにしたいと思った。
・地域との交流は、地域への愛着を深めると共に、地域へ将来戻ってくることへのきっかけともなるので、大切にしていきたいと思った。

＜その他＞
・すでに取り組まれていてうまく軌道にのっていることに、参考にできることがあればと思った。ここでも充分できると思った。（埼玉県民）

３　地域に関わるふるさと学習の発表について、感想やお気づきのこと

（１）木島平小学校：「米作りを通して学んだこと」

＜一般＞

・高学年が低学年の足を洗うことに感動した。
・よかったです。
・他地域では、全校で田植え・稲刈りをするという経験はなかなかできないし、全校でやるということは毎年関わることができるので、継続していってほしい。
・米作りをしている学校は他にもあるが、木島平では子どもの力によるところが多く、ふるさと学習として素晴らしいと思う。
・小5を中心とした全校での「米作り」学習。大変すばらしい取り組みである。是非今後も継続していってほしい。
・木島平米はとても美味しいということをこれからどんどん実感していくと思うので、米作りの経験を忘れず、大切にしていってほしいです。
・米作りを児童たちがやり、金をとって、プライドがついたと思う。
・地域の人が協力してくださることはとても感謝致します。子供たちも一生懸命で活動していて進化していますね。
・学校田んい取り組んでいる事例は多くありますが、「米作り」そのものにここまでこだわっている事例はめずらしいと思います。
・米作りから地域の特色に目が向くとよい。

＜教職員＞

・小中連携を言いながら、小学校でこのような活動をしていることを知らなかったので、知ることができてよかった。
・小中高、どれも将来性のあるすばらしい発表だった。今後さらに、「未来・将来に生きる力」を意識して掘り下げていってほしい。
・村の中心の産業をじっくり学んでいる姿がよいと思います。
・内容をよく知ることができました。子どもたちの思いが伝わってくる発表でした。
・木島平ならではの材であり、また地域から手厚いサポートを受けながらの活動であった。
・伝統的な取り組みを大切にしてほしい。
・地域とのつながりを大切にし、子ども達が主体的に学ぶ姿が印象的だった。
・米作りだけでなく、他の学習でもスペシャリストからたくさん学びたいと思います。

＜中高校生＞

・米作りの時、自分もやったなーと懐かしく思えた。
・米作りの時、自分たちもそうだったなーと懐かしく思った。
・お米づくりについて知れた。
・お米を育てることでいろんな方々との交流ができるのはいいと思いました。
・私たちも行った米作りで、私も似たようなことを感じていた。私は金賞を取りたいと強く思っていました。聞いていてとても面白かったです。
・中学校との関わりが多く、イベント数もそこそこあった。
・米作りの佐藤さんに教えていただきながら、子供たちが意欲的に活動できていたのが良かったと思います。
・なつかしい米作りを見て、私たちはこんなに米のことを気にかけてなかったかもなぁと思った。佐藤さんには何年もお世話になっていて、大切な存在だと思った。
・責任感を持ってできるので、とてもよい体験になると思った。
・米の育て方などいろんなことがわかりやすかったです。写真がいっぱいあってよかった。
・米作りのスペシャリストに教わりながら米作りを行うことで、地域との交流にもなるのでとて

もよいと思った。

＜その他＞

・米作り指導者の継承が上手くいくかいかないかが大切だなと思う。指導者への感謝の念、実は米作りには色々な広がりの可能性がある。
・小学生自身で田んぼの管理をしていることがとても良いと思った。彼らの率直な感想は、とても新鮮で、的を射ていることでもある気がした。（埼玉県民）
・田んぼづくりをすると、もっと環境、生き物を学べると思います。（NPO）

（２）木島平中学校：輝け未来塾！「お年寄りとの交流」

＜一般＞

・高齢者との交流、きっと喜ばれていると思う。
・よかったです。
・高齢者は子どもたちと関わることで元気が出る。また、子どもたちは高齢者と関わる機会が少なくなってきている。お互いが関わる機会を折に触れて作っていかれると良いと思う。
・お年寄りとの触れ合いを、技術や伝承を大切にすることで、地域の方との交流がふるさとへの思いに繋がっている。
・「夢ひろば」に関わる方々の願いや思いが、中学生へと着実に継承されていっている。学校と地域が連携したすばらしい実践である。
・特設木中夢ひろば、ぜひとも成功させてほしいと思いました。お年寄りから学ぶことたくさんあると思います。学ぶ姿勢も大事に。
・お年寄りはどうしても寂しい人が多いと思う。交流は大事。
・しっかりとした考えを持つ中学生です。地域の人達と打ち解けていけたらいいですね。
・体験をどのように気づきや学びにつなげていくのか伺いたいと思いますた。
・人に気づき、社会の仕組みに目が向くとよい。

＜教職員＞

・生徒と地域がつながっているのがよく分かりました。互いが幸せを感じられる関わり方だと感じました。
・子供たちによる発表がよかった。それぞれの年代によるそれぞれの考えがよく分かった。地域の触れ合い、生涯にわたる交流になる予感がした。
・子供たちが村のことをほこりに思える活動ができると、村に残っていく人材育成になると思いました。
・眞篠さんのコメントもあとでいただくことができよかったと思います。
・交流に行くだけでなく、自分たちで企画をし、お年寄りの方々に合ったものを考えるところが素晴らしいと感じました。
・今後も頑張りたい。
・地域とのつながりを大切にし、子ども達が主体的に学ぶ姿が印象的だった。
・夢ひろばの交流を通して、生徒がより積極的な取り組みをしていることがよく分かりました。

＜中高校生＞

・２年生から未来塾があるから楽しみ。
・これからやるっぽいから楽しみ。
・高齢者との触れ合いであったりして、地域の人とコミュニケーションをしっかりととっていること。
・お年寄りとの交流から、いろんな方々とつながっていてよかった。
・私はお年寄りとの交流がないので、夢ひろばで交流している3年生がいいなと思った。楽しそうー。

・けやき祭での内容にこれを入れてほしいという考えもでた。
・農林高校の発表につながるのもがよかったです。
・同じ中学にいても、何をしているのかあまり知らなかった。お年寄りと楽しく交流したり、大切にすることは、村にとってもいいことだなぁと思った。
・すごくわかりやすかったです。
・地域との交流を中学生のうちから行うことはとても大切だと思った。

＜その他＞
・高齢者との交流の大切さ。やがて迎える年齢。
・主体性をもってお年寄りとの関わりを、奉仕の心を素直に持っていることがすごいなぁと思った。中学生から逆に教えてあげることもあるのおでは。（埼玉県民）
・中学生が地域に関わっていったのが印象に残りました。（NPO）

（３）下高井農林高等学校：地域とともにいきいき！私たちが目指す園芸福祉交流

＜一般＞
・豆などの特産品化、素晴らしい。
・よかったです。
・地元の高校として、地域貢献の立場でとても頑張っていただいていると感じる。
・木島平の農業を色々な形で実践していることで、より具体的にふるさとの未来を守る、築いていくことになっている。
・地域との”園芸”を通した実践発表。大変すばらしい。この取り組みは村全体に広げていく必要があると感じた。
・中学校の実践に繋がるものがありました。お年寄りが住みやすい村を作っていくことは課題の一つです。園芸福祉という面からのアプローチはこれからどんどん広がっていってほしいです。
・色々な場面での活躍を期待しています。村人もすてたもんじゃないです。
・園芸福祉の取り組みについて興味深く伺いました。
・園芸福祉が拡がるとよい。

＜教職員＞
・進路指導でもグリーンデザイン科について聞かれることが多いが、詳しい活動が知れてよかった。
・子供たちによる発表がよかった。それぞれの年代によるそれぞれの考えがよく分かった。地域の触れ合い、生涯にわたる交流になる予感がした。
・とても堂々として立派でした。
・たくさんの取り組みがされていることを知り、驚くと共に、うれしい気持ちになりました。立派な発表でした。
・地域の実態をきちんと把握し、それに対する改善策を見出している。さすが高校生と思いました。
・農林高校の取り組みには本当に頭が下がります。是非今後も活躍してアピールしていってほしい。
・地域とのつながりを大切にし、子ども達が主体的に学ぶ姿が印象的だった。
・園芸と福祉を結びつけて交流していて、小学校でもやりたいなと思いました。

＜中高校生＞
・おじいさん、おばあさんたちが楽しんで農業ができるように考えていてすごい。
・そんなこともやっているのかとびっくりした。
・中学校の発表と同じように、園芸などで活性化を目指せるのだなぁと思った。

・農業はなぜするのかというところに視点を置いている所がいいなと思いました。
・農林高校だからこそできる調査や活動だと思った。結果がわかりやすかった。
・小中学校との関わりがあまり見られなかったと思う。
・実際に高校でやっている活動を分かりやすく紹介していただけて良かったです。
・取り組みに対する意欲が伝わってきた。実際の調査が数字で表されていて、問題が具体的でよかった。
・とてもよいと思った。よく分かった。
・聞きやすくて、資料がいっぱいあたのでわかりやすかったです。
・園芸福祉という話は初めて聞いたが、高齢になって行きがいを得るということで、とても大切だと思った。

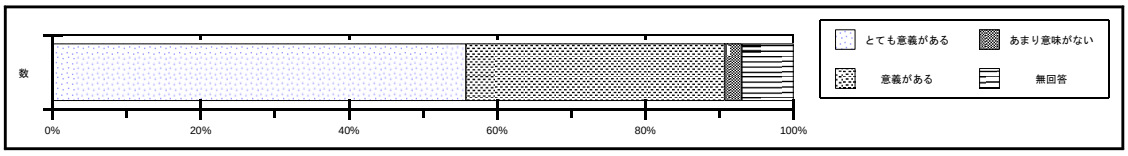
＜その他＞

・高齢者の実態を知りつつ福祉に活かす。農林高校の活動がよく知られていない部分が多く、農林生の活用で高校の価値を上げる。
・もっと積極的に、商業的な分野に結びつくよう活動してもよいように思った。木島平ならではの地域ぐるみの農業を形づくっていけたら素敵なことだと思う。（埼玉県民）
・高校生が地域に結びついたのはよいですね。

4　熟議「９年間の木島平ふるさと学習への提案」について

（１）学校職員・村民・中高生を交えて、９年間のふるさと学習を考えたことは、

項	とても意義がある	意義がある	あまり意味がない	無回答
数	２４	１５	１	３



（２）ふるさと学習を９年間系列的に行うことで、どのような力がつくと思われますか。（複数回答可）

		回答数	割合
A	村の自然・歴史や文化についての知識	３６	８４％
B	伝承的な文化に対する技能	１６	３７％
C	物事に立ち向かう思考力	１４	３３％
D	判断力	４	９％
E	コミュニケーション能力	２４	５６％
F	ふるさとに対する思い	３８	８８％
G	学びに向かう力	１５	３５％
H	その他（郷土愛）	１	２％

5　ＥＳＤ　についてお聞きします。

（１）ＥＳＤ　という言葉を

A　知っていた	B　聞いたことがあった	C　知らなかった	無回答
１４	１９	１８	２

（２）本日の研修会の内容がＥＳＤと関わりがあることについて

A　よく理解できた	B　まあ理解できた	C　あまり分からない	無回答
１３	１５	１１	４

６　本日の研修会で、お気づきになったこと・ご意見・感想などありましたらお願いします。

＜一般＞

・あたたかい研修だったと思います。
・全てのグループの発表を聴きたかった。その上でいいネシールを貼ればよかったのかも。せっかく出された意見（提案）を学校のみならず、村行政としても取り組んでいただきたいと思った。
・農林高の存続等の問題もある中、国の関係者は多く出席いただいているが、県の関係者はいないように思う。県の関係者にも声をかけたらどうか。
・大変大事な研修会である。今後さらに多くの人々や団体が関わり継続して深めていく必要がある。
・全てのグループを回ることができなかったので、熟議で出されたアイディアを後日知ることができるととても嬉しいです。・村出身、在住の若い世代を集めて、ぜひ今回のような熟議をしてみたいです。改めてこの村の良さに気づいたり、この村の将来を見据えて真剣に考えたりすることができると思います。そのような機会をぜひ作っていただきたです。
・講師の指導時間がもっとあるとよい。
・難しい研修会だと思われますが、地域を考えるととても大切な事だと思われます。地域には「子供がいるの？」を知っていることが大切だと思います。
・せっかくの機会なので、お弁当も「学び」に結びつくものであれば良かったと思います。（材料や料理を地元のものにするなど）

＜教職員＞

・これから先、出された意見の数々をいかに具体化していくかがたいせつであり、課題だと思う。
・アイディアも大切ですが、課題を共有して改善策を練ることも必要だと思いました。
・熟議で出たものを実践可能な形にして、現場へ戻す（村へ低減する）などしていけると、次に活かせると思います。
・ここで話し合われたすばらしい成果を、学校、村が主体となってどう活かすか、そこがポイントだと思いました。
・活動発表や全国での取り組みを知ることができる大切な機会ですが、熟議のあり方は検討が必要だと思います。あまり深まらない。それよりもパネルディスカッションをもっと聴きたい。
・村の学びについて多くの人が様々な視点から考えあったことに意義があると思います。これを、現場や村がどう生かすかですね。

＜中高校生＞

・いろいろやってみたいことがありました。地域とのつながりを考えて、学習に取り入れられそうなことをやってみようと思いました。
・自分たちで考えた今後の姿を実現させたい。
・とてもいい経験になったと思う。
・小国先生の一流の人だけを呼ぶ裏には村民が二流である。スペシャリストの交流をもっと大切にということが心に残りました。
・他の地域でも行っていたことや、自分たちで考えたことで、木島平を活性化させたい。
・村の発展について、たくさんの方々と意見交換ができて良かったです。
・この研修会ででたアイディアを、この村で実行してほしい。そうでないと、今回の熟議は意味がないと思いました。
・熟議等を通して、テーブルで一緒になった方との話し合いも有意義でした。
・木島平のことについてよく考えることができた。
・村の方々と交流しながら、木島平で学べることについて話し合うことで、様々なアイディアに

触れることができて、とても勉強になった。

＜その他＞

・事務次官に講演時間をとってあげてください。次回も来ていただけるといい。

・このようなみなさんの思いを共有できる場があることに敬服しました。今後、アイディアやそれを動かす人がつなげる役割でできればと思いました。お年寄りと若い世代が触れ合い学び合う新しい地域づくりができたらよいですね。（埼玉県民）

・参加者が創意を出して作り上げる姿はよかったです。ありがとうございました。（NPO）

八　反省と今後の課題

１　第５回　コミュニティ・スクール研修会ｉｎ木島平の反省

（１）日時・日程

・日時・日程については、一日の方が熟議が深まり、よい。

・盆を除いて、８月の夏休み終了前の土曜日がよい。一般の方は平日は仕事の関係で出席しにくいから。

・次年度の候補は、８月１９日でいきたい。

（２）研修会・実践報告

・渡部さんのレポートは、論点がはっきりしていてわかりやすかった。

・全国で先進地での取り組みの報告は、とても参考になった。

・小学校の発表については、小学生でも可能だ。ただし、当日の引率体制を整えることも必要。

・米作りの佐藤正市さんの声では、振られたけど、参加しておもしろかったという感想を得た。

・中学生の参加者で、１年生に聞いても、楽しかったという声があるので、小学６年生でも可能。

・中学校の未来塾で、固定型でなく、新しいアイディを１つでも２つでもやっていくことが大切。

・発表も、子どもがやった方が、地域と一体化すると思われる。

・高校生の発表の態度はよかった。声がはっきりしてわかりやすかった。

（３）熟議

・毎年、同じような内容が出てくれば、その重要性が出てくることになる。

・米の販売については、樽滝の放水日に売り出すというイベントも考えられる。幻の滝に、幻の米というスタンスで。

・ＮＰＯの産業ネットワークでも、熟議のアイディアが活かせないかと考えている。

・観光案内に木島平の魅力マップづくりをやっているが、子ども達が作った物があればおもしろい。

・観光シリーズとして、パワースポットを幻シリーズとして展開したい。

・幻の滝、幻の米、幻のケーキ（レーブの限定ケーキ）、幻の鳥サシバの観察

・ＳＮＳで木島平をアピールする。ＮＰＯで来月講座を開く。村人レポ―ターなどの取り組み。
・熟議の結果は、学校で形にするとなると、係への仕事の負担になりかねない。
・出たアイディアを放っておくのではなく、小中学校へアイディアとして伝え、実践されたものの蓄積が大切。

（４）コミュニティ・スクールの位置づけ
・子ども達が何をやりたいのか、子ども中心のコミュニティ・スクールであることを再認識してほしい。
・子どもと地域の調整をするのが、ＣＳ推進委員会だ。
・研修会の位置づけは、学校教育や一貫型教育の教育課程を村全体で考えるという方向でよいのではないか。
・住民の参加型カリキュラムづくりとして、熟議は有効だ。

（５）その他
・お年寄りの寄り合い場所を北部地区でも開こうとしている。その居場所の設置について、信大生が関わっている。
・参加者を広める方向で。声がけ参加を増やしていく。
・保育園での幼児教育は、小中に合わせない方がいい。遊びを中心とした集団づくりの中で、学びあう素地づくりが大事だ。
・中学生の取材インタビューを見ると、的確に答えていて感心した。今後は小６の参加も検討課題にしたらどうか。
・保育園の参加もあればいいが、土曜日は勤務日で振り替えができないので、園長、主任の範囲か、予算化して一般職員が参加できる方向を探っていったらどうか。
・ＣＳ推進委員会は、８月までは、月１回でなく、骨子が固まるまで臨時でもったらどうか。

２　今後の課題
（１）熟議の結果報告（１０月）
⇒小学校・中学校・政策情報係・議員・ＮＰＯ
報告書を１０月中に取りまとめ、各関係者に配布する。
⇒小中合同職員会で９年間のカリキュラムの見直し

（２）今後のボランティア支援活動について
・小学校の音楽会までの音楽の支援を募る呼びかけチラシを、全校保護者と、関係　団体、隣組回覧で発信していく。小学校主体で
・昨年のスキー部活動支援も、単年度で募集をかけていく。
・かつて、夏休みにポスター制作を柴田さんにやって頂いたことがある。
・公民館活動や、生涯学習と学校教育や子どもの要望等を調整して進めていく必要がある。

【資料】渡部秀則記者による木島平村の記事「日本教育新聞」より

育新聞　平成２８年（2016年）９月１２日（月曜日）

り制度化、「主体的・対話的で深い学び」と定義
ラーニングによる授業改善、コミュニティ・
義務化や地域学校協働本部の創設など学校と
ーム学校」の推進など、「新たな学校モデル」の構築が求められている。そうした中、実際にこうした取り組みを進める地域がある。今回から月１回程度、「挑戦―明日の教育のかたち」として、そんな実践事例を紹介する。第１回のテーマは、「人口減背景に　学校の魅力追求」。

挑戦

協同学習、小中一貫、CSを一体で

長野・木島平村

教育の質高め、村の担い手育む

長野県北部に位置する、人口約4600人の自然豊かな木島平村。平成22年に村内3小学校を統廃合して村立木島平小学校が誕生したことをきっかけに教育改革をスタートさせ、21世紀型の新たな教育スタイル「木島平型教育」の導入を進めてきた。

「木島平型教育」の柱は、①協同的な学び②小中一貫型教育③コミュニティ・スクール（CS）―の三つ。これらの取り組みを一体的に進めて教育の質を高め、子どもたちが生涯にわたって学び続けるための基礎力育成を目指している。

「協同的な学び」では、佐藤学・学習院大学教授が提唱する「学びの共同体」を実施。22年度に木島平小学校で取り組みを始め、翌年には村立木島平中学校でも導入した。

授業では、対話的コミュニケーションを基盤に、課題解決に向けて男女4人組の小グループで学び合う。7月7日の木島平小学校の研究授業では、小グループに分かれた子どもたちが意見を出し合いながら、課題解決に向けて学習を進めていた。

今後の「ふるさと学習」について考える、木島平村コミュニティ・スクール研修会の熱議

「小中一貫型教育」では教育理念や教育目標を小・中学校で統一して、義務教育9年間を「4・3・2」に区分。9年間を通した学習カリキュラムを作成し、これに基づいて教育活動を行っている。

カリキュラムには、地域について学ぶ「木島平ふるさと学習」も位置付けている。米作りや村内探検、地域講師に学ぶふるさと講座「未来塾」などを実施し、子どもたちが木島平村の素晴らしさを体験的に学んでいる。

他にも小・中学校の教職員全員による学習検討会の開催、中学校教員による算数・外国語活動・体育の小学校授業の一部教科担任制、小・中学校の子どもたちの交流活動「ふれあい交流」など、多彩な取り組みを展開する。

そんな教育活動を行う学校を地域が支える仕組みとして、26年度に「コミュニティ・スクール」を導入。村民の学校理解を深めて学校支援を形にするとともに、関わる大人たちも学び続けることによる村づくりの担い手育成も目指している。

教育委員会と合同で行う年3回の学校運営協議会に加え、より多くの関係者が参加して学校運営などを話し合うCS推進委員会を毎月1回ペースで開催。CS事務局を設置してコーディネーターやスタッフを配置し、支援ボランティアも組織化することで、スムーズな活動を整えた。

地域住民は「木島平ふるさと学習」（米作り、未来塾など）やクラブ活動などで講師を務めたり、読み聞かせを行ったり、小学校スキー部の活動を支援したりしながら、学校との関係を深めている。

また、毎年8月にコミュニティ・スクール研修会を実施。学校・行政・住民・生徒が一緒に、地域と共にある学校づくりを熟議してきた。8月20日に実施された本年度のコミュニティ・スクール研修会では、今後の「ふるさと学習」について熟議を行い、参加者が活発に意見を出し合った。

こうした取り組みの実施には、人口減少への危機感や村民の教育に寄せる熱い思いなどが背景にある。21世紀型の質の高い教育が村づくりの担い手を育て、地域活性化にもつながるという考えが、新たな学校モデルの構築につながった。

「木島平型教育」の導入を進めたことで、子どもたちの学びに向かう意欲向上や地域による学校支援の充実などの成果が出ている。

関係者は、「『木島平型教育』をさらに進め、地域と協力して子どもたちが人生を切り開いていけるようにしたい」と声をそろえた。

編集後記

今回の研修会で、本村の学校運営協議会のあり方が明確になった。日本教育新聞社編集局記者の渡部秀則さんがまとめていたように、近未来の日本の教育の姿にいち早く、当村が歩み出しているということだ。渡部氏の報告をもう一度引き合いに出すと次のようである。

木島平村が現在進めていることは？

保育園・小学校・中学校を貫く協働的な学びへの取り組み

・教育課程を4・3・2に区分した小中一貫教育

・「協同的な学び」（アクティブ・ラーニング）

・コミュニティ・スクール（CS）

※木島平ふるさと学習、CS研修会（熟議）など、学校と地域をはじめいろいろな人たちが協働した取り組みが行われている

⇨ これは、事例紹介した「学びの力で地域を元気に」する近未来の教育の姿に重なりませんか？

・保育園も入って取り組みを行っていることが、他地域にはないアドバンテージ

これまでの取り組みを充実、発展させることが、何より重要

平成２２年度に、木島平村の三つの小学校が統廃合した際、地域住民から要望のあった、新しい２１世紀型教育を進める過程で、本村が進めてきた３本の柱は、揺るぎもなく地域とともにある学校づくりとなっている。当日参加した中学生の感想を聞くと、次のように答えていた。

○ちょっと人ごとのように感じていたが、今日村の教育のことを話せて、私たちが学んでいることが身近に感じることができて良かったです。（中３女子）

○ベルマーク集めをやっているんですけど、木島平村全体でできるような考えを提案しました。（中１男子）

○いろいろな大人の人がいたので、自分考え方を見つめ直すことができて、自分の考え方が変わりました。（中２男子）

○脳を動かして勉強するという話が出て、確かに学校でもそいう勉強をしていて、役に立つし楽しいので良いと思いました。（中３女子）

これらの声を聞くと、子ども達の主体的に学ぶ姿がはっきりと現れていて、協同的な学びの成果が出ていることがはっきりと分かる。そして、小中学校の教育理念である「ふるさと木島平を心に刻む教育の実践」となっており、また学校目標である「心と体をひらいてまなぶ子ども」に成長してきている姿が明らかになってきていることがうかがえる。この子ども達が木島平を担う３０年後は、村長からの説明にもあったように人口３０００人の村を維持できるという確信を覚えるのは、私だけであろうか。

木島平村コミュニティ・スクール　コーディネーター　本山　育人

資料３　平成２８年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム参加報告

平成２８年度　地域とともにある学校づくり推進フォーラム（長野会場）参加報告

１　期日

平成２８年１１月１７日（木）１３：００～１６：３０

２　会場

ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）中ホール　（長野県長野市若里１－１－３）

３　日程及び内容

（１）13:00 ～ 13:10　主催者挨拶

長野県教育委員会　教育長　原山　隆一

（２）13:10 ～ 13:55　行政説明

文部科学省初等中等教育局参事官付

学校運営支援企画官　高見　太也

◇発表骨子

１　今なぜ、学校と地域の連携・協働が求められているのか

２　地域とともにある学校への転換

―コミュニティ・スクールの仕組み―

３　これからの学校と地域の協働体制の姿

参考　「次世代学校・地域」創生プラン

（３）14:00 ～ 15:00　実践発表

「コミュニティ・スクールの具体的な導入の在り方・充実に向けた方策」

○　発表者－１

大町市立美麻小学校

学校支援コーディネーター　　前川　浩一

◇発表骨子「地域ぐるみで育てる学校」

美麻小中学校コミュニティ・スクール…

１　大町市美麻地区について

２　住民自治のまち　美麻地域づくり会議について

３　学社融合から、コミュニティ・スクールへ

４　小中一貫コミュニティ・スクール、小規模地域特認校へ

５　学校支援隊・パートナー会議

６　学校支援ボランティア活動

７　総合学習の支援

８　住民主体のまちづくりとコミュニティ・スクール

○　発表者－２

山口市立潟上中学校　校長　　林　　英樹

◇発表骨子「コミュニティ・スクールの具体的な導入の在り方・充実に向けた方策」

1　山口市立仁保中学校の取組（Ｈ２４～２７）

＊山口市東部の山間部、全校生徒６１人、住民約３０００人
幼保小中１校、カリオンの鐘、天体望遠鏡

①　コミュニティ・スクール導入の意義

②　平成２４年度～２７年度に至る経緯と取組
（「０からのスタート」）

③　成果と課題

１）成果…「自己有用感」「ボランティア活動に対する意識の変容」「望ましい人間関係」「地域貢献と学校支援はうらおもて」「次世代を担う人材育成」

２）課題…「事業内容の精選」「取り組み方の見直し」「地域一体となったコミュニティ・スクール活動の推進（行政との連携）」「年間事業計画と基金の執行計画」「平日の定期的な地域交流（コミスクルームの活用）」「継続できる組織や制度の整備」「コミスク活動の意義や良さに基づいた保護者や教職員の意識改革」

2　山口市立潟上中学校の取組（Ｈ２８～）

＊山口市南部の田園地帯、３地域の小学校、１３６名、素直・温和、地域住民約６５００人

①　協育ネットコーディネーターの連携（４名）
・名田島小　・鋳銭司小　・陶小　・潟上中

②　コミスクルームの整備

③　名田島ちょうちん祭り、鋳銭司子ども教室（寺子屋）

3　おわりに

地域とともにある学校づくり

⇩

究極の幸福

学校 ⇔ 人に愛されること
人にほめられること
人の役に立つこと
人に必要とされること ⇔ 地域

Ｗｉｎ－Ｗｉｎの関係

○　コーディネーター
上越市立春日新田小学校校長　　大山　賢一
（文部科学省　ＣＳマイスター）

◇実践発表のまとめ

①　当事者意識をどう育てていくか。
・学校職員、地域住民、コーディネーター等

②　学校と地域の役割分担
・学校を通して地域コミュニティを育てる

③　「いい地域」と「いい学校」の好循環を作り出す。

④　他の地域のコミュニティ・スクールとの連携。

（４）15:00 ～ 15:15　　休憩・準備

（５）15:15 ～ 16:25　パネルディスカッション

「コミュニティ・スクールを核とした学校・家庭・地域の連携・協働に向けて」

◇パネリスト

・長野県諏訪市教育委員会　教育長　　小島　雅則　氏

・長野県上田市教育委員会生涯学習課　青少年指導員　伴　美佐子　氏

・山口県山口市教育委員会　山口ＣＳコンダクター　　長尾　　彰　氏

◇コーディネーター

日本大学文理学部

教授　佐藤　晴雄　氏（文科省コミュニティ・スクール企画員）

佐藤　学校と地域の連携の現状を、自己紹介を兼ねて、手短にお願いします。

小島　諏訪市は人口５万人である。そこの教育長。平成１８年度から１校だが、コミュニティ・スクールに取り組んでいる。

伴　平成２０年度から４年間、塩田中学校で、文科省の学校支援に関わってきた。今は上田市全域の学社連携のお手伝いをし、上田北小学校でコーディネーターをしている。

長尾　山口ＣＳコンダクターとして、山口県１９市町のコミュニティ・スクールの相談に、県から委託されている。ＣＳや小中一貫、研修会などのアドバイスをしている。

佐藤　ＣＳの現状を見て、意識の変化などあるか。

小島　学校が地域と一緒にやらなければならない時代だと思う。学校５日制が始まった頃、一つの制度としてＣＳが始まったが、ボランティア参加者が増えてきている。ボランティア保険の導入している。

　学校の敷居が低くなり、提案型のボランティアが出てきた。トラブルも出てきて、先生方の抵抗感がある。関わってよかったという思いや、みんなちがってみんないいという考えかたが大切か。

伴　上田市立北小学校でものづくりクラブのＡ君の言葉で、関わっていてよかったという思いだ。

長尾　山口県では３つの機能を持っている。「地域貢献」「学校支援」「学校経営資質向上」だ。人との関わりでは、明るく「笑顔」で交流するように努めている。

　課題としては、管理職のリーダーシップやマネージメントの向上だ。やらされ感が強い学校では低迷している。

佐藤　小島さんに伺います。どんな提案をしていますか。

小島　３．１１以来、「防災」を重点に考えている。学校だけでなく地域全体で取り組む。新しい試みとして、一昨年、下校途中での避難訓練を行った。

佐藤　伴さんに尋ねます。ＣＳに対してどんなイメージや印象を持っているか。

伴　平成２０年、塩田中は生徒指導上課題を抱えていた。問題行動を抱えている子どもへ支援ボランティアを募って、小さな関わりの積み上げから大きく変わってきた。

佐藤　管理職のリーダーシップについて、どんなタイプがあるか。

長尾　山口県では１００％コミュニティ・スクールを設置している。やってみようという共通理解のもと、やってみて初めて分かる部分がある。

リーダーシップを高めるには予算がいる。首長をつれて予算に配慮している。ＣＳ活動で、人のために３００万から５００万円　配分してる。「余ったら返すのか」という声もあるが、地域の中でも金を持っている。全市町が共通の考えの基でやっている。

佐藤　持続可能な仕組みを含めた環境づくりはどうなっているか。

伴　ＣＳは認知されている。学校は用が無いときは行きにくい。そこで、小学校のクラブ活動に「畑クラブ」というのがあった。開墾してクラブ活動をやろうということだ。講師は地域の皆さんにお願いする。すると、毎日畑を見にくるようになる。水やりの水が不便となると、水道を引こうということになり、毎日学校に抵抗なく入ってくるという事例があった。

佐藤　場づくりが大切だと思った。コミュニティルームなどがあると、もっと地域の人が学校に入りやすい。畑作業などは、持続的な取組になると言える。

小島　どういう組織をどういう形で当てはめるかという考えでなく、ゆっくりとやることが大切。ＣＳの設置状況を見ると、西日本に多く、東日本に少ない傾向がある。これは気質の問題だと思う。最初から型にはめないで、試行錯誤しながらやるとリーダーシップが出てくる。参加者の目線を大事にしたい。

佐藤　参加者の目線が大事なんですね。学校の目線だけだと窮屈感がでるのか。山口では協議の結果、どんな成果がでたのか。

長尾　ＣＳでは、学校経営の承認と言うより、共有していく。いろいろな意見が出るが、提案型ということで、運営や事業に参画していく。運営協議会に市会議員がいたりすると、学校の課題が解決することもある。

継続可能という面では、人や金などで、小中連携や学社連携をしていく。また、学校と社会教育委員との連携もある。地域が本気になってＣＳを盛り立てたら、学校担当の教員がコーディネーターを引き継ぐということもある。

佐藤　学校評価や学校設備の拡充、ＣＳの意識を高める面ではどうか。

長尾　まず、学校の先生の意識改革をしていくことだ。多忙感に追われているだけでは変わらない。意欲的になることで、子どもが良い方に変質し、教員の意識が高まる。次に、学校評価では、プラス面の評価をすること。また、情報公開も大切。そして地域の関わり方を学習するようなコーディネートをしていくこと。

佐藤　先生方の７５％が関われば、全体的に高まるというデータもある。

伴　地域の方の当事者意識が高まればいい。地域の方は泥船に乗ったつもりでいる。

コーディネーターは完璧を求めるのでなく、泥船でいいのではないか。伴泥船に乗ったら地域の方が漕いでいる。ボランティアの方はそこから自分の進む方向を見つける。そして夢を語り、今又青春という思いになる。

佐藤　学校と社会教育の間ではどうか。

小島　校長のマネージメントが大事になってくる。校長の立場としては、ビジョンを持って学校運営に活かせば、コーディネーターは校長となる。地域の素材を掘り起こすには、社会教育委員との関係が大きい。社会教育委員にも学校運営協議会に入ってもらう。人は権限では働かない。思いで働く。学校は社会の縦の系列に対して水平志向。そのために、いろんなジャンルの方に関わっていただくことが大切だ。

佐藤　社会教育主事を１０年やっていたが、ＣＳに関わってもまあなんとかなってきた。日本の学校は堅い。オーストラリア、イギリス、どこの学校に行っても、黒板とチョークを使っている学校はない。ＣＳは新しい仕組みを引き出す可能性がある。

長尾　学校と地域をベン図で表すとすれば、重なった部分をどう処理するのか。

小島　そんなに片意地張らなくてもいいのではないか。

伴　学校と家庭が重なり、それ全体を地域が包むという構図ではどうか。

小島　諏訪市では、先生方も地域人として、居住区の地域で活躍していただいている他、勤務先の地域の在り方を知っていただいている。

佐藤　役割分担とすれば、基本的な指導は家庭で、学習は学校でという情報が共有されていない。

学校運営委員会での承認は、一つの健康診断のようなものであり、意見は、学

校運営に対する要望、提案、アイディア提供になる。情報発信は、いつどこで何を出すのか求められている。これをＳＭＣＲといっている。Ｓ－送り手　Ｍ－メッセージ　Ｃ－チャンネル（いろいろな媒体）　Ｒ－リセット。

佐藤　最後にこれぞＣＳということを一言で。

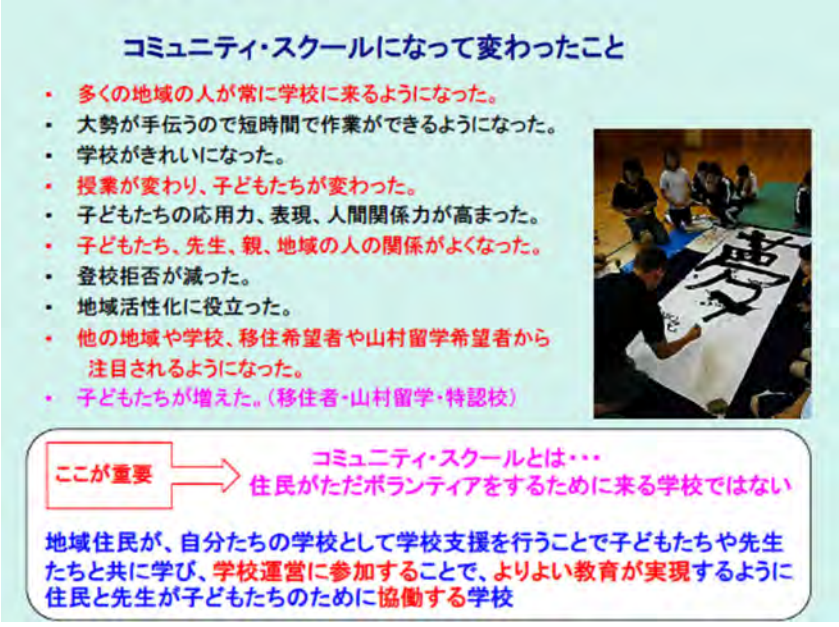
小島　Ｇさんが言っていた言葉。「死ぬ気でやれば大人が育つ」

伴　「ボランティアをすると寿命が７年延びる。」

長尾　不登校の子どもと花を生けた。地域の方のやりがいから、「学校支援と地域おこしは裏表―みんなＨＡＰＰＹに」

佐藤　ありがとうございました。

（６）16:25 ～ 16:30　閉会行事



大町市立美麻小学校
学校支援コーディネーター
　前川　浩一　さんの
発表資料より

山口市立潟上中学校　校長

林　　英樹　さんの発表資料より

資料4　村と協定する大学分類一覧表

木島平村との協定大学一覧

（太字は教育委員会との協定大学）

	大学名	名称	協定先	協定の目的	活動内容(H28)	担当課・係	開始年度	更新等
1	**金沢大学**	**域学連携協定書**	**地域連携推進センター長**	**糠千地区を中心とした活動を通じて、活力ある集落づくりと交流による教育事業の推進に寄与**	**・出張講義(5/27「地域創造学」) ・「糠千集落お試しツアー」開催(7/2～3) ・まちづくりインターンシップの受け入れ(8/17～27) ・学園祭「金大祭」で区民と学生と共同出店(10/29) ・「農村版大学コンソーシアム木島平校」や集落行事への学生の参加 ・定期的な域学連携協議会の開催**	**教育委員会生涯学習係**	**Ｈ２５**	**H28.4.14更新 以降自動更新**
2	**國學院大學**	**共同研究教育交流事業に関する協定書**	**大学院委員長**	**村所有民族文化財等に関する研究教育事業を円滑かつ着実に実施するため**	**・村内古文書の整理と目録作成 9/5～9/8 36人（学生27　院生7　教員2） ・農村交流館に宿泊して、中村の一川谷大元神社(倉科幸広神主家所蔵)古文書約600点の整理、目録作成。**	**教育委員会生涯学習係**	**Ｈ２６**	**自動更新**
3	早稲田大学	連携・協力に関する協定書	教務部長	人材育成と学術・文化・地域社会の発展に寄与	・実践型産官学連携プロジェクト（通称：プロフェッショナルズワークショップ）の受け入れによる地域活性化策の提案。 （学生８面参加:8/3 ～ 9, 9/25 ～ 27） ・早稲田大学及び村公認サークル「わせだいら」への活動支援（ゼロ予算）	総務課 政策情報係	Ｈ２６	自動更新
4	東京農業大学	連携に関する協定書	学長	木島平村における地域活性化と東京農業大学における教育・研究の充実に寄与	・１年農業（農家）研修受け入れ 8/22 ～ 26　14 人、 受け入れ農家９軒	産業課 農林係	Ｈ２６	自動更新
5	**東京大学**	**教育・研究交流連携事業に関する協定書**	**大学院教育学研究科長**	**木島平村における教育・研究交流による地域活性化と東京大学における教育・研究事業の充実に寄与**	**・教育実習受入れ(8/29～9/16 4名) ・寺子屋ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（教育実習に併せて） ・木島平小学校６年生修学旅行時東大訪問**	**教育委員会子育て支援係**	**Ｈ２６**	**自動更新**
6	**桐朋学園**	**相互友好協力協定書**	**理事長**	**文化芸術、教育、学術等の分野で援助、協力することにより相互発展を図るため**	**・村内での音楽演奏（小中学校等） ・からす踊り関係**	**教育委員会生涯学習係**	**Ｈ２７**	**自動更新**

資料5　木島平村立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則

平成２７年６月１２日教育委員会規則第１号

木島平村立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則

（趣旨）

第１条　この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第４７条の５の規定により設置する学校運営協議会（以下「協議会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　協議会は、学校運営に関する木島平村教育委員会（以下「教育委員会」という。）及び校長の権限と責任の下、村民及び保護者等（以下「村民等」という。）の学校運営への参画等を進めることにより、学校と村民等との信頼関係を深め、教育力を相互に高め、共に子どもたちの豊かな学びと育ちの創造に取り組むことを目的とする。

（指定）

第３条　教育委員会は、前条の目的が十分達成できると認められるときは、協議会を置く学校を指定することができる。

２　教育委員会は、前項の指定に当たっては、指定しようとする学校の校長及び村民等の意見を反映するよう努めなければならない。

３　指定の期間は３年とし、再指定することができる。

（委員）

第４条　協議会の委員（以下「委員」という。）は、２０名以内とし、次の各号に掲げる者のうちから、教育委員会任命する。

（１）村民

（２）木島平小学校及び木島平中学校に在籍する児童又は生徒の保護者

（３）当該学校の校長及び教職員

（４）関係行政機関の職員

（５）学識経験者

（６）前各号のほか教育委員会が適当と認める者

２　委員の一部については、公募することができる。

３　校長は、委員を推薦することができる。

４　委員の定数は、校長と協議のうえ、教育委員会が定める。

５　委員に欠員が生じたときは、新たに委員を任命することができる。

６　第１項第１号、第２号、第５号及び第６号で任命された委員は、地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）第３条第３項に規定する特別職の地方公務員とする。

（任期）

第５条　委員の任期は１年とし、再任を妨げない。

２　前条第５項により、新たに任命された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

３　第１項の規定にかかわらず、協議会の指定の期間が満了したとき又は指定が取り消されたときは、委員はその身分を失う。

（守秘義務）

第６条　委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

２　前項のほか、委員は次の各号に掲げる行為をしてはならない。

（１）協議会及び学校の運営に支障をきたす言動を行うこと。
（２）委員としての地位を営利行為、政治活動、宗教活動等に不当に利用すること。
（３）委員たるにふさわしくない非行を行うこと。
（報酬）
第７条　委員の報酬は、別に定める。
（所掌事項）
第８条　校長は、次の各号に掲げる事項について、協議会の承認を得るものとする。
（１）教育目標及び経営方針
（２）教育課程の編成に関する基本方針
（３）学校予算の編成及び執行に関する基本方針
（４）その他校長が認める事項
２　校長は、前項の規定により承認を得た前項各号に掲げる基本方針等に基づき、学校運営を行うものとする。
（運営についての意見）
第９条　協議会は、学校の運営に関する事項について、教育委員会又は校長に対して、意見を述べることができる。
２　協議会は、学校の職員の採用その他の任用に関する事項について、当該任命権者に対して意見を述べることができる。この場合において、当該職員が県費負担教職員（市町村立学校職員給与負担法（昭和２３年法律第１３５号）第１条に規定する職員をいう。）であるときは、教育委員会を経由するものとする。
３　協議会は、前２項の規定により教育委員会に対して意見を述べるときは、あらかじめ、校長の意見を聴取するものとする
（運営への参画等）
第 10 条　協議会は、学校の運営について、村民等の理解、協力、参画等が促進されるように努めるものとする。
（運営に関する評価及び情報発信）
第 11 条　協議会は、学校の運営状況等の評価を年１回行うとともに、保護者、村民等に対して、その活動の状況に関する情報の発信に努めるものとする。
（情報の提供及び説明）
第 12 条　校長及び教育委員会は、協議会が適切な活動を行えるよう、情報の提供及び説明に務めるものとする。
（児童又は生徒の意見の聴取）
第 13 条　協議会は、校長の同意を得て、児童又は生徒の意見を聴取することができる。この場合において、児童又は生徒の発達段階に応じ、必要な配慮をしなければならない。
（会長及び副会長）
第 14 条　協議会に、会長及び副会長を置き、委員の互選により選出する。
２　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
３　副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を行う。
（会議）
第 15 条　会長は、協議会の会議を招集し、議事を掌る。
２　会議は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

３　議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。
４　会長は、必要があるときは、校長から報告及び説明を求めることができる。
５　会長は、会議録を調整し、保管しなければならない。

（コミュニティ・スクール推進委員会）

第 16 条　会長は、第 10 条に規定する運営への参画等を具体的に進めるため、協議会に、コミュニティ・スクール推進委員会を置くことができる。

２　コミュニティ・スクール推進委員は、協議会の委員のほかに、村民や学校職員から会長が委嘱する。

３　推進委員会の運営については、副会長が統率する。

（指導及び助言）

第 17 条　教育委員会は、協議会の運営状況等について的確に把握し、必要に応じて協議会に対して指導及び助言を行うことができる。

２　協議会に顧問を置き、顧問は協議会の運営全般について、指導及び助言を行うことができる。

（指定の取消し）

第 18 条　　教育委員会は、協議会の運営が著しく適正を欠くことにより、学校の運営に著しい支障が生じ、又は生じるおそれがあるときは、指定を取り消さなければならない。

（解任）

第 19 条　　教育委員会は、本人から辞任の申し出があったときのほか、次の各号の内容に該当すると認められるときは、委員を解任することができる。

（１）第６条の義務に違反したとき。
（２）委員が心身の故障のために職務を遂行することができないとき。
（３）その他、解任に相当する事由が認められるとき。

（事務局）

第 20 条　協議会の事務局は、教育委員会事務局とし、庶務を処理する。

（委任）

第 21 条　この規則において別に定めることとされている事項及びこの規則の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

この規則は平成２８年８月、一部を改正する。

平成28年度 木島平村学校運営協議会委員　　平成28年10月1日より

NO	氏　　名	区　　分	所属等
1	芳野佐太郎	○村民	有識者（防災）
2	岩井真里子		有識者（文化）（社教委員）
3	小林　直喜		有識者（芸文協）（社教委員）
4	嘉部美津子		有識者（図書委員長）（社教委員）
5	高橋　英子		有識者（スポーツ）（社教委員）
6	小林　惠子		有識者（文化伝承）
7	渡辺　　孝		NPO代表（地域創生）
8	池田　　剛		NPO代表（教育）
9	湯本　幸伸	○保護者	小学校PTA会長
10	上野　雅之		中学校PTA会長
11	山屋　秀夫	○学校・保育園	小学校長
12	関　　孝志		中学校長
13	小林　乙枝		おひさま保育園長
14	阿部　　弘	○関係行政機関	社会教育委員長
15	大崎　森雄		区長会長
16	山浦　謙三		民生児童委員会長
17	山崎　澄人		放課後子ども教室指導員

◇オブザーバー

1	内堀　幸夫	教育委員会	教育長
2	齊藤　定善		教育長職務代理
3	佐藤　秀雄		教育委員
4	山﨑　麻紀		教育委員
5	本山三智子		教育委員

◇CS推進委員会事務局

1	髙森　喜久	教育委員会事務局	教育次長
2	土屋　聖史		公民館長
3	土屋伸二郎		生涯学習係長
4	芳川　秀人		子育て支援係
5	関川あかね	小中学校	木島平小学校教頭
6	龍野　正和		木島平中学校教頭
7	本山　育人	教育委員会事務局	CSコーディネーター

平成２８年度　木島平村学校運営協議会

コミュニティ・スクール推進事業報告書

〔第３年次報告〕

２０１７年3月３１日　発行

編　集　　木島平村学校運営委員会　ＣＳ推進委員会
発行者　　内堀　幸夫（木島平村教育長）
発行所　　木島平村教育委員会
　　〒３８９－２３９２　長野県下高井郡木島平村往郷９７３－１
　　ＴＥＬ　０２６９－８２－３１１１
　　ＦＡＸ　０２６９－８２－４１２１
　　E-mail kyoiku@kijimadaira.jp
印　刷　木島平村学校運営協議会
製　本　木島平村学校運営協議会